

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6967274号
(P6967274)

(45) 発行日 令和3年11月17日 (2021.11.17)

(24) 登録日 令和3年10月27日 (2021.10.27)

(51) Int.Cl. F 1
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0

請求項の数 1 (全 71 頁)

(21) 出願番号	特願2017-247637 (P2017-247637)	(73) 特許権者	599104196
(22) 出願日	平成29年12月25日 (2017.12.25)		株式会社サンセイアールアンドディ
(65) 公開番号	特開2019-111188 (P2019-111188A)		愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番13号
(43) 公開日	令和1年7月11日 (2019.7.11)	(74) 代理人	110000291
審査請求日	令和2年11月20日 (2020.11.20)		特許業務法人コスモス国際特許商標事務所
		(72) 発明者	土屋 良孝
			愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内
		(72) 発明者	川添 智久
			愛知県名古屋市中区丸の内2丁目11番13号 株式会社サンセイアールアンドディ内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第1条件の成立により、遊技者に有利な特別遊技状態にするか否かの判定を行うための判定情報を含む情報を取得する取得手段と、

第2条件の成立により、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記判定を行う判定手段と、

前記第2条件が成立する前に、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記特別遊技状態になるか否かの事前判定を行う事前判定手段と、

所定の表示手段を含む演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出実行手段と、を備え、

前記演出実行手段は、

前記取得手段によって情報が取得されることに応じて、前記表示手段に所定の保留図柄を表示することがあり、

前記保留図柄の表示を開始する際に、前記表示手段の第1表示領域に前記保留図柄の表示を開始するときと、前記保留図柄を、前記表示手段の前記第1表示領域とは異なる第2表示領域に前記保留図柄の表示を開始するときと、があり、

前記第1表示領域および前記第2表示領域の何れに前記保留図柄の表示を開始する場合でも、前記事前判定の結果に基づいて、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆しない通常表示態様で前記保留図柄の表示を開始するときと、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様で前記保留図柄の表示を開始することがあり、

前記第 1 表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示を開始した場合でも、前記第 2 表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示を開始した場合でも、所定のタイミングで、前記保留図柄の表示態様を前記特別表示態様に变化させることがあり、

前記第 1 表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示が開始された場合と、前記第 2 表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示が開始された場合とで、前記保留図柄の表示態様が前記特別表示態様に变化する確率が互いに異なる、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ遊技機に代表される遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の遊技機では、始動条件の成立に基づいた判定を行い、判定の結果に基づいて、特別遊技（大当たり遊技）を行う。例えば、遊技球が始動口に入賞（入球）することによって判定を行い、特別遊技として、大入賞口の開放を伴うラウンド遊技を行う。大入賞口に遊技球を入賞させることで多数の賞球を得ることができる。判定の結果は、図柄表示手段において、図柄の変動表示を行ってから停止表示させ、図柄の停止態様によって遊技者に示される。

【0003】

また、遊技機では、保留されている判定の権利数が遊技者に示される。例えば、液晶上に、4 個を上限に保留図柄が表示される。

【0004】

また、遊技機では、保留図柄を用いた演出が行われる。例えば、液晶上に表示されている保留図柄の表示態様を变化させる保留変化演出が行われる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2017 - 131646 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

保留図柄を用いた演出に関し、改善の余地がある。改善した演出を搭載することにより、遊技の興趣向上を見込める。

【0007】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものである。すなわち、その課題とするところは、遊技の興趣を向上させることが可能な遊技機を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本明細書に開示される遊技機は、第 1 条件の成立により、遊技者に有利な特別遊技状態にするか否かの判定を行うための判定情報を含む情報を取得する取得手段と、第 2 条件の成立により、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記判定を行う判定手段と、前記第 2 条件が成立する前に、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記特別遊技状態になるか否かの事前判定を行う事前判定手段と、所定の表示手段を含む演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出実行手段と、を備え、前記演出実行手段は、前記取得手段によって情報が取得されることに応じて、前記表示手段に所定の保留図柄を表示することがあり、前記保留図柄の表示を開始する際に、前記表示手段の第 1 表示領域に前記保留図柄の表示を開始するときと、前記保留図柄を、前記表示手段の前記第 1 表示領域とは異なる第 2 表示領域に前記保留図柄の表示を開始するときと、があり、前記第 1 表示領域および前記第 2 表示領域の何れに前記保留図柄の表示を開始する場合でも、前記

10

20

30

40

50

事前判定の結果に基づいて、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆しない通常表示態様で前記保留図柄の表示を開始すると、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様で前記保留図柄の表示を開始することがあり、前記第1表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示を開始した場合でも、前記第2表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示を開始した場合でも、所定のタイミングで、前記保留図柄の表示態様を前記特別表示態様に变化させることがあり、前記第1表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示が開始された場合と、前記第2表示領域に前記通常表示態様で前記保留図柄の表示が開始された場合とで、前記保留図柄の表示態様が前記特別表示態様に变化する確率が互いに異なる、ことを特徴としている。

【発明の効果】

10

【0009】

本発明によれば、演出を通じて遊技の興趣向上に寄与する遊技機を提供することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】遊技機の斜視図である。

【図2】遊技機の正面図である。

【図3】遊技盤ユニットの正面図である。

【図4】第2大入賞装置等を詳細に示す正面図である。

【図5】表示器類の正面図である。

20

【図6】(A)は盤後可動装置が待機状態のときの演出用ユニットの正面図、(B)は盤後下可動装置が作動したときの演出用ユニットの正面図、(C)は盤後上可動装置が作動したときの演出用ユニットの正面図、(D)は盤後下可動装置および盤後上可動装置が作動したときの演出用ユニットの正面図である。

【図7】主制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。

【図8】サブ制御基板側の電気的な構成を示すブロック図である。

【図9】(A)は普図関係乱数を示す表であり、(B)は特図関係乱数を示す表である。

【図10】(A)は当たり判定テーブルであり、(B)は普図変動パターン判定テーブルであり、(C)は補助遊技制御テーブルである。

【図11】(A)は大当たり判定テーブルであり、(B)は大当たり図柄種別判定テーブルであり、(C)はリーチ判定テーブルである。

30

【図12】特図1変動パターン判定テーブルである。

【図13】特図2変動パターン判定テーブルである。

【図14】先読み判定テーブルの第1の具体例である。

【図15】大当たり遊技制御テーブルである。

【図16】遊技状態の説明図である。

【図17】客待ち演出モードの具体例を示す説明図である。

【図18】通常演出モード、確変演出モードおよび時短演出モードの具体例を示す説明図である。

【図19】大当たり演出モードの具体例を示す説明図である。

40

【図20】リーチ無しハズレの特図変動演出の具体例を示す説明図である。

【図21】特図変動演出が開始してからリーチになるまでの具体例を示す説明図である。

【図22】Nリーチからハズレを示す演出図柄の停止表示が行われる場合と大当たりを示す演出図柄の停止表示が行われる場合の具体例を示す説明図である。

【図23】可動体演出の具体例を示す説明図である。

【図24】SPリーチの具体例を示す説明図である。

【図25】SPリーチの具体例であり、図24の続きを示す説明図である。

【図26】SPリーチの具体例であり、図25の続きを示す説明図である。

【図27】SPリーチの具体例であり、図26の続きを示す説明図である。

【図28】保留演出の具体例を示す説明図である。

50

【図 29】主制御メイン処理のフローチャートである。

【図 30】メイン側タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図 31】サブ制御メイン処理のフローチャートである。

【図 32】1 m s タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図 33】10 m s タイマ割り込み処理のフローチャートである。

【図 34】先読み判定テーブルの第 2 の具体例である。

【図 35】演出モードを示す説明図である。

【図 36】保留アイコン表示領域および当該アイコン表示領域を示す説明図である。

【図 37】保留アイコンおよび当該アイコンの表示態様を示す説明図である。

【図 38】(A) は保留変化演出選択テーブルであり、(B) は当該保留変化演出選択テーブルであり、(C) は保留台座演出選択テーブル A であり、(D) は保留台座演出選択テーブル B である。

10

【図 39】保留変化演出の具体例を示す説明図である。

【図 40】当該保留変化演出の具体例を示す説明図である。

【図 41】保留台座演出の第 1 の具体例を示す説明図である。

【図 42】保留台座演出の第 2 の具体例を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明の遊技機の実施形態を、図面を参照して具体的に説明する。参照される各図において、同一の部分には同一の符号を付し、同一の部分に関する重複する説明を原則として省略する。なお、本明細書では、記述の簡略化上、情報、信号、物理量又は部材等を参照する記号又は符号を記すことによって、該記号又は符号に対する情報、信号、物理量又は部材等の名称を省略又は略記することがある。また、後述の任意のフローチャートにおいて、任意の複数のステップにおける複数の処理は、処理内容に矛盾が生じない範囲で、任意に実行順序を変更できる又は並列に実行できる。

20

【0012】

1. 遊技機の構造

本発明の遊技機の実施形態であるパチンコ遊技機 P Y 1 について説明する。最初に、パチンコ遊技機 P Y 1 の構造について図 1 ~ 図 6 を用いて説明する。なお、以下の説明において、パチンコ遊技機 P Y 1 の各部の左右上下方向は、そのパチンコ遊技機 P Y 1 に対面する遊技者にとっての（正面視の）左右上下方向のことである。また、「前方」は、パチンコ遊技機 P Y 1 から当該パチンコ遊技機 P Y 1 に対面する遊技者に近づく方向とし、「後方」は、パチンコ遊技機 P Y 1 に対面する遊技者から当該パチンコ遊技機 P Y 1 に近づく方向とする。

30

【0013】

図 1 及び図 2 に示すように、パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技機枠 2 を備えている。遊技機枠 2 は、後述する遊技盤ユニット Y U が取り付けられる遊技盤取付枠 2 A と、遊技盤取付枠 2 A にヒンジ 2 B を介して回転自在に支持される前枠 2 3 m と、を備える。前枠 2 3 m は遊技盤取付枠 2 A に対して開閉が可能である。前枠 2 3 m には、透明板 2 3 t が取り付けられている。前枠 2 3 m が閉じられているとき、遊技盤取付枠 2 A に取り付けられた遊技盤 1 と透明板 2 3 t とは対面する。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 が遊技店に設置されると、当該パチンコ遊技機 P Y 1 の前方にいる遊技者は、透明板 2 3 t を通して、遊技盤 1 に形成された遊技領域 6 を視認することができる。透明板 2 3 t は、透明なガラス板や透明な合成樹脂板等を用いることができる。パチンコ遊技機 P Y 1 の前方から遊技領域 6 を視認可能であればよい。

40

【0014】

前枠 2 3 m の前面の右下部には、遊技球を発射させるための回転操作が可能なハンドル 7 2 k が設けられている。ハンドル 7 2 k が操作された量（回転角度）が、遊技球を発射させるために遊技球に与えられる力（後述する発射装置 7 2 が発射ソレノイド 7 2 s に駆動させる量）の大きさ（発射強度）に対応付けられている。よって、遊技球は、ハンドル

50

7 2 k の回転操作に応じた発射強度で発射される。また、前枠 2 3 m の前面の下部中央には、前方に向けて大きく突出した下部装飾体 3 6 が設けられている。下部装飾体 3 6 の上面には、ハンドル 7 2 k に供給される遊技球を貯留するための上皿 3 4 が形成されている。また、下部装飾体 3 6 の正面の下部中央には、上皿 3 4 に収容しきれない余剰の遊技球を貯留するための下皿 3 5 が設けられている。

【 0 0 1 5 】

下部装飾体 3 6 の上面の上皿 3 4 より前方側には、下方に押下操作可能な第 1 入力装置（以下「半球型ボタン」）4 0 が設けられている。また、前枠 2 3 m の表面の右縁部から前方に突出して形成されている右部装飾体 3 2 において、下方に押下操作可能な第 2 入力装置（以下「剣型ボタン」）4 1 が設けられている。

10

【 0 0 1 6 】

また、前枠 2 3 m の表面の上部から前方に突出して形成されている上部装飾体 3 1 の底面に、音を出力可能なスピーカ 5 2 が設けられている。スピーカ 5 2 は、左側に配置された左スピーカ 5 2 L と、右側に配置された右スピーカ 5 2 R と、からなる。また、前枠 2 3 m の右縁部と、下部装飾体 3 6 における正面の下皿 3 5 の左側および右側とに、発光可能な枠ランプ 5 3 が設けられている。さらに、前枠 2 3 m の左縁部および右縁部の上側には、遊技興趣を高めることを目的とする演出装置としての可動式の枠可動装置 5 8 が取り付けられている。枠可動装置 5 8 は、左側に配置された左枠可動装置 5 8 L と、右側に配置された右枠可動装置 5 8 R と、で構成される。

【 0 0 1 7 】

20

なお、遊技機枠 2 に設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 1 8 】

次に、遊技盤ユニット Y U について、主に図 3 ～ 図 6 を用いて説明する。遊技盤ユニット Y U は、遊技盤 1 と、遊技盤 1 の背面側に取り付けられた演出用ユニット 1 U と、を有する。最初に、遊技盤 1 について説明する。遊技盤 1 は透明な合成樹脂板で構成されている。遊技盤 1 の略中央には正面視略円形の開口部 1 A が形成されている。開口部 1 A に沿って、遊技球が流下可能な遊技領域 6 を区画するための略リング状の内側壁部 1 B が前方に突出して形成されている。また、内側壁部 1 B の外側にも、遊技領域 6 を区画するための略リング状の外側壁部 1 C が前方に突出して形成されている。

30

【 0 0 1 9 】

遊技盤 1 の前面には、内側壁部 1 B、外側壁部 1 C などによって囲まれた遊技領域 6 が形成されている。すなわち、遊技盤 1 の前面が、内側壁部 1 B および外側壁部 1 C によって、遊技領域 6 とそれ以外の領域とに仕切られている。

【 0 0 2 0 】

遊技領域 6 は、ハンドル 7 2 k の操作によって発射された遊技球が流下可能な領域であり、パチンコ遊技機 P Y 1 で遊技を行うために設けられている。なお、遊技領域 6 には、多数の遊技くぎ（図示なし）が突設されている。遊技くぎは、遊技領域 6 に進入して遊技領域 6 を流下する遊技球を、後述する第 1 始動口 1 1、第 2 始動口 1 2、一般入賞口 1 0、ゲート 1 3、第 1 大入賞口 1 4、および、第 2 大入賞口 1 5 などに適度に誘導する経路を構成している。

40

【 0 0 2 1 】

遊技領域 6 における内側壁部 1 B の中央直下には、上方が開口した第 1 始動口 1 1 が形成された第 1 始動入賞装置 1 1 D が設けられている。第 1 始動口 1 1 の左下には、右側方が開口した第 2 始動口 1 2 が設けられている。第 2 始動口 1 2 の右脇には、第 2 始動口 1 2 への入球を可能または不可能にさせる第 2 始動入賞装置（所謂「電チュー」）1 2 D が設けられている。

【 0 0 2 2 】

第 1 始動入賞装置 1 1 D は不動である。そのため、第 1 始動口 1 1 は、遊技球の入球し易さが変化せずに一定（不変）である。遊技球の第 1 始動口 1 1 への入賞は、第 1 特別図

50

柄（以下、「特図１」という）の抽選（後述の特図１関係乱数の取得と判定：以下、「特図１抽選」という）および特図１の可変表示の契機となっている。また、遊技球が第１始動口１１へ入賞すると、所定個数（例えば４個）の遊技球が賞球として払い出される。

【００２３】

電チュー１２Ｄは、作動可能な電チュー開閉部材１２ｋを備えている。電チュー開閉部材１２ｋは平面視で左斜め下方向に下降する略横長長方形の舌状片からなる。平面視で、電チュー開閉部材１２ｋの上面左端が、第２始動口１２の最下点の右隣に位置する。電チュー開閉部材１２ｋは、通常は（通常状態では）その先端（前方側側面）が遊技領域６、すなわち遊技盤１の前面辺りに位置するよう、遊技盤１より後方に収納されている。電チュー開閉部材１２ｋはその収納されている状態から前後方向に移動（進退）することができる。そして、特別状態になると、電チュー開閉部材１２ｋが前方へ移動する。電チュー開閉部材１２ｋが前方へ移動すると、電チュー開閉部材１２ｋが第２始動口１２への誘導する経路となる。よって、電チュー開閉部材１２ｋが遊技領域６より後方に収納された通常状態では、この誘導する経路がないので、第２始動口１２へ遊技球を入球させることはほとんど不可能である。このように、電チュー開閉部材１２ｋが突出状態になることを第２始動口１２または電チュー１２Ｄの「開状態」ともいい、開状態であるときだけ遊技球の第２始動口１２への入球が可能となる。一方、電チュー開閉部材１２ｋが収納されている状態を第２始動口１２または電チュー１２Ｄの「閉状態」ともいう。このように、電チュー開閉部材１２ｋの作動によって第２始動口１２が開閉する。また、第２始動口１２または電チュー１２Ｄが「開状態」になることを「電チュー１２Ｄが開放する」ともいい、電チュー１２Ｄが「閉状態」になることを「電チュー１２Ｄが閉鎖する」ともいう。

【００２４】

遊技球の第２始動口１２への入賞は、第２特別図柄（以下、「特図２」という）の抽選（後述の特図２関係乱数の取得と判定：以下、「特図２抽選」という）および特図２の可変表示の契機となっている。また、遊技球が第２始動口１２へ入賞すると、所定個数（例えば４個）の遊技球が賞球として払い出される。

【００２５】

また、遊技領域６における第１始動入賞装置１１Ｄの左側には、２つの一般入賞口１０が設けられている。また、電チュー１２Ｄの右側には、１つの一般入賞口１０が設けられている。遊技球が一般入賞口１０へ入賞すると、所定個数（例えば３個）の遊技球が賞球として払い出される。

【００２６】

また、遊技盤１の開口部１Ａの右斜め下側に、遊技球が通過可能なゲート１３が設けられている。遊技球のゲート１３の通過は、普通図柄（以下、「普図」という）の抽選（すなわち普通図柄乱数の取得と判定：以下、「普図抽選」という）および普図の可変表示の契機となっている。補助遊技が実行されることによって電チュー１２Ｄを開放する。すなわち、補助遊技は、電チュー１２Ｄの開放を伴う遊技である。

【００２７】

また、遊技領域６における第１始動入賞装置１１Ｄの右側でゲート１３の直下には、第１大入賞口１４が形成された第１大入賞装置１４Ｄ（以下、「通常ＡＴ１４Ｄ」ともいう）が設けられている。

【００２８】

第１大入賞装置１４Ｄは、開状態と閉状態とをとる通常ＡＴ開閉部材１４ｋを備える。通常ＡＴ開閉部材１４ｋの作動により第１大入賞口１４が開閉する。通常ＡＴ開閉部材１４ｋは正面視略横長矩形の平板からなり、通常は第１大入賞口１４を塞いでいる。通常ＡＴ開閉部材１４ｋは下端を中心に、上端が前方へ倒れるように略９０度回転することができる。通常ＡＴ開閉部材１４ｋが回転すると、通常ＡＴ開閉部材１４ｋが遊技領域６に垂直に突出した状態になり、流下する遊技球を受け止めて第１大入賞口１４の中に入球させる。このように、通常ＡＴ開閉部材１４ｋが開状態であるときだけ遊技球の第１大入賞口１４への入球が可能となる。遊技球が第１大入賞口１４へ入賞すると、所定個数（例え

ば14個)の遊技球が賞球として払い出される。

【0029】

また、遊技領域6における第1大入賞装置14Dの直下には、その上面が左斜め下方に形成され、遊技球を第2始動口12へ誘導する誘導ステージ12gが遊技領域6(遊技盤1の前面)から前方に突出して設けられている。なお、誘導ステージ12gの上面を転動する遊技球は、第2始動口12の方へ向かって流下可能であるが、基本的には第1始動口11へ入賞することはできない。

【0030】

遊技領域6におけるゲート13や第1大入賞口14の右斜め上方、換言すると、上流側に、第2大入賞口15が形成された第2大入賞装置15D(以下、「VAT15D」ともいう)が設けられている。第2大入賞装置15Dは、作動可能なVAT開閉部材15kを備えている。VAT開閉部材15kは正面視で羽根のような形状を呈している棒状体であり、通常は水平方向に対して略90度の姿勢で保持され、第2大入賞口15を塞いでいる。VAT開閉部材15kは下端を中心に、上端が左側へ倒れるように略70度回転し、開状態をとることができる。VAT開閉部材15kが開状態であるときだけ遊技球の第2大入賞口15への入球が可能となる。一方、VAT開閉部材15kが第2大入賞口15を塞いでいる状態を「閉状態」ともいう。このように、VAT開閉部材15kの作動によって第2大入賞口15が開閉する。遊技球が第2大入賞口15へ入賞すると、所定個数(例えば14個)の遊技球が賞球として払い出される。

【0031】

ここで、図4を用いて、第2大入賞装置15Dについて詳細に説明する。第2大入賞装置15Dの内部には、第2大入賞口15に入球した遊技球を検知し、遊技球を下方へ通過させることが可能なゲート状の第2大入賞口センサ15aが設けられている。

【0032】

第2大入賞口センサ15aの下流域には、遊技球が通過(進入)可能な特定領域16と非特定領域17とが設けられている。第2大入賞口センサ15aを通過した遊技球は、振分装置16Dによって、特定領域16か非特定領域17かに振り分けられる。振分装置16Dは、略矩形状の平板からなる振分部材16kと、振分部材16kを駆動する振分ソレノイド16sとを備えている。振分部材16kは、振分ソレノイド16sの駆動により、左右にスライド可能に構成されている。

【0033】

振分ソレノイド16sが通電されていないとき、振分部材16kは特定領域16への遊技球の通過を妨げる第1状態(通過阻止状態:図4(A)の正面視で振分部材16kの左端が特定領域16の左端よりやや右側に位置し、振分部材16kが特定領域16をその直上で覆う状態)にある。振分部材16kが第1状態にあるときは、第2大入賞口15に入賞した遊技球は、第2大入賞口センサ15aを通過した後、特定領域16を通過することは不可能であり、非特定領域17を通過する。この第2大入賞口15から非特定領域17まで流下する遊技球のルートを第1のルートという。

【0034】

一方、振分ソレノイド16sが通電されているとき、振分部材16kは遊技球の特定領域16の通過(進入)を許容する第2状態(通過許容状態:図4(B)の正面視で振分部材16kの左端が特定領域16の右端よりやや左側に位置し、振分部材16kが特定領域16をその直上で覆わず、特定領域16の直上が開放している状態)にある。振分部材16kが第2状態にあるときは、第2大入賞口15に入賞した遊技球は、第2大入賞口センサ15aを通過したあと特定領域16を通過容易である。この第2大入賞口15から特定領域16まで流下する遊技球のルートを第2のルートという。

【0035】

なお、基本的に、振分部材16kは第1状態で保持されている。すなわち、第1状態が、振分部材16kの通常の状態であるといえる。そして、後述する大当たり遊技の最後のラウンド遊技(16R)においてのみ、振分ソレノイド16sが通電され、第2状態に変

10

20

30

40

50

化することができる。

【 0 0 3 6 】

特定領域 1 6 と非特定領域 1 7 には、各領域 1 6、1 7 を通過（進入）した遊技球を検知し、遊技球を下方へ通過させる特定領域センサ 1 6 a、非特定領域センサ 1 7 a が設けられている。

【 0 0 3 7 】

なお、第 1 大入賞装置 1 4 D および第 2 大入賞装置 1 5 D は、遊技に支障をきたさない範囲で、一方だけを設けるようにすることが可能である。

【 0 0 3 8 】

また図 3 に示すように、遊技領域 6 の略最下部には、遊技領域 6 へ打ち込まれたもののいずれの入賞口にも入賞しなかった遊技球を遊技領域 6 の外部へ排出する 2 つのアウト口 1 9 が設けられている。

10

【 0 0 3 9 】

ところで、遊技球が流下可能な遊技領域 6 は、左右方向の中央より左側の左遊技領域（第 1 遊技領域）と、右側の右遊技領域（第 2 遊技領域）と、に分けることができる。遊技球が左遊技領域を流下するように遊技球を発射させるハンドル 7 2 k の操作態様を「左打ち」という。一方、遊技球が右遊技領域を流下するように遊技球を発射させるハンドル 7 2 k の操作態様を「右打ち」という。パチンコ遊技機 P Y 1 において、左打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第 1 流路 R 1 といい、右打ちにて遊技球を発射したときに遊技球が流下可能な流路を、第 2 流路 R 2 という。第 1 流路 R 1 および第 2 流路 R 2 は、多数の遊技くぎなどによっても構成されている。

20

【 0 0 4 0 】

第 1 流路 R 1 上には、第 1 始動口 1 1 と、2 つの一般入賞口 1 0 と、が設けられている。よって、遊技者は、左打ちにより第 1 流路 R 1 を流下するように遊技球を発射させることで、第 1 始動口 1 1、または、一般入賞口 1 0 への入賞を狙うことができる。一方、第 2 流路 R 2 上には、第 2 始動口 1 2 と、ゲート 1 3 と、第 1 大入賞口 1 4 と、第 2 大入賞口 1 5 と、が設けられている。よって、遊技者は、右打ちにより第 2 流路 R 2 を流下するように遊技球を発射させることで、ゲート 1 3 の通過や、第 2 始動口 1 2、第 1 大入賞口 1 4、または、第 2 大入賞口 1 5 への入賞を狙うことができる。

【 0 0 4 1 】

30

なお、何れの入賞口（第 1 始動口 1 1、第 2 始動口 1 2、一般入賞口 1 0、第 1 大入賞口 1 4、および第 2 大入賞口 1 5）にも入球しなかった遊技球は、アウト口 1 9 へ誘導されて排出される。また、各入賞口への入賞による賞球数は、適宜に設定することが可能である。

【 0 0 4 2 】

また、遊技盤 1 の前面に形成された遊技領域 6 の下方の左隣（遊技領域 6 以外の部分）には表示器類 8 が配置されている。図 5 に示すように、表示器類 8 には、特図 1 を可変表示する特図 1 表示器 8 1 a、特図 2 を可変表示する特図 2 表示器 8 1 b、及び、普図を可変表示する普図表示器 8 2 が含まれている。また、表示器類 8 には、後述する特図 1 保留数（U 1：特図 1 表示器 8 1 a による特図 1 の可変表示が保留されている数）を表示する特図 1 保留表示器 8 3 a、および後述する特図 2 保留数（U 2：特図 2 表示器 8 1 b による特図 2 の可変表示が保留されている数）を表示する特図 2 保留表示器 8 3 b が含まれている。

40

【 0 0 4 3 】

特図 1 の可変表示は、第 1 始動口 1 1 への遊技球の入賞を契機に特図 1 抽選が行われると実行される。また、特図 2 の可変表示は、第 2 始動口 1 2 への遊技球の入賞を契機に特図 2 抽選が行われると実行される。なお、以下の説明では、特図 1 および特図 2 を総称して特図といい、特図 1 抽選および特図 2 抽選を総称して特図抽選という。また、特図 1 表示器 8 1 a および特図 2 表示器 8 1 b を総称して特図表示器 8 1 という。さらに、特図 1 保留表示器 8 3 a および特図 2 保留表示器 8 3 b を総称して特図保留表示器 8 3 という。

50

【 0 0 4 4 】

特図の可変表示は、特図抽選の結果を報知する。特図の可変表示では、特図が可変表示したあと停止表示する。停止表示される特図（停止特図、可変表示の表示結果として導出表示される特別図柄）は、特図抽選によって複数種類の特図の中から選択された一つの特図である。停止特図が予め定めた特定の特図（特定の停止態様の特図すなわち大当たり図柄）である場合には、大入賞口（第 1 大入賞口 1 4 及び第 2 大入賞口 1 5）を開放させる大当たり遊技（特別遊技の一例）が行われる。

【 0 0 4 5 】

特図表示器 8 1 は、例えば横並びに配された 8 個の L E D（L i g h t E m i t t i n g D i o d e）から構成され、その点灯態様によって特図抽選の結果に応じた特図を表示する。例えば特図抽選の結果が大当たり（後述の複数種類の大当たりのうちの一つ）である場合には、特図表示器 8 1 は、「
」（
：点灯、
：消灯）というように左から 1, 2, 5, 6 番目にある L E D の点灯で構成される大当たり図柄を表示する。また、特図抽選の結果がハズレである場合には、特図表示器 8 1 「

」というように一番右にある L E D のみの点灯で構成されるハズレ図柄を表示する。なお、特図抽選の結果に対応する L E D の点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。よって、例えば、ハズレ図柄として全ての L E D を消灯させてもよい。

【 0 0 4 6 】

また、特図の可変表示において、特図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって特図の可変表示がなされる。特図の可変表示の態様は、例えば左から右へ光が繰り返し流れるように各 L E D が点灯する態様である。なお、特図の可変表示の態様は、特に限定されず、各 L E D が停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全 L E D が一斉に点滅するなど適宜に設定してよい。

【 0 0 4 7 】

ところで、パチンコ遊技機 P Y 1 では、第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 への遊技球の入賞（入球）があると、特図抽選などを行うための各種乱数（数値情報や判定情報の一例）が取得されることがある。この各種乱数は、特図保留として後述の特図保留記憶部 1 0 5 に一旦記憶される。なお、以下において、第 1 始動口 1 1 への遊技球の入賞（入球）により取得された各種乱数のことを「特図 1 関係乱数」といい、第 2 始動口 1 2 への遊技球の入賞（入球）により取得された各種乱数のことを「特図 2 関係乱数」という。ここで、特図 1 関係乱数は、特図 1 保留として、特図保留記憶部 1 0 5 の中の特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶される。一方、特図 2 関係乱数は、特図 2 保留として、特図保留記憶部 1 0 5 の中の特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶される。特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶可能な特図 1 保留の数（特図 1 保留数）および特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶可能な特図 2 保留の数（特図 2 保留数）には上限（例えば 4 個）を設定することが可能である。なお、以下において、特図 1 保留と特図 2 保留を総称して「特図保留」といい、特図 1 保留数と特図 2 保留数を総称して「特図保留数」という。また、特図 1 関係乱数と特図 2 関係乱数とを総称して「特図関係乱数」という。

【 0 0 4 8 】

パチンコ遊技機 P Y 1 では、遊技球が第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 へ入賞した後すぐに特図の可変表示が行われない場合、具体的には、特図の可変表示の実行中や大当たり遊技の実行中に入賞があった場合、その入賞に対する特図の可変表示（あるいは、特図抽選の権利）を留保することができる。特図保留記憶部 1 0 5 に記憶された特図保留は、その特図保留に基づく特図の可変表示が可能となったときに消化される。すなわち、特図保留の消化とは、その特図保留に対応する特図関係乱数等を判定して、その判定結果を示すための特図の可変表示を実行することをいう。

【 0 0 4 9 】

そして、特図保留数は、特図保留表示器 8 3 に表示される。特図 1 保留表示器 8 3 a と特図 2 保留表示器 8 3 b のそれぞれは、例えば 4 個の L E D で構成されており、特図保留数の分だけ L E D を点灯させることにより特図保留数を表示することが可能である。

【 0 0 5 0 】

また、普図の可変表示は、普図抽選の結果を報知する。普図の可変表示では、普図が可変表示したあと停止表示する。停止表示される普図（停止普図、可変表示の表示結果として導出表示される普図）は、普図抽選によって複数種類の普図の中から選択された一つの普図である。停止表示された普図が予め定めた特定の普図（所定の停止態様の普図すなわち当たり図柄）である場合には、第2始動口12（電チュー12D）を開放させる補助遊技が行われる。

【 0 0 5 1 】

普図表示器82は、例えば2個のLEDから構成されており、その点灯態様によって普図抽選の結果に応じた普図を表示する。普図抽選の結果が当たりである場合には、普図表示器82は、「 」（ ：点灯、 ：消灯）というように両LEDの点灯で構成される当たり図柄を表示する。また普図抽選の結果がハズレである場合には、「 」というように右のLEDのみの点灯で構成されるハズレ図柄を表示する。ハズレ図柄として全てのLEDを消灯させる態様を採用してもよい。なお、普図抽選の結果に対応するLEDの点灯態様は限定されず、適宜に設定することができる。

10

【 0 0 5 2 】

また、普図が停止表示される前には所定の変動時間にわたって普図の可変表示が行われる。普図の可変表示の態様は、例えば両LEDが交互に点灯するという態様である。なお、普図の可変表示の態様は、特に限定されず、各LEDが停止表示（特定の態様での点灯表示）されていなければ、全LEDが一斉に点滅するなど適宜に設定してもよい。

20

【 0 0 5 3 】

パチンコ遊技機PY1では、遊技球がゲート13を通過すると、普図抽選を行うための普通図柄乱数（数値情報や判定情報の一例）が取得されることがある。この乱数は、普図の可変表示または補助遊技が実行されていないことを条件に、後述の普図保留記憶部106に記憶される。普図保留記憶部106に記憶可能な普図保留の数（普図保留数）には上限（例えば4個）を設定することが可能である。なお、以下において、遊技球がゲート13を通過することにより取得された普通図柄乱数のことを「普図関係乱数」ともいう。

【 0 0 5 4 】

次に、図6を用いて、遊技盤1の背面に取り付けられた演出用ユニット1Uについて説明する。演出用ユニット1Uは、主に演出を行う複数の装置をユニット化したものである。演出用ユニット1Uには、画像表示装置50、第1盤可動装置（以下「盤前可動装置」）55、第2盤可動装置（以下「盤後可動装置」）56、および第3盤可動装置（以下「ロゴ役物装置」）57が搭載されている。

30

【 0 0 5 5 】

画像表示装置50は、例えば20インチの3D液晶ディスプレイ2枚で構成され、3D画像を表示可能な表示部50aを具備する。

【 0 0 5 6 】

盤前可動装置55は、例えばさらにその中で上に配置される盤前上可動装置55UL、55URと、下に配される盤前下可動装置55Dと、を備え、盤前上可動装置55ULは、移動可能に構成され、主に前面部分が立体的な装飾が施された盤前上左可動体55ULkを具備する。盤前上可動装置55URは、移動可能に構成され、主に前面部分が立体的な装飾が施された盤前上右可動体55URkを具備する。盤前下可動装置55Dは、移動可能に構成され、主に前面部分に立体的な装飾が施された盤前下可動体55Dkを具備する。

40

【 0 0 5 7 】

盤後可動装置56は、例えばさらにその中で上側に配置される盤後上可動装置56Uと、下側に配される盤後下可動装置56Dと、を備え、盤後上可動装置56Uは、移動可能に構成され、平面的な装飾が施された盤後上可動体56Ukを具備する。盤後下可動装置56Dは、移動可能に構成され、平面的な装飾が施された盤後下可動体56Dkを具備する。

50

【 0 0 5 8 】

ロゴ役物装置 5 7 は、例えばパチンコ遊技機 P Y 1 の題材である主人公キャラクター「ロゴ」のロゴタイプ「L・O・G・O」が前面側に施されたロゴ可動体 5 7 k を備え、ロゴ可動体 5 7 k は、表示部 5 0 a に沿って平面的に上昇および下降が可能に構成される。

【 0 0 5 9 】

図 6 (A) は、盤後上可動体 5 6 U k および盤後下可動体 5 6 D k が作動していない通常の待機状態（初期位置）で保持されている様子を概略化して表している。盤後上可動体 5 6 U k および盤後下可動体 5 6 D k は、前後方向に略直交する平面上、言い換えると、画像表示装置 5 0 の表面に沿って上下方向に移動可能である（上昇および下降が可能である）。そして、盤後上可動装置 5 6 U および盤後下可動装置 5 6 D のそれぞれの駆動源が駆動すると、盤後下可動体 5 6 D k は正面視でその上端が画像表示装置 5 0 の高さ方向中央あたりに位置するように上向きに移動する（上昇する）（図 6 (B) 参照）。一方、盤後上可動体 5 6 U k は正面視でその下端が画像表示装置 5 0 の高さ方向中央あたりに位置するように下向きに移動する（下降する）（図 6 (C) 参照）。その結果、正面視で画像表示装置 5 0 の高さ方向中央あたりで、盤後上可動体 5 6 U k と盤後下可動体 5 6 D k とが上下方向に接合して合体し、それぞれの表面に施された模様（デザイン）が全体で一つになり、パチンコ遊技機 P Y 1 の題材である主人公キャラクターの顔を表す（図 6 (D) 参照）。このとき、画像表示装置 5 0 の大部分は合体した盤後上可動体 5 6 U k と盤後下可動体 5 6 D k に覆われるので、画像表示装置 5 0 は視認困難となる。

【 0 0 6 0 】

なお、遊技盤ユニット Y U に設けられる部材や装置の位置や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 6 1 】

2 . 遊技機の電氣的構成

次に、図 7 ~ 図 8 に基づいて、パチンコ遊技機 P Y 1 における電氣的な構成を説明する。図 7 ~ 図 8 に示すように、パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、後述する遊技状態の設定、普図抽選、普図の可変表示、補助遊技などの遊技利益に関する制御（遊技の進行）を行う遊技制御基板（以下「主制御基板」）1 0 0、主制御基板 1 0 0 による遊技の進行に応じた遊技演出（特図変動演出、保留演出、大当たり遊技演出）、客待ち演出、半球型ボタン 4 0 や剣型ボタン 4 1 の操作が有効な期間（操作有効期間）において操作を促す操作促進演出などの演出に関する制御を行う演出制御基板（以下「サブ制御基板」）1 2 0、および、遊技球の払い出しに関する制御などを行う払出制御基板 1 7 0 等を、遊技盤 1 の画像表示装置 5 0 よりさらに背面側に備えている。主制御基板 1 0 0 を、遊技の制御を行う遊技制御部と位置づけることができる。また、サブ制御基板 1 2 0 を、後述する画像制御基板 1 4 0、ランプ制御回路 1 5 1、および音声制御回路 1 6 1 とともに、演出の制御を行う演出制御部と位置づけることができる。なお、演出制御部は、少なくともサブ制御基板 1 2 0 を備え、演出手段（画像表示装置 5 0、スピーカ 5 2、枠ランプ 5 3、盤ランプ 5 4、および、可動装置 5 5、5 6、5 7 等）を用いた遊技演出、客待ち演出、および操作促進演出を制御可能であればよい。

【 0 0 6 2 】

また、パチンコ遊技機 P Y 1 は、電源基板 1 9 0 を備えている。電源基板 1 9 0 は、主制御基板 1 0 0、サブ制御基板 1 2 0、及び払出制御基板 1 7 0 に対して電力を供給するとともに、これらの基板を介してその他の機器に対して必要な電力を供給する。電源基板 1 9 0 には、バックアップ電源回路 1 9 2 が設けられている。バックアップ電源回路 1 9 2 は、パチンコ遊技機 P Y 1 に対して電力が供給されていない場合に、後述する主制御基板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 やサブ制御基板 1 2 0 の演出用 R A M 1 2 4 に対して電力を供給する。従って、主制御基板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 やサブ制御基板 1 2 0 の演出用 R A M 1 2 4 に記憶されている情報は、パチンコ遊技機 P Y 1 の電断時であっても保持される。また、電源基板 1 9 0 には、電源スイッチ 1 9 1 が接続されている。電源スイッチ 1 9 1 の O N / O F F 操作により、電源の投入 / 遮断が切り換えられる。なお、主制

御基板 100 の遊技用 RAM 104 に対するバックアップ電源回路を主制御基板 100 に設けたり、サブ制御基板 120 の演出用 RAM 124 に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板 120 に設けたりしてもよい。

【0063】

図 7 に示すように、主制御基板 100 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 PY1 の遊技の進行を制御する遊技制御用ワンチップマイコン（以下「遊技制御用マイコン」）101 が実装されている。遊技制御用マイコン 101 には、遊技の進行を制御するためのプログラムやテーブル等を記憶した遊技用 ROM (Read Only Memory) 103、ワークメモリとして使用される遊技用 RAM (Random Access Memory) 104、および遊技用 ROM 103 に記憶されたプログラムを実行する遊技用 CPU (Central Processing Unit) 102 が含まれている。

10

【0064】

遊技用 ROM 103 には、後述する主制御メイン処理やメイン側タイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。また、遊技用 ROM 103 には、後述する大当たり判定テーブル、大当たり図柄種別判定テーブル、リーチ判定テーブル、特図変動パターン判定テーブル、先読み判定テーブル、大当たり遊技制御テーブル、当たり判定テーブル、普図変動パターン判定テーブル、補助遊技制御テーブルなどが格納されている。なお、遊技用 ROM 103 は外付けであってもよい。また、遊技用 RAM 104 には、前述した特図保留記憶部 105 や普図保留記憶部 106 などが設けられている。

【0065】

20

また、主制御基板 100 には、データや信号の入出力を行うための遊技用 I/O (Input/Output) ポート部 118、および遊技用 RAM 104 に記憶されている情報を遊技用 CPU 102 にクリアさせるための RAM クリアスイッチ 119 が実装されている。

【0066】

主制御基板 100 には、所定の中継基板（図示なし）を介して各種センサ類やソレノイド類が接続されている。そのため、主制御基板 100 には、各種センサ類が出力した信号が入力する。また、主制御基板 100 は、各種ソレノイド類に信号を出力する。

【0067】

主制御基板 100 に接続されている各種センサ類には、第 1 始動口センサ 11a、第 2 始動口センサ 12a、一般入賞口センサ 10a、ゲートセンサ 13a、第 1 大入賞口センサ 14a、第 2 大入賞口センサ 15a、特定領域センサ 16a、および、非特定領域センサ 17a が含まれている。

30

【0068】

第 1 始動口センサ 11a は、第 1 始動口 11 に入賞した遊技球を検知する。第 2 始動口センサ 12a は、第 2 始動口 12 に入賞した遊技球を検知する。一般入賞口センサ 10a は、一般入賞口 10 に入賞した遊技球を検知する。ゲートセンサ 13a は、ゲート 13 に設けられており、ゲート 13 を通過した遊技球を検知する。第 1 大入賞口センサ 14a は、第 1 大入賞口 14 に入賞した遊技球を検知する。第 2 大入賞口センサ 15a は、第 2 大入賞口 15 に入賞した遊技球を検知する。特定領域センサ 16a は、特定領域 16 を通過（特定領域 16 に進入）した遊技球を検知する。非特定領域センサ 17a は、非特定領域 17 を通過（非特定領域 17 に進入）した遊技球を検知する。各センサは、遊技球を検知すると、その検知内容に応じた信号を主制御基板 100 に出力する。

40

【0069】

なお、主制御基板 100 に接続されるセンサの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【0070】

また、主制御基板 100 に接続されている各種アクチュエーター類には、電チューソレノイド 12s、第 1 大入賞口ソレノイド 14s、第 2 大入賞口ソレノイド 15s および振分ソレノイド 16s が含まれている。電チューソレノイド 12s は、電チュー 12D の電

50

チュー開閉部材 1 2 k を駆動する。第 1 大入賞口ソレノイド 1 4 s は、第 1 大入賞装置 1 4 D の通常 A T 開閉部材 1 4 k を駆動する。第 2 大入賞口ソレノイド 1 5 s は、第 2 大入賞装置 1 5 D の V A T 開閉部材 1 5 k を駆動する。振分ソレノイド 1 6 s は、振分装置 1 6 D の振分部材 1 6 k を駆動する。

【 0 0 7 1 】

なお、主制御基板 1 0 0 に接続されるアクチュエーターの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 7 2 】

さらに主制御基板 1 0 0 には、表示器類 8 (特図表示器 8 1、普図表示器 8 2、および、特図保留表示器 8 3) が接続されている。これらの表示器類 8 の表示制御は、遊技制御用マイコン 1 0 1 によりなされる。

【 0 0 7 3 】

また主制御基板 1 0 0 は、払出制御基板 1 7 0 に各種コマンドを送信するとともに、払い出し監視のために払出制御基板 1 7 0 から信号を受信する。払出制御基板 1 7 0 には、カードユニット C U (パチンコ遊技機 P Y 1 に隣接して設置され、挿入されているプリペイドカード等の情報に基づいて球貸しを可能にするもの)、および賞球払出装置 7 3 が接続されているとともに、発射制御回路 1 7 5 を介して発射装置 7 2 が接続されている。なお、発射装置 7 2 には、ハンドル 7 2 k (図 1 参照) が含まれる。

【 0 0 7 4 】

払出制御基板 1 7 0 は、遊技制御用マイコン 1 0 1 からの信号や、接続されたカードユニット C U からの信号に基づいて、賞球払出装置 7 3 の賞球モーター 7 3 m を駆動して賞球の払い出しを行ったり、貸球の払い出しを行ったりする。払い出される遊技球は、その計数のための賞球センサ 7 3 a により検知されて、賞球センサ 7 3 a による検知信号が払出制御基板 1 7 0 に出力される。

【 0 0 7 5 】

また、発射装置 7 2 には、遊技者などの人のハンドル 7 2 k (図 1 参照) への接触を検知可能なタッチスイッチ 7 2 a が設けられている。遊技者によるハンドル 7 2 k の操作があった場合には、タッチスイッチ 7 2 a が遊技者のハンドル 7 2 k への接触を検知し、検知信号を払出制御基板 1 7 0 に出力する。また、発射装置 7 2 には、ハンドル 7 2 k の回転角度 (操作量) を検出可能な発射ボリュームつまみ 7 2 b が接続されている。発射装置 7 2 は、発射ボリュームつまみ 7 2 b が検出したハンドル 7 2 k の回転角度に応じた強さで遊技球が発射されるよう発射ソレノイド 7 2 s を駆動させる。なお、パチンコ遊技機 P Y 1 においては、ハンドル 7 2 k への回転操作が維持されている状態では、約 0 . 6 秒毎に 1 球の遊技球が発射されるようになっている。

【 0 0 7 6 】

また主制御基板 1 0 0 は、遊技の進行に応じて、サブ制御基板 1 2 0 に対し、遊技に関する情報を含んだ各種コマンドを送信する。サブ制御基板 1 2 0 は、主制御基板 1 0 0 から送られる各種コマンドに基づいて、主制御基板 1 0 0 による遊技の進行状況 (遊技の制御内容) を把握することができる。なお、主制御基板 1 0 0 とサブ制御基板 1 2 0 との接続は、主制御基板 1 0 0 からサブ制御基板 1 2 0 への信号の送信のみが可能な単方向通信接続となっている。すなわち、主制御基板 1 0 0 とサブ制御基板 1 2 0 との間には、通信方向規制手段としての図示しない単方向性回路 (例えばダイオードを用いた回路) が介在している。

【 0 0 7 7 】

図 8 に示すように、サブ制御基板 1 2 0 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 P Y 1 の演出を制御する演出制御用ワンチップマイコン (以下「演出制御用マイコン」) 1 2 1 が実装されている。演出制御用マイコン 1 2 1 には、主制御基板 1 0 0 による遊技の進行に伴って演出を制御するためのプログラム等を記憶した演出用 R O M 1 2 3、ワークメモリとして使用される演出用 R A M 1 2 4、および演出用 R O M 1 2 3 に記憶されたプログラムを実行する演出用 C P U 1 2 2 が含まれている。

【 0 0 7 8 】

また、演出用ROM123には、後述するサブ制御メイン処理、受信割り込み処理、1msタイマ割り込み処理、および、10msタイマ割り込み処理などを行うためのプログラムが格納されている。なお、演出用ROM123は外付けであってもよい。

【 0 0 7 9 】

また、サブ制御基板120には、データや信号の入出力を行うための演出用I/Oポート部138、およびRTC(Real Time Clock)139が実装されている。RTC139は、現時点の日時(日付及び時刻)を計測する。RTC139は、パチンコ遊技機PY1に、所定の島電源供給装置(図示なし)から電力が供給されているときにはその電力によって動作し、島電源供給装置から電力が供給されていないときには、電源基板190が備えるバックアップ電源回路192から供給される電力によって動作する。このため、RTC139は、パチンコ遊技機PY1の電源が投入されていないときにも現在の日時を計測することが可能である。なお、RTC139に対するバックアップ電源回路をサブ制御基板120に設けてもよい。バックアップ電源回路には、コンデンサや内蔵電池(ボタン電池等)を含む回路を採用することができる。

10

【 0 0 8 0 】

サブ制御基板120には、画像制御基板140が接続されている。サブ制御基板120の演出制御用マイコン121は、主制御基板100から受信したコマンドに基づいて、すなわち、主制御基板100による遊技の進行に応じて、画像制御基板140の画像用CPU141に画像表示装置50の表示制御を行わせる。なお、サブ制御基板120と画像制御基板140との接続は、サブ制御基板120から画像制御基板140への信号の送信と、画像制御基板140からサブ制御基板120への信号の送信の双方が可能な双方向通信接続となっている。

20

【 0 0 8 1 】

画像制御基板140は、画像制御のためのプログラム等を記憶した画像用ROM142、ワークメモリとして使用される画像用RAM143、及び、画像用ROM142に記憶されたプログラムを実行する画像用CPU141を備えている。また、画像制御基板140は、画像表示装置50に表示される画像のデータを記憶したCGROM145、CGROM145に記憶されている画像データの展開等に使用されるVRAM146、及び、VDP(Video Display Processor)144を備えている。勿論、これらの電子部品の全部又は一部がワンチップで構成されていてもよい。CGROM145には、例えば、画像表示装置50に表示される画像を表示するための画像データ(静止画データや動画データ、具体的にはキャラクタ、アイテム、図形、文字、数字および記号等(演出図柄を含む)や背景画像等の画像データ)が格納されている。

30

【 0 0 8 2 】

VDP144は、演出制御用マイコン121からの指令に基づき画像用CPU141によって作成されるディスプレイリストに従って、CGROM145から画像データを読み出してVRAM146内の展開領域に展開する。そして、展開した画像データを適宜合成してVRAM146内のフレームバッファに画像を描画する。そしてフレームバッファに描画した画像をRGB信号として画像表示装置50に出力する。これにより、種々の演出画像が表示部50aに表示される。

40

【 0 0 8 3 】

なお、ディスプレイリストは、フレーム単位で描画の実行を指示するためのコマンド群で構成されている。ディスプレイリストには、描画する画像の種類、画像を描画する位置、表示の優先順位、表示倍率、画像の透過率等の種々のパラメータの情報が含まれている。

【 0 0 8 4 】

演出制御用マイコン121は、主制御基板100から受信したコマンドに基づいて、すなわち、主制御基板100による遊技の進行に応じて、音声制御回路161を介してスピーカ52から音声、楽曲、効果音等を出力する。

50

【 0 0 8 5 】

スピーカ 5 2 から出力する音声等の音声データは、サブ制御基板 1 2 0 の演出用 R O M 1 2 3 に格納されている。なお、音声制御回路 1 6 1 を、基板にして C P U を実装してもよい。この場合、その C P U に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板に R O M を実装し、その R O M に音声データを格納してもよい。また、スピーカ 5 2 を画像制御基板 1 4 0 に接続し、画像制御基板 1 4 0 の画像用 C P U 1 4 1 に音声制御を実行させてもよい。さらにこの場合、画像制御基板 1 4 0 の画像用 R O M 1 4 2 に音声データを格納してもよい。

【 0 0 8 6 】

また、サブ制御基板 1 2 0 には、所定の中継基板（図示なし）を介して、入力部となる各種スイッチ類、駆動源となる各種アクチュエーター類、各種ランプ類が接続されている。サブ制御基板 1 2 0 には、各種スイッチ類が出力した信号が入力する。また、サブ制御基板 1 2 0 は、各種アクチュエーター類に信号を出力する。また、サブ制御基板 1 2 0 は、主制御基板 1 0 0 から受信したコマンドなどに基づいて、ランプ制御回路 1 5 1 を介して各種ランプ類の点灯制御を行う。

【 0 0 8 7 】

サブ制御基板 1 2 0 に接続されている各種スイッチ類には、半球型ボタン検出スイッチ 4 0 a および剣型ボタン検出スイッチ 4 1 a が含まれている。半球型ボタン検出スイッチ 4 0 a は、半球型ボタン 4 0 が押下操作されたことを検出する。剣型ボタン検出スイッチ 4 1 a は、剣型ボタン 4 1 が押下操作されたことを検出する。各検出スイッチ 4 0 a , 4 1 a は、検出内容に応じた信号をサブ制御基板 1 2 0 に出力する。

【 0 0 8 8 】

なお、サブ制御基板 1 2 0 に接続されるスイッチの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 8 9 】

サブ制御基板 1 2 0 に接続された各種アクチュエーター類には、左枠可動体モーター 5 8 L m、右枠可動体モーター 5 8 R m、盤前上可動体モーター 5 5 U m、盤前下可動体モーター 5 5 D m、盤後上可動体モーター 5 6 U m、盤後下可動体モーター 5 6 D m、およびロゴ可動体モーター 5 7 m が含まれている。左枠可動体モーター 5 8 L m は、左枠可動装置 5 8 L を駆動して、所定の動作を行わせることが可能である。右枠可動体モーター 5 8 R m は、右枠可動装置 5 8 R を駆動して、所定の動作を行わせることが可能である。盤前上可動体モーター 5 5 U m は、盤前上可動体 5 5 U L k , 5 5 U R k を駆動して、それぞれ所定の動作を行わせることが可能である。盤前下可動体モーター 5 5 D m は、盤前下可動体 5 5 D k を駆動して、表示部 5 0 a 上をスライドさせることが可能である。盤後上可動体モーター 5 6 U m は、盤後上可動体 5 6 U k を駆動して、表示部 5 0 a 上をスライドさせることが可能である。盤後下可動体モーター 5 6 D m は、盤後下可動体 5 6 D k を駆動して、表示部 5 0 a 上をスライドさせることが可能である。ロゴ可動体モーター 5 7 m は、ロゴ可動体 5 7 k を駆動して、所定の動作を行わせることが可能である。詳細には演出制御用マイコン 1 2 1 は、盤前上可動体 5 5 U L k , 5 5 U R k、盤前下可動体 5 5 D k、盤後上可動体 5 6 U k、および盤後下可動体 5 6 D k の動作態様を決める動作パターンデータを作成し、ランプ制御回路 1 5 1 を介して、盤前上可動体 5 5 U L k , 5 5 U R k、盤前下可動体 5 5 D k、盤後上可動体 5 6 U k、および盤後下可動体 5 6 D k の動作を制御する。また演出制御用マイコン 1 2 1 は、ロゴ可動体 5 7 k の動作態様を決める動作パターンデータを作成し、ランプ制御回路 1 5 1 を介して、ロゴ可動体 5 7 k の動作を制御する。

【 0 0 9 0 】

なお、サブ制御基板 1 2 0 に接続されるアクチュエーターの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 9 1 】

サブ制御基板 1 2 0 に接続された各種ランプ類には、枠ランプ 5 3（左枠発光装置 5 3

10

20

30

40

50

L、右枠発光装置 5 3 R) および盤ランプ 5 4 (盤後上点発光装置 5 4 U a、盤後上面発光装置 5 4 U b、盤後下点発光装置 5 4 D a、盤後下面発光装置 5 4 D b) が含まれる。詳細には演出制御用マイコン 1 2 1 は、枠ランプ 5 3 および盤ランプ 5 4 の発光態様を決める発光パターンデータ (点灯/消灯や発光色等を決めるデータ、ランプデータともいう) を作成し、発光パターンデータに従って枠ランプ 5 3 および盤ランプ 5 4 の発光を制御する。なお、発光パターンデータの作成にはサブ制御基板 1 2 0 の演出用 R O M 1 2 3 に格納されているデータを用いる。

【 0 0 9 2 】

なお、ランプ制御回路 1 5 1 を基板にして C P U を実装してもよい。この場合、その C P U に、枠ランプ 5 3 および盤ランプ 5 4 等の点灯制御、および、盤前可動装置 5 5、盤後可動装置 5 6、ロゴ役物装置 5 7 および枠可動装置 5 8 等の動作制御を実行させてもよい。さらにこの場合、基板に R O M を実装して、その R O M に発光パターンや動作パターンに関するデータを格納してもよい。また、サブ制御基板 1 2 0 に接続されるランプの種類や数は、遊技に支障をきたさない範囲で適宜に変更可能である。

【 0 0 9 3 】

3 . 遊技機による主な遊技

次に、パチンコ遊技機 P Y 1 により行われる主な遊技について、図 9 ~ 図 1 6 を用いて説明する。

【 0 0 9 4 】

3 - 1 . 普図に関わる遊技

最初に、普図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球がゲート 1 3 を通過すると、普図抽選を行う。普図抽選を行うと、普図表示器 8 2 において、普図の可変表示 (変動表示を行った後に停止表示) を行う。ここで、停止表示される普図には、当たり図柄とハズレ図柄とがある。なお、普図のハズレ図柄については、後述する特図のハズレ図柄と区別をするために「ハズレ普図」ともいう。当たり図柄が停止表示されると補助遊技が実行されて、当該ゲート 1 3 の通過に係る遊技が終了する。一方、ハズレ普図が停止表示されると、補助遊技は行われず、当該ゲート 1 3 の通過に係る遊技が終了する。また、以下において、普図の可変表示または補助遊技が行われていないときに遊技球がゲート 1 3 を通過することを「普図変動始動条件の成立」という。

【 0 0 9 5 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、このような一連の遊技 (普図抽選、普図の可変表示、補助遊技) を行うにあたり、普図変動始動条件の成立により、普図関係乱数を取得する。取得する普図関係乱数には、図 9 (A) に示すように、普通図柄乱数がある。普通図柄乱数は当たり判定を行うための乱数 (判定情報) である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。

【 0 0 9 6 】

3 - 1 - 1 . 当たり判定

当たり判定は、図 1 0 (A) に示すような当たり判定テーブルを用いて、当たりか否か (補助遊技を実行するか否か) を決定するための判定である。当たり判定テーブルは、後述する遊技状態に関連付けることが可能である。すなわち、当たり判定テーブルには、非時短状態で用いる当たり判定テーブル (非時短用当たり判定テーブル) と、時短状態で用いる当たり判定テーブル (時短用当たり判定テーブル) と、がある。各当たり判定テーブルでは、当たり判定の結果である当たりとハズレに、普通図柄乱数の判定値 (普通図柄乱数値) が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した普通図柄乱数を当たり判定テーブルに照合して、当たりかハズレかの当たり判定を行う。そして、当たり判定の結果に基づいて、普図の可変表示を行うための普図変動パターン判定を行う。当たり判定の結果が当たりであると、基本的には、普図の可変表示で当たり図柄が停止表示される。一方、当たり判定の結果がハズレであると、基本的には、普図の可変表示でハズレ普図が停止表示される。また、当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

【 0 0 9 7 】

3 - 1 - 2 . 普図変動

普図変動パターン判定は、図 1 0 (B) に示すような普図変動パターン判定テーブルを用いて、普図変動パターンを決定するための判定である。普図変動パターンとは、普図変動時間などの普図の可変表示に関する所定事項に関する識別情報である。

【 0 0 9 8 】

普図変動パターン判定テーブルは、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に関連付けることが可能である。すなわち、普図変動パターン判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（非時短普図変動パターン判定テーブル）と時短状態のときに用いられる普図変動パターン判定テーブル（時短普図変動パターン判定テーブル）とがある。

10

【 0 0 9 9 】

各普図変動パターン判定テーブルには、普図変動パターン判定の結果である普図変動パターンが、停止される普図毎に 1 つ格納されている。すなわち、パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態においてと時短状態においてとで、普図変動時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態においては、ハズレの普図（ハズレ普図）を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 3 0 秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 3 0 秒となる普図変動パターンに決定する。また、時短状態においては、ハズレ普図を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 5 秒となる普図変動パターンに決定し、当たり図柄を停止表示する場合の普図の可変表示については普図変動時間が例えば 5 秒となる普図変動パターンに決定する。この判定で決定された普図変動パターンに対応付けられた普図変動時間の普図の可変表示が、普図表示器 8 2 で行われる。また、これら普図変動時間については、適宜に変更することが可能である。このように、当たり判定、および、普図変動パターン判定が行われることによって、普図表示器 8 2 において普図の可変表示が行われる。

20

【 0 1 0 0 】

3 - 1 - 3 . 補助遊技

補助遊技は、普図の可変表示で、表示結果（普図抽選の結果）として、当たり図柄が停止表示（導出）されると実行される。

30

【 0 1 0 1 】

補助遊技を構成する要素（補助遊技構成要素）、すなわち、電チュー 1 2 D が開放する回数、および各開放についての開放時間などの様々な要素が含まれている。そして、これらの各要素は、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に対応付けられている。パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に基づいて、図 1 0 (C) に示すような補助遊技制御テーブルを用いて補助遊技を制御する。補助遊技制御テーブルは、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）に対応付けられている。各補助遊技制御テーブルには、補助遊技構成要素が格納されている。また、これらの各要素における開放回数や開放時間については、適宜に変更することが可能である。

40

【 0 1 0 2 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、非時短状態における補助遊技と時短状態における補助遊技とで、電チュー 1 2 D の開放時間を異ならせることが可能である。例えば、非時短状態における補助遊技では、第 1 の開放時間（遊技球を電チュー 1 2 D に入賞させるのが困難な時間（例えば 0 . 0 8 秒））だけ電チュー 1 2 D を開放する。なお、以下において、非時短状態における補助遊技のことを「ショート開放補助遊技」ともいう。また、時短状態における補助遊技では、第 1 の開放時間よりも長い第 2 の開放時間（遊技球を電チュー 1 2 D に入賞させるのが容易な時間（例えば 3 . 0 0 秒））だけ電チュー 1 2 D を開放する。なお、以下において、時短状態における補助遊技のことを「ロング開放補助遊技」ともいう。

【 0 1 0 3 】

50

3 - 2 . 特図に関わる遊技

次に、特図に関わる遊技について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、特図 1 抽選を行う。特図 1 抽選が行われると、特図 1 表示器 8 1 a において、特図 1 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 1 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 1 には、大当たり図柄およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 1 抽選の結果には大当たり、およびハズレがある。大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。一方、ハズレ図柄が停止表示されると、大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 1 0 4 】

10

同様に、パチンコ遊技機 P Y 1 は、発射された遊技球が第 2 始動口 1 2 に入賞すると、特図 2 抽選を行う。特図 2 抽選が行われると、特図 2 表示器 8 1 b において、特図 2 の可変表示（変動表示を行った後に停止表示）を行って、特図 2 抽選の結果を報知する。ここで、停止表示される特図 2 には、大当たり図柄、およびハズレ図柄がある。すなわち、特図 2 抽選の結果には、大当たり、およびハズレがある。大当たり図柄が停止表示されると大当たり遊技が実行され、新たな遊技状態が設定されて、当該入賞に基づく遊技が終了する。一方、ハズレ図柄が停止表示されると大当たり遊技が行われず、当該入賞に基づく遊技が終了する。

【 0 1 0 5 】

なお、以下において、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞することを「第 1 始動条件の成立」といい、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞することを「第 2 始動条件の成立」という。また、「第 1 始動条件の成立」と「第 2 始動条件の成立」をまとめて「始動条件の成立」と総称する。また、特別図柄のハズレ図柄については、前述の普図のハズレ図柄と区別するために「ハズレ特図」ともいう。

20

【 0 1 0 6 】

パチンコ遊技機 P Y 1 は、このような一連の遊技（特図抽選、特図の可変表示、大当たり遊技、遊技状態の設定）を行うにあたり、始動条件の成立により、特図関係乱数を取得し、当該乱数について種々の判定を行う。取得する特図関係乱数には、図 9（B）に示すように、特別図柄乱数（大当たり乱数）、大当たり図柄種別乱数、リーチ乱数および特図変動パターン乱数がある。特別図柄乱数は大当たり判定を行うための乱数である。大当たり図柄種別乱数は大当たり図柄種別判定を行うための乱数である。リーチ乱数はリーチ判定を行うための乱数である。特図変動パターン乱数は特別図柄の変動パターン判定を行うための乱数である。各乱数には、適宜に範囲が設けられている。なお、乱数を判定情報と言うこともある。

30

【 0 1 0 7 】

3 - 2 - 1 . 大当たり判定

大当たり判定は、図 1 1（A）に示すような大当たり判定テーブルを用いて、大当たりか否か（大当たり遊技を実行するか否か）を決定するための判定である。大当たり判定テーブルは、遊技状態、詳細には、通常確率状態であるか高確率状態であるかに関連付けられている。すなわち、大当たり判定テーブルには、通常確率状態において用いられる大当たり判定テーブル（通常確率用大当たり判定テーブル）と高確率状態において用いられる大当たり判定テーブル（高確率用大当たり判定テーブル）とがある。

40

【 0 1 0 8 】

各大当たり判定テーブルでは、大当たり判定の結果である大当たり、およびハズレに、特別図柄乱数の判定値（特別図柄乱数値）が振り分けられている。パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した特別図柄乱数を大当たり判定テーブルに照合して、大当たり、またはハズレの何れであるかを判定する。図 1 1（A）に示すように、高確率用大当たり判定テーブルの方が、通常確率用大当たり判定テーブルよりも、大当たりと判定される特別図柄乱数判定値が多く設定されている。また、大当たりの当選確率については、適宜に変更することが可能である。

50

【 0 1 0 9 】

3 - 2 - 2 . 大当たり図柄種別判定

大当たり図柄種別判定は、大当たり判定の結果が大当たりである場合に、図 1 1 (B) に示すような大当たり図柄種別判定テーブルを用いて大当たり図柄の種別 (大当たり図柄種別) を決定するための判定である。大当たり図柄の種別毎に、大当たりの内容、換言すれば、遊技者に付与される遊技特典などで構成される大当たりの構成要素を対応付けることが可能である。

【 0 1 1 0 】

大当たり図柄種別判定テーブルは、可変表示される特別図柄の種別 (特図 1 / 特図 2) 、言い換えれば、当該大当たり図柄種別判定が起因する (当該大当たり図柄種別判定を発生させた) 入賞が行われた始動口の種別 (第 1 始動口 1 1 / 第 2 始動口 1 2) に関連付けられている。すなわち、大当たり図柄種別判定テーブルには、特図 1 の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル (第 1 大当たり図柄種別判定テーブル) と特図 2 の可変表示を行うときに用いられる大当たり図柄種別判定テーブル (第 2 大当たり図柄種別判定テーブル) とがある。

【 0 1 1 1 】

大当たり図柄には複数種類の種別があり、各大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別判定の結果である大当たり図柄種別に、大当たり図柄種別乱数の判定値 (大当たり図柄種別乱数値) が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した大当たり図柄種別乱数を大当たり図柄種別判定テーブルに照合して、大当たり図柄の種別を判定する。そして、第 1 大当たり図柄種別判定テーブルおよび第 2 大当たり図柄種別判定テーブルでは、大当たり図柄種別乱数値が各種大当たり図柄に適宜に振り分けられている。また、大当たり図柄種別の振分率については、適宜に変更することが可能である。また、大当たり図柄の種別については、適宜に増加したり減少したりすることが可能である。

【 0 1 1 2 】

例えば、図 1 1 (B) に示すように、特図 1 についての大当たり図柄種別判定による大当たり図柄種別の振分率を、大当たり図柄 A が 5 0 % 、大当たり図柄 B が 5 0 % にし、特図 2 についての大当たり図柄種別判定による大当たり図柄種別の振分率を、大当たり図柄 C が 1 0 0 % にすることが可能である。このように、第 1 始動口 1 1 に遊技球が入賞して行われる特図 1 抽選と、第 2 始動口 1 2 に遊技球が入賞して行われる特図 2 抽選とで、大当たり図柄種別の振分率を異ならせることが可能である。

【 0 1 1 3 】

3 - 2 - 3 . リーチ判定

リーチ判定は、大当たり判定の結果がハズレである場合に、図 1 1 (C) に示すようなリーチ判定テーブルを用いて、後述する特図変動演出でリーチを発生させるか否かを決定するための判定である。

【 0 1 1 4 】

リーチ判定テーブルは、遊技状態 (非時短状態 / 時短状態) に関連付けることが可能である。すなわち、リーチ判定テーブルには、非時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル (非時短用リーチ判定テーブル) と時短状態のときに用いられるリーチ判定テーブル (時短用リーチ判定テーブル) とがある。

【 0 1 1 5 】

各リーチ判定テーブルでは、リーチ判定の結果である「リーチ有り (リーチを発生させる) 」と「リーチ無し (リーチを発生させない) 」に、リーチ乱数の判定値 (リーチ乱数値) が振り分けられている。よって、パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得したリーチ乱数をリーチ判定テーブルに照合して、リーチ有るかリーチ無しか (リーチを発生させる否か) を判定する。図 1 1 (C) に示すように、非時短用リーチ判定テーブルと時短用リーチ判定テーブルとで、「リーチ有り (リーチを発生させる) 」と判定されるリーチ乱数値の数を異ならせることが可能である。なお、以下において、大当たり判定の結果が「ハズレ」であ

ることを前提に行われる「リーチ有り（リーチを発生させる）」のことを「リーチ有りハズレ」といい、「リーチ無し（リーチを発生させない）」のことを「リーチ無しハズレ」ということもある。

【0116】

3-2-4. 特図変動

特図変動パターン判定は、図12～図13に示すような特別図柄の変動パターン判定テーブル（特図変動パターン判定テーブル）を用いて、特図の可変表示の変動パターン（特図変動パターン）を決定するための判定であり、大当たり判定の結果が大当たり、およびハズレの何れの場合にも行われる。特図変動パターンとは、特図変動時間や後述する特図変動演出の演出フロー（演出内容）などに関する所定事項を識別するための識別情報である。なお、特図変動パターンには、特図変動時間や特図変動演出の演出フロー（演出内容）の他、大当たり判定の結果とリーチ判定の結果に関する識別情報を含ませることが可能である。特図変動パターンとして、それぞれ識別情報が異なる複数種類の特図変動パターンを用いることが可能であり、その数は適宜に変更することが可能である。

10

【0117】

特図変動パターン判定テーブルは、判定対象となる可変表示を行う特別図柄の種別（特図1/特図2）、言い換えれば、当該特図変動パターン判定が起因する入賞が行われた始動口の種別（第1始動口11/第2始動口12）に関連付けることが可能である。すなわち、特図変動パターン判定テーブルには、特図1の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル（特図1変動パターン判定テーブル：図12）と、特図2の可変表示を行うときに用いられる特図変動パターン判定テーブル（特図2変動パターン判定テーブル：図13）とがある。

20

【0118】

そして、各特図変動パターン判定テーブルは、遊技状態（非時短状態/時短状態）にも関連付けることが可能である。すなわち、特図1変動パターン判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる特図1変動パターン判定テーブル（非時短用特図1変動パターン判定テーブル）と時短状態のときに用いられる特図1変動パターン判定テーブル（時短用特図1変動パターン判定テーブル）とがある。一方、特図2変動パターン判定テーブルについても同様に、非時短状態のときに用いられる特図2変動パターン判定テーブル（非時短用特図2変動パターン判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる特図2変動パターン判定テーブル（時短用特図2変動パターン判定テーブル）と、がある。

30

【0119】

また、遊技状態（非時短状態/時短状態）に関連付けられた各特図変動パターン判定テーブルは、さらに、大当たり判定結果およびリーチ判定結果にも関連付けることが可能である。すなわち、非時短用特図1変動パターン判定テーブルおよび非時短用特図2変動パターン判定テーブルにはそれぞれ、大当たり用、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用がある。同様に、時短用特図1変動パターン判定テーブルおよび時短用特図2変動パターン判定テーブルにもそれぞれ、大当たり用、リーチ有りハズレ用、およびリーチ無しハズレ用がある。

【0120】

さらに、各リーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルは、特図保留数にも関連付けることが可能である。例えば、特図1保留数（U1）が0～2のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルと、特図1保留数（U1）が3～4のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図1変動パターン判定テーブルと、がある。また、各リーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルは、特図保留数にも関連付けられている。具体的には、特図2保留数（U2）が0～2のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルと、特図2保留数（U2）が3～4のときに用いられるリーチ無しハズレ用の特図2変動パターン判定テーブルと、がある。

40

【0121】

そして、各特図変動パターン判定で決定された特図変動パターンに応じた特図変動時間

50

の特図の可変表示が、特図表示器 8 1 で行われる。そして、特図の可変表示で、表示結果（特図抽選の結果）として、大当たり図柄が停止表示されると、即座に次の特図の可変表示が行われず、引き続いて、大当たり遊技が実行される。

【 0 1 2 2 】

また、各特図変動パターンには、図 1 2 ~ 図 1 3 の表の右から 2 番目の欄に示すような特図変動演出の演出フローに関連付けることが可能である。

【 0 1 2 3 】

なお、図 1 2 ~ 図 1 3 の表の一番右の欄に示すように、特図変動パターンについて、特図（大当たり判定結果）および特図変動演出の演出内容などに関連付けて名称を付すことがある。例えば、大当たりに係る特図変動パターンのことを「大当たり変動」といい、一方、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種である S P リーチが行われる特図変動パターンのことを「S P ハズレ変動」、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種である L リーチが行われる特図変動パターンのことを「L ハズレ変動」、リーチ有りハズレの中で、リーチの一種である N リーチで特図変動演出が終わる特図変動パターンのことを「N ハズレ変動」、リーチ無しハズレに係る特図変動パターンのことを「通常ハズレ変動」という。

【 0 1 2 4 】

3 - 2 - 5 . 先読み判定

パチンコ遊技機 P Y 1 は、取得した特図関係乱数に基づいて、図 1 4 に示すような先読み判定テーブルを用いて先読み判定を行う。先読み判定には、例えば、特別図柄乱数が大当たり判定で大当たりと判定されるか否かの判定、大当たり図柄種別乱数が大当たり図柄種別判定で何れの大当たり図柄の種別に決定されるかの判定、特図変動パターン乱数が特図変動パターン判定で何れの特図変動パターンに決定されるかの判定、などがある。先読み判定テーブルは、その始動入賞に係る始動口の種別（第 1 始動口 1 1 / 第 2 始動口 1 2）に関連付けることが可能である。すなわち、先読み判定テーブルには、第 1 始動口 1 1 に入賞した場合の先読み判定テーブル（第 1 先読み判定テーブル）と、第 2 始動口 1 2 に入賞した場合の先読み判定テーブル（第 2 先読み判定テーブル）と、がある。

【 0 1 2 5 】

また、先読み判定テーブルは、遊技状態（非時短状態 / 時短状態）にも関連付けることが可能である。すなわち、先読み判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる先読み判定テーブル（非時短用先読み判定テーブル）と、時短状態のときに用いられる先読み判定テーブル（時短用先読み判定テーブル）と、がある。

【 0 1 2 6 】

つまり、先読み判定テーブルには、非時短状態のときに用いられる第 1 先読み判定テーブルと、時短状態のときに用いられる第 1 先読み判定テーブルと、非時短状態のときに用いられる第 2 先読み判定テーブルと、時短状態のときに用いられる第 2 先読み判定テーブルと、がある。なお、先読み判定にどのような判定を含ませるかは適宜に変更可能である。

【 0 1 2 7 】

3 - 3 . 大当たり遊技

【 0 1 2 8 】

次に、大当たり遊技について説明する。大当たり遊技は、大入賞口（第 1 大入賞口 1 4 および第 2 大入賞口 1 5）の開閉を伴う複数回のラウンド遊技と、大当たり遊技が開始してから初回のラウンド遊技が開始されるまでのオープニング（O P とも表記する）と、最終回のラウンド遊技が終了してから大当たり遊技が終了するまでのエンディング（E D とも表記する）とを含んでいる。各ラウンド遊技は、オープニングの終了又は前のラウンド遊技の終了によって開始し、次のラウンド遊技の開始又はエンディングの開始によって終了する。また、O P や E D を設けないことが可能である。なお、以下において、所定回数（所定の順番）のラウンド遊技を、単に「ラウンド」という。例えば、初回（1 回目）のラウンド遊技のことを「1 ラウンド（1 R）」といい、1 0 回目のラウンド遊技のことを「1 0 ラウンド（1 0 R）」という。

【 0 1 2 9 】

このような大当たり遊技を構成する要素（大当たり遊技構成要素）には、ラウンド遊技の回数、各回のラウンド遊技における大入賞口（第 1 大入賞口 1 4 および第 2 大入賞口 1 5）の開放回数、各開放が行われる大入賞口の種別および開放時間（開放パターン）、次の開放まで閉鎖させる時間（閉鎖時間）、オープニングの時間（オープニング時間）、およびエンディングの時間（エンディング時間）などが含まれている。パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図の停止表示後、図 1 5 に示すような大当たり遊技制御テーブルを用いて大当たり遊技を制御する。大当たり遊技制御テーブルには、大当たり遊技毎に大当たり遊技構成要素が格納されている。大当たり遊技として、1 種類又は複数種類の大当たり遊技を制御することが可能である。

10

【 0 1 3 0 】

例えば、図 1 5 に示すように、1 R から 1 5 R までは、最大で 2 9 . 5 秒にわたって第 1 大入賞口 1 4 が開放するラウンド遊技、または、最大で 0 . 1 秒にわたって第 1 大入賞口 1 4 が開放するラウンド遊技、が行われる。そして、1 6 R（最終ラウンド）では、最大で 2 9 . 5 秒にわたって第 2 大入賞口 1 5 が開放するラウンド遊技、または、最大で 0 . 1 秒にわたって第 2 大入賞口 1 5 が開放するラウンド遊技、が行われる。また、各ラウンド遊技では、予め定めた所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球が大入賞口センサ 1 4 a , 1 5 a によって検出されると、大入賞口 1 4 , 1 5 の最大開放時間が経過する前であっても、ラウンド遊技を終了させる。

【 0 1 3 1 】

また、各要素における回数や時間については、適宜に変更することが可能である。また、大当たり遊技を、第 1 大入賞口 1 4 および第 2 大入賞口 1 5 の両方を用いて行うことも一方だけを用いて行うことも可能である。

20

【 0 1 3 2 】

ここで、特定領域 1 6 について詳細に説明する。特定領域 1 6 は、振分部材 1 6 k によって、入賞不可能な閉状態と、入賞可能な開状態とをとるので、振分部材 1 6 k の作動態様は、特定領域 1 6 の開閉態様とすることができる。以下において、振分部材 1 6 k の作動態様のことを「特定領域 1 6 の開閉態様」ともいう。このように、振分部材 1 6 k が一定の作動態様（特定領域 1 6 が一定の開閉態様）で制御されるが、振分部材 1 6 k の一定の作動態様（特定領域 1 6 の一定の開閉態様）と、大当たり遊技における第 2 大入賞口 1 5 の開閉態様との組み合わせで、大当たり遊技において遊技球を特定領域 1 6 に進入させることの困難性（容易性）が設定されることになる。なお、以下において、特定領域 1 6 が開状態にあることを「V 開放」ともいう。

30

【 0 1 3 3 】

第 2 大入賞口の開放が開始してから 1 5 秒間、振分ソレノイド 1 6 s が通電され、振分部材 1 6 k が第 2 状態（図 4（B））に制御される。よって、最大で 2 9 . 5 秒にわたって第 2 大入賞口 1 5 が開放するラウンド遊技では、第 2 大入賞口 1 5 の開放時間およびタイミングと、振分部材 1 6 k の第 2 状態に制御されている時間およびタイミングとの関係から、遊技球が特定領域 1 6 を通過する（遊技球を特定領域 1 6 に進入させる）ことが容易である。一方、最大で 0 . 1 秒にわたって第 2 大入賞口 1 5 が開放するラウンド遊技では、第 2 大入賞口 1 5 の開放時間およびタイミングと、振分部材 1 6 k の第 2 状態に制御されている時間およびタイミングとの関係から、遊技球が特定領域 1 6 を通過する（遊技球を特定領域 1 6 に進入させる）ことはほぼ不可能（困難）である。このように、大当たり遊技には、当該大当たり遊技中に、遊技球の特定領域 1 6 の通過（以下、「V 通過」ともいう）が容易な第 1 開放パターン（V ロング開放パターン）で V A T 開閉部材 1 5 k 及び振分部材 1 6 k が作動する大当たり遊技と、遊技球の特定領域 1 6 の通過が不可能又は困難な第 2 開放パターン（V ショート開放パターン）で V A T 開閉部材 1 5 k 及び振分部材 1 6 k が作動する大当たり遊技と、を実行することが可能である。このように、V ロング開放パターンで V A T 開閉部材 1 5 k 及び振分部材 1 6 k が作動する大当たり遊技を「V ロング大当たり」という。一方、V ショート開放パターンで V A T 開閉部材 1 5 k 及び

40

50

振分部材 16k が作動する大当たり遊技を「V ショート大当たり」という。

【0134】

3 - 4 . 遊技状態

【0135】

次に、遊技状態について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、図 16 に示すように、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」、「高確率高ベース遊技状態」および「大当たり遊技状態」の何れかの遊技状態にすることが可能である。なお、「低確率低ベース遊技状態」を「低確低ベース状態」と、「低確率高ベース遊技状態」を「低確高ベース状態」と、「高確率低ベース遊技状態」を「高確低ベース状態」と、「高確率高ベース遊技状態」を「高確高ベース状態」と、それぞれ略称することができる。遊技状態を構成する状態として、大当たり判定において「大当たり」と判定される確率に係る状態と、電チュー 12D の開放の容易性に係る状態とがある。前者としては、通常確率状態と高確率状態とがある。一方、後者としては非時短状態と時短状態とがある。

【0136】

通常確率状態は、「低確率低ベース遊技状態」または「低確率高ベース遊技状態」において設定され、大当たり判定で大当たりと判定される確率が通常確率である状態である。高確率状態は、「高確率低ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定され、大当たり判定で大当たりと判定される確率が通常確率より高い高確率である状態である。従って、高確率状態は通常確率状態よりも遊技者に有利な状態であると言える。パチンコ遊技機 P Y 1 で初めて電源投入されたときには通常確率状態が設定される。そして、大当たりで当選することによって通常確率状態から高確率状態に切り替えることが可能になる。例えば、大当たり遊技において遊技球が特定領域 16 を通過することによって高確率状態に切り替えることが可能である。また、大当たり図柄の種別によって高確率状態に切り替えることも可能である。高確率状態は、大当たりで当選することなく所定回数の大当たり判定が行われることや、次回の大当たりで当選することで、高確率状態から通常確率状態に切り替えることが可能である。

【0137】

非時短状態は、「低確率低ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」または「大当たり遊技状態」において設定される。時短状態は、「低確率高ベース遊技状態」または「高確率高ベース遊技状態」において設定され、非時短状態に比べて、1 回の補助遊技における電チュー 12D の開放時間が長くなり易い遊技状態である。例えば、時短状態においては、非時短状態における電チュー 12D の開放時間（例えば 0 . 08 秒）よりも長い開放時間（例えば 3 . 0 秒）となる。また、時短状態では、特図変動時間の短い特図変動パターンが選択されることが非時短状態よりも多くなるように定められた特図変動パターン判定テーブルを用いて、特図変動パターン判定が行われるようにすることも可能である（図 12 ~ 図 13 参照）。その結果、時短状態では、特図保留の消化のペースが速くなり、始動口への有効な入賞（特図保留として記憶され得る入賞）が発生しやすくなる。そのため、スムーズな遊技の進行のもとで大当たりを狙うことができる。

【0138】

また、時短状態は、非時短状態に比べて、普図変動時間が短くなり易くすることが可能である。例えば、時短状態においては、非時短状態において決定される普図変動時間（30 秒）よりも短い普図変動時間（5 秒）が決定される。よって、時短状態の方が、単位時間当たりにおける普図抽選の実行回数が多い。

【0139】

また、時短状態は、非時短状態に比べて、当たり判定で当たりと判定され易くすることが可能である。例えば、時短状態では、非時短状態で当たりと判定される確率（例えば 6600 / 65536）よりも高い確率（例えば 59936 / 65536）で当たりと判定される。よって、時短状態の方が、単位時間当たりにおいて当たり判定で当たりと判定される回数が多い。

【 0 1 4 0 】

このように時短状態では、非時短状態に比して、単位時間当たりの電チュー 1 2 D の開放時間が長くなり、第 2 始動口 1 2 へ遊技球が頻繁に入賞し易くなる。その結果、発射球数に対する賞球数の割合であるベースが高くなる。そのため、ベースの高い時短状態では、所持する遊技球を大きく減らすことなく大当たり当選を狙うことができる。従って、時短状態は非時短状態よりも遊技者に有利な状態であると言える。

【 0 1 4 1 】

パチンコ遊技機 P Y 1 で初めて電源投入されたときには非時短状態が設定される。そして、例えば、大当たりに当選することによって時短状態が設定可能になる。時短状態は、大当たりに当選することなく所定回数的大当たり判定が行われることや、次回の大当たり

10

【 0 1 4 2 】

なお、時短状態では、非時短状態に比して、当たりに当選し易く、普図変動時間が短くなり易く、且つ、1 回の補助遊技における電チュー 1 2 D の開放時間が長くなり易い。普図に係る遊技について 3 つの点で、遊技者に有利に設定されている。しかし、この遊技者に有利に設定されている点はこれらの中の一部であってもよい。

【 0 1 4 3 】

なお、パチンコ遊技機 P Y 1 で初めて電源投入された後の遊技状態は、通常確率状態且つ非時短状態が設定される「低確率低ベース遊技状態」である。この遊技状態を「通常遊技状態」ともいう。なお、「大当たり遊技状態」では、当たり判定は行われるが大当たり判定は行われないため、大当たり遊技の開始に伴って、非時短状態が設定される。また、遊技状態については、前述した遊技状態の全てを用いることも一部だけを用いることも可能である。

20

【 0 1 4 4 】

4 . 遊技機による主な演出

次に、パチンコ遊技機 P Y 1 により行われる主な演出について、図 1 7 ~ 図 2 8 を用いて説明する。

【 0 1 4 5 】

4 - 1 . 演出モード

最初に、演出モードについて説明する。演出モードは、演出の区分（あるいは、上位概念的な属性）のことである。パチンコ遊技機 P Y 1 は、演出モードとして、客待ち演出モード、通常演出モードと、確変演出モード、時短演出モードおよび大当たり演出モードを設定することが可能である。

30

【 0 1 4 6 】

客待ち演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」、「低確率高ベース遊技状態」、「高確率低ベース遊技状態」および「高確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われていないときに設定可能であり、特図変動演出が行われていない待機状態であることを示す演出モードである。客待ち演出モードが設定されているときに客待ち演出が行われる。客待ち演出では、例えば、図 1 7 (A) に示すように、表示部 5 0 a においてパチンコ遊技機 P Y 1 を紹介する客待ちデモ動画 G 1 0 0 が表示される。また、客待ちデモ動画 G 1 0 0 が表示されているときに半球型ボタン 4 0 が操作されると、図 1 7 (B) に示すように、パチンコ遊技機 P Y 1 の演出に関する設定を行うための設定画面 G 1 0 1 が表示される。演出に関する設定には、スピーカ 5 2 から出力される音の音量設定、表示部 5 0 a の輝度設定、実行される演出の頻度設定などがある。

40

【 0 1 4 7 】

通常演出モードは、「低確率低ベース遊技状態」または「高確率低ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能であり、非時短状態であることを示す演出モードである。通常演出モードには、例えば、図 1 8 (A) に示すように、表示部 5 0 a において昼間の山の景色を表す背景画像（昼間通常用背景画像 G 1 0 2 ）が表示される第 1 通常演出モードと、図 1 8 (B) に示すように、表示部 5 0 a において夕方の山の

50

景色を表す背景画像（夕方通常用背景画像 G 1 0 3）が表示される第 2 通常演出モードと、図 1 8（C）に示すように、表示部 5 0 a において夜間の山の景色を表す背景画像（夜間通常用背景画像 G 1 0 4）が表示される第 3 通常演出モードと、があり、大当たりに当選することなく 1 回または複数回の特図変動演出が行われることを 1 つの条件として切り替えられる。さらに、第 1 ～ 第 3 通常演出モードのそれぞれには、特図変動演出において、リーチが成立する前の通常前段演出モードと、リーチが成立した後の通常後段演出モードと、がある。通常前段演出モードでは、表示部 5 0 a において、昼間通常用背景画像 G 1 0 2、夕方通常用背景画像 G 1 0 3 および夜間通常用背景画像 G 1 0 4 の何れかが表示されるが、通常後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。また、「高確率低ベース遊技状態」においてのみ設定される特殊演出モードを設けても良い。

10

【 0 1 4 8 】

確変演出モードは、「高確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能な演出モードであり、高確率状態且つ時短状態であることを示す演出モードである。確変演出モードでは、例えば、図 1 8（D）に示すように、表示部 5 0 a において宇宙を表す背景画像（確変用背景画像 G 1 0 5）が表示される。さらに、確変演出モードには、特図変動演出において、リーチが成立する前の確変前段演出モードと、リーチが成立した後の確変後段演出モードと、がある。確変前段演出モードでは、表示部 5 0 a において、確変用背景画像 G 1 0 5 が表示されるが、確変後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

20

【 0 1 4 9 】

時短演出モードは、「低確率高ベース遊技状態」において特図変動演出が行われているときに設定可能な演出モードであり、通常確率状態且つ時短状態であることを示す演出モードである。時短演出モードでは、例えば、図 1 8（E）に示すように、表示部 5 0 a において空を表す背景画像（時短用背景画像 G 1 0 6）が表示される。さらに、時短演出モードには、特図変動演出において、リーチが成立する前の時短前段演出モードと、リーチが成立した後の時短後段演出モードと、がある。時短前段演出モードでは、表示部 5 0 a において、時短用背景画像 G 1 0 6 が表示されるが、時短後段演出モードでは、リーチの種類に応じた専用の背景画像が表示される。

【 0 1 5 0 】

大当たり演出モードは、「大当たり遊技状態」において大当たり遊技が行われているときに設定可能な演出モードであり、大当たり遊技が行われていることを示す演出モードである。大当たり演出モードでは、例えば、大当たり遊技におけるオープニング中には、図 1 9（A）に示すように、表示部 5 0 a において、大当たり遊技の開始を示唆するオープニング画像 G 1 0 7 や「右打ち」を促す右打ち画像 G 1 0 8 が表示される大当たりオープニング演出が行われる。大当たり遊技におけるラウンド中には、図 1 9（B）に示すように、表示部 5 0 a において、ラウンド数を示すラウンド画像 G 1 0 9 や払い出された賞球数を示唆する賞球数画像 G 1 1 0 が表示されるラウンド演出が行われる。大当たり遊技におけるエンディング中には、図 1 9（C）に示すように、表示部 5 0 a において、大当たり遊技後に設定される演出モードを示唆するエンディング画像 G 1 1 1 や払い出された総賞球数を示唆する総賞球数画像 G 1 1 2 が表示される大当たりエンディング演出が行われる。

30

40

【 0 1 5 1 】

なお、演出モードの種類については、適宜に変更または追加することが可能である。

【 0 1 5 2 】

4 - 2 . 特図変動演出

次に、特図変動演出（単に「変動演出」とも言う）について説明する。パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図の可変表示が開始されると、特図の可変表示に係る特図変動パターンおよび特図抽選結果（大当たり判定結果、大当たり図柄種別判定結果、リーチ判定結果、および、特図変動パターン判定結果）などに基づいて、特図変動演出を実行する。特図変動演

50

出では、表示部 50 a において、所定の背景画像に重疊的に、演出図柄の変動表示が行われる。演出図柄の変動表示では、演出図柄が変動した後に停止する。すなわち、特図変動時間、演出図柄の変動表示が行われた後に、当該変動が停止して、演出図柄の停止表示が行われる。そして、演出図柄の停止表示によって特図抽選の結果が報知される。

【0153】

なお、特図変動演出では、演出図柄の変動表示以外に、画像表示装置 50、スピーカ 52、枠ランプ 53、盤ランプ 54、可動装置 55、56、57、58、半球型ボタン 40、剣型ボタン 41 などの様々な演出装置を用いた演出を行うことが可能である。

【0154】

4-2-1. 演出図柄表示領域

画像表示装置 50 の表示部 50 a には、図 20 (A) に示すように、表示部 50 a を水平方向に 3 つに略均等に分けた左側、中央および右側それぞれに、左演出図柄領域 50 b 1、中演出図柄領域 50 b 2、および右演出図柄領域 50 b 3 を設けることが可能である。左演出図柄領域 50 b 1 は、特図変動演出における演出図柄の停止表示のときに、左演出図柄 E Z 1 を表示する領域である。同様に、中演出図柄領域 50 b 2 および右演出図柄領域 50 b 3 は、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 を表示する領域である。

【0155】

また、図 20 (A) に示すように、表示部 50 a の上端部の左端 (左上隅) の一区画に、小図柄領域 50 c を設けることが可能である。小図柄領域 50 c は、特図の可変表示が行われているときに小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 を変動表示する領域である。

【0156】

なお、図 20 (A) において、左演出図柄領域 50 b 1、中演出図柄領域 50 b 2、右演出図柄領域 50 b 3、および小図柄領域 50 c は破線で明示されているが、これは左演出図柄領域 50 b 1、中演出図柄領域 50 b 2、右演出図柄領域 50 b 3、および小図柄領域 50 c の範囲を表すために記載したものであり、実際には表示されていない。

【0157】

4-2-2. 通常変動

パチンコ遊技機 P Y 1 は、特図変動演出において、先ず通常変動を行うことが可能である。通常変動は、特図の可変表示が開始されたことを示唆する演出として機能する。

【0158】

特図の可変表示が開始されると、例えば、図 20 (A) に示すように、表示部 50 a において、左演出図柄 E Z 1、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 が停止表示されていると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 が停止表示されており、特図の可変表示が行われておらず、特図の可変表示を待機している状態から、図 20 (B) に示すように、その開始に伴って演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の変動表示が開始されると共に、左小図柄 K Z 1、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 の変動表示が開始される。そして、この特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ無しハズレの特図変動パターン (例えば、通常ハズレ変動) であると、リーチが発生することなく、特図の可変表示の終了 (特図の停止表示) に伴って、リーチ無しハズレに特有なハズレ目 (所謂「バラケ目」) で演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の停止表示が行われる。演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の停止表示に向けて、例えば、最初に図 20 (C) に示すように、左演出図柄 E Z 1 が上下方向略中央位置で仮停止し、次に図 20 (D) に示すように、右演出図柄 E Z 3 が上下方向略中央位置で仮停止し、さらに、図 20 (E) に示すように、中演出図柄 E Z 2 が上下方向略中央位置で仮停止する。そして、最後に、上下方向略中央位置で水平方向に並んだ状態で仮停止している演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 が、図 20 (F) に示すように、そのまま一斉に完全に停止し、停止が確定する (演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の停止表示が行われる)。仮停止していた演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 がバラケ目で完全に停止するとき、すなわち、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の停止表示が行われるとき、3 つの小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 が、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 と同一のバラケ目で一斉に停止し、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 の停止表示も行

10

20

30

40

50

われる。

【 0 1 5 9 】

なお、図 2 0 の例では、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の停止表示が行われる際に、左演出図柄 E Z 1 右演出図柄 E Z 3 中演出図柄 E Z 2 の順で演出図柄が仮停止したが、仮停止する態様はこれに限られず、適宜に設定することができる。

【 0 1 6 0 】

一方、特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン（例えば、Nハズレ変動）であると、前述のリーチ無しの場合と同様に、表示部 5 0 a において、図 2 1 (A) に示すように、左演出図柄 E Z 1 、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 が停止表示されていると共に、左小図柄 K Z 1 、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 が停止表示されている状態から、特図の可変表示が開始されて、図 2 1 (B) に示すように、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の変動表示が開始されると共に、左小図柄 K Z 1 、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 の変動表示が開始される。そして、例えば図 2 1 (C) に示すように、数字「5」からなる左演出図柄 E Z 1 が上下方向略中央位置で仮停止し、次に、図 2 1 (D) に示すように、同一の数字「5」からなる右演出図柄 E Z 3 が上下方向略中央位置で水平方向に並んで仮停止して、リーチになる（リーチが発生または成立する）。演出図柄でリーチが成立しても、左小図柄 K Z 1 、中小図柄 K Z 2 および右小図柄 K Z 3 の変動表示は継続して行われている。

【 0 1 6 1 】

なお、図 2 1 の例では、リーチが成立する際に、左演出図柄 E Z 1 右演出図柄 E Z 3 の順で演出図柄が仮停止したが、仮停止する態様はこれに限られず、適宜に設定することができる。また、リーチを構成する演出図柄の数字も「5」に限られない。また、仮停止する位置も上下方向略中央位置に限られない。また、リーチを構成する演出図柄が並ぶ方向も水平方向に限られず斜め方向など他の方向であってもよい。

【 0 1 6 2 】

4 - 2 - 3 . Nリーチ

パチンコ遊技機 P Y 1 は、通常変動の後にリーチが成立するとNリーチを行うことが可能である。Nリーチは、特図抽選の抽選結果が「大当たり」であった可能性があることを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【 0 1 6 3 】

リーチが成立すると、例えば、図 2 1 (D) に示すように、その時点からNリーチが行われる。Nリーチでは、図 2 2 (A) に示すように、リーチが成立した状態が所定時間（例えば、10秒）維持される。Nリーチが開始されると、図 2 2 (B) に示すように、通常態様の高速で変動表示（スクロール）をしている中演出図柄 E Z 2 が徐々に減速していく。

【 0 1 6 4 】

特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン（例えば、Nハズレ変動）であると、リーチが成立した状態から、中演出図柄 E Z 2 が上下方向略中央位置で仮停止してハズレを示す演出図柄の停止表示が行われる。このとき、リーチが成立しているので、図 2 2 (C - 1) に示すように、リーチを構成する数字とは異なる数字（図 2 2 (C - 1) において「4」）からなる中演出図柄 E Z 2 が仮停止する。そして、特図の可変表示の終了（特図の停止表示）に伴って、図 2 2 (D - 1) に示すように、仮停止状態が完全な停止状態になり、リーチ有りハズレに特有なハズレ目で左演出図柄 E Z 1 、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 の停止表示が行われる。また、仮停止していた演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 がリーチ有りハズレに特有なハズレ目で完全に停止するとき、すなわち、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 の停止表示が行われるとき、3つの小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 が、演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 と同一のリーチ有りハズレに特有なハズレ目で一斉に停止し、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 の停止表示も行われる。

【 0 1 6 5 】

一方、特図の可変表示の特図変動パターンが大当たりの特図変動パターン（例えば、N 大当たり変動）であると、図 22（C - 2）に示すように、例えば、リーチを構成する数字と同一の数字からなる中演出図柄 E Z 2 が上下方向略中央位置で仮停止し、特図の可変表示の終了（特図の停止表示）に伴って、図 22（D - 2）に示すように、仮停止状態が完全な停止状態になり、ゾロ目などの大当たりに特有な当たり目で左演出図柄 E Z 1、中演出図柄 E Z 2 および右演出図柄 E Z 3 の停止表示が行われる。また、仮停止していた演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 が大当たりに特有な当たり目で完全に停止するとき、すなわち、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の停止表示が行われるとき、3 つの小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 が、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 と同一の大当たりに特有な当たり目で一斉に停止し、小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 の停止表示も行われる。

10

【0166】

なお、Nリーチの演出内容は、中演出図柄 E Z 2 が徐々に減速することに限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

【0167】

4 - 2 - 4 . S P リーチ

パチンコ遊技機 P Y 1 は、Nリーチの後に S P リーチを行うことが可能である。S P リーチは、特図抽選の抽選結果が「大当たり」であった可能性が、Nリーチよりも高いことを示唆する演出であり、遊技者に大当たりを期待させるための演出として機能する。

【0168】

Nリーチの後に、例えば、図 24（A）に示すように、表示部 50 a に S P リーチ専用の背景画像（S P リーチ用背景画像 G 113）が表示され、敵キャラクタ A が出現し、図 24（B）に示すように、主人公キャラクタと敵キャラクタ A が対峙しているシーンが表示される。そして、図 24（C）に示すように、表示部 50 a の中央に S P リーチが開始されたことを表す画像（S P リーチ開始タイトル画像）G 1 が表示される。S P リーチ開始タイトル画像 G 1 は、S P リーチのタイトルを表すタイトル画像 G 11「図 24（C）において「敵 A を撃破せよ！」」と、タイトル画像 G 11 を引き立てるエフェクト画像 G 12 とで構成される。

20

【0169】

そして、S P リーチにおけるバトルがさらに進み、図 25（A）に示すように、S P リーチ用背景画像 G 113 にて、特別状態に変身した主人公キャラクタの横顔のアップが表示され、図 25（B）に示すように、敵キャラクタ A の横顔のアップが表示されると、図 25（C）に示すように、両者の剣が差し違えようとし、主人公キャラクタと敵キャラクタ A とのバトルに決着がつこうとする場面を迎える。この場面は、バトルで主人公キャラクタが勝利するか敗北するかの分岐点（勝敗分岐点）を構成する。そして、この勝敗分岐点後、特図の可変表示の特図変動パターンが大当たりの特図変動パターン（例えば、S P 大当たり変動）であると、図 27（A）に示すように、表示部 50 a に、バトルに勝利して仁王立ちしている特別状態の主人公キャラクタが表示されると共に、スピーカ 52 から所定の効果音が出力される。このとき、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 は大当たりを示す態様で仮停止表示している。このように、バトルに勝利して仁王立ちしている特別状態に変身した主人公キャラクタの表示と、所定の効果音の出力とが、大当たりを報知する演出（大当たり報知演出）を構成する。その後、図 27（B）に示すように、演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 および小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 の停止表示が行われる。

30

40

【0170】

一方、勝敗分岐点後、特図の可変表示の特図変動パターンがリーチ有りハズレの特図変動パターン（例えば、S P ハズレ変動）であると、大当たり報知演出が行われることなく、S P リーチ用背景画像 G 113 にて、主人公キャラクタがバトルに敗北する映像が流れるハズレ報知演出が行われる。そして、例えば図 22（C - 1）に示すように、ハズレ目で演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 の仮停止表示が行われ、図 22（D - 1）に示すように、そのままハズレ目で演出図柄 E Z 1、E Z 2、E Z 3 および小図柄 K Z 1、K Z 2、K Z 3 の停止表示が行われる。

50

【 0 1 7 1 】

なお、S P リーチの演出内容は、キャラクタ同士がバトルする内容に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

【 0 1 7 2 】

ここで、各リーチに対する演出図柄 E Z 1 , E Z 2 , E Z 3 が大当たりを示す態様で停止される可能性（大当たり期待度）について詳細に説明する。各リーチに対する大当たり期待度は、特図抽選の抽選結果に基づく実行確率によって定められる。例えば、N リーチの実行確率を、特図抽選の抽選結果が「ハズレ」の場合には 1 0 % とし、特図抽選の抽選結果が「大当たり」の場合には 1 0 0 % とした場合、S P リーチの実行確率を、特図抽選の抽選結果が「ハズレ」の場合には 4 % とし、特図抽選の抽選結果が「大当たり」の場合には 1 0 0 % とすれば、S P リーチの大当たり期待度を、N リーチの大当たり期待度よりも高く設定することが可能である。また、S P リーチとして S P リーチ A と S P リーチ B とを実行可能にし、S P リーチ A の実行確率を、特図抽選の抽選結果が「ハズレ」の場合には 2 % とし、特図抽選の抽選結果が「大当たり」の場合には 2 0 % とした場合、S P リーチ B の実行確率を、特図抽選の抽選結果が「ハズレ」の場合には 2 % とし、特図抽選の抽選結果が「大当たり」の場合には 3 0 % とすれば、S P リーチ B の大当たり期待度を、S P リーチ A の大当たり期待度よりも高く設定することが可能である。このように、特図抽選の抽選結果に応じた実行確率を適宜に設定することで、大当たり期待度を設定することが可能である。

10

【 0 1 7 3 】

20

4 - 3 . 保留アイコン表示領域

画像表示装置 5 0 の表示部 5 0 a には、図 2 8 (A) に示すように、4 つの表示領域からなる保留アイコン表示領域 5 0 d を設けることが可能である。保留アイコン表示領域 5 0 d は、第 1 表示領域 5 0 d 1 、第 2 表示領域 5 0 d 2 、第 3 表示領域 5 0 d 3 および第 4 表示領域 5 0 d 4 で構成され、特図 1 保留数または特図 2 保留数に応じて、各表示領域 5 0 d 1 , 5 0 d 2 , 5 0 d 3 , 5 0 d 4 に、保留アイコン H A を表示することが可能である。例えば、特図 1 保留数が『 1 』の場合には、第 1 表示領域 5 0 d 1 に保留アイコン H A が表示され、特図 1 保留数が『 2 』の場合には、第 1 表示領域 5 0 d 1 と第 2 表示領域 5 0 d 2 とに保留アイコン H A が表示される。

【 0 1 7 4 】

30

また、保留アイコン表示領域 5 0 d の近傍に、図 2 8 (A) に示すように、1 つの表示領域からなる当該アイコン表示領域 5 0 e を設けることが可能である。当該アイコン表示領域 5 0 e は、特図変動演出が開始されることに応じて、保留アイコン H A と同じまたは異なる当該アイコン T A を表示することが可能である。

【 0 1 7 5 】

なお、保留アイコン表示領域 5 0 d を構成する表示領域の数については、適宜に変更することが可能である。また、保留アイコン表示領域 5 0 d を、特図 1 保留数および特図 2 保留数の両方を表示する表示領域とすることも一方だけを表示する表示領域とすることも可能である。

【 0 1 7 6 】

40

4 - 3 - 1 . 保留演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、遊技球が第 1 始動口 1 1 または第 2 始動口 1 2 に入賞することに応じて、保留演出を行うことが可能である。保留演出は、特図 1 保留または特図 2 保留の数を遊技者に報知することが可能である。

【 0 1 7 7 】

例えば、特図 1 保留数が『 0 』のときに遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、特図変動演出が開始され、図 2 8 (B) に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に当該アイコン T A が表示される。そして、特図変動演出中に更に 2 個の遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞すると、図 2 8 (C) に示すように、保留アイコン表示領域 5 0 d の第 1 表示領域 5 0 d 1 と第 2 表示領域 5 0 d 2 とに保留アイコン H A が表示され、特図 1 保留数が『 2 』

50

であることが遊技者に報知される。その後、特図変動演出が終了し、新たな特図変動演出が開始されると、図28(D)に示すように、保留アイコン表示領域50dの第1表示領域50d1に表示されていた保留アイコンHAが、当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示され、保留アイコン表示領域50dの第2表示領域50d2に表示されていた保留アイコンHAが、第1表示領域50d1に移動して表示され、特図1保留数が『1』であることが遊技者に報知される。

【0178】

4-4. 予告演出

パチンコ遊技機PY1は、特図変動演出中の任意のタイミングで予告演出を行うことが可能である。予告演出は、画像表示装置50、スピーカ52、枠ランプ53、盤ランプ54、可動装置55、56、57、58、入力装置40、41等を用いた演出であり、大当たり判定の結果や特図変動パターン判定の結果を示唆することが可能である。

【0179】

4-4-1. 可動体演出

パチンコ遊技機PY1は、予告演出として、可動装置55、56、57、58を用いた可動体演出を行うことが可能である。可動体演出は、可動装置55、56、57、58を作動させる演出であり、その後に行われる演出(例えばSPリーチ)への発展などを事前に示唆することが可能である。

【0180】

例えば、特図変動パターン判定の結果がSP大当たり変動またはSPハズレ変動であった場合、NリーチからSPリーチに発展する際に、図23(A)に示すように、まず盤前可動装置55が作動して、盤前上左可動体55ULk、盤前上右可動体55URkおよび盤前下可動体55DKが合体して、表示部50aに表示されている通常状態の主人公キャラクタを覆う。そして、図23(B)に示すように、盤後可動装置56が作動して、盤後上可動体56Ukおよび盤後下可動体56Dkが合体して、表示部50aに表示されている通常状態の主人公キャラクタと、合体して一体化している盤前上左可動体55ULk、盤前上右可動体55URkおよび盤前下可動体55DKとの間に入り込み、通常状態の主人公キャラクタを覆う。そして、図23(C)に示すように、一旦、盤前上左可動体55ULk、盤前上右可動体55URkおよび盤前下可動体55DKが通常の待機状態(初期位置)に戻る。このとき、表示部50aの全域では、消灯しているように黒い画像が表示(ブラックアウト)され、SPリーチに発展することが示唆される。

【0181】

その後、図23(D)に示すように、再び、盤前可動装置55が作動して、盤前上左可動体55ULk、盤前上右可動体55URkおよび盤前下可動体55DKが合体し、合体して一体化している盤後上可動体56Ukおよび盤後下可動体56Dkを覆い、図23(E)~図23(F)に示すように、盤前可動装置55と盤後可動装置56とが通常の待機状態(初期位置)に戻ってSPリーチに発展する。この可動体演出は、発展演出の一例である。

【0182】

なお、可動体演出については、SPリーチへの発展示唆に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。また、可動体演出における可動装置の作動内容は、適宜に変更または追加することが可能である。また、演出が発展しない場合(例えばNリーチハズレ変動の場合)に、所謂ガセ演出として、可動体演出を行うようにすることも可能である。

【0183】

4-4-2. 操作演出

パチンコ遊技機PY1は、予告演出として、半球型ボタン40や剣型ボタン41を用いた操作促進演出および半球型ボタン40や剣型ボタン41の操作に応じた操作結果演出を含む操作演出を行うことが可能である。操作演出は、遊技者が半球型ボタン40や剣型ボタン41を操作する演出であり、演出図柄EZ1、EZ2、EZ3が大当たりを示す態様

で停止することを示唆することが可能である。

【 0 1 8 4 】

例えば、図 2 5 (C) に示すように、S P リーチにおいて、剣型ボタン 4 1 の押下操作が有効な期間 (剣型ボタン操作有効期間) が発生し、この剣型ボタン操作有効期間の発生に伴って、図 2 6 (A) に示すように、剣型ボタン 4 1 の操作を促す演出 (剣型ボタン操作促進演出) が行われる。剣型ボタン操作促進演出において、表示部 5 0 a に、剣型ボタン操作促進画像 G 3 が表示される。剣型ボタン操作促進画像 G 3 は、剣型ボタン 4 1 を表す画像 (剣型ボタン画像) G 3 1 と、剣型ボタン 4 1 の操作態様 (すなわち、押下操作) を表す画像 (押下操作画像) G 3 2 と、剣型ボタン 4 1 の操作に係る操作有効期間 (剣型ボタン操作有効期間) の残り時間を表す画像 (操作有効期間残り時間画像) G 3 3 と、を含む。なお、操作有効期間残り時間画像 G 3 3 は、おおむね曲線状のプログレスバーとなり、時間の経過に伴って、遊技者が操作有効期間の残り時間を容易に理解できるように変化する。図 2 6 (B) は、剣型ボタン操作有効期間が発生して、剣型ボタン操作有効期間の 1 / 3 の時間が経過した様子を表している。

10

【 0 1 8 5 】

その後、大当たり判定の結果が「大当たり」であった場合には、剣型ボタン操作有効期間において剣型ボタン 4 1 が押下操作された後、または、剣型ボタン操作有効期間において剣型ボタン 4 1 が操作されることなく操作有効期間の残り時間がなくなった後、特図の可変表示が終了する前に、図 2 6 (C) に示すように、盤前可動装置 5 5 が作動して、盤前上左可動体 5 5 U L k、盤前上右可動体 5 5 U R k および盤前下可動体 5 5 D k が合体し、盤後可動装置 5 6 が作動して、盤後上可動体 5 6 U k、盤後下可動体 5 6 D k が合体して一体化する操作結果演出 (大当たり示唆演出) が行われる。一方、大当たり判定の結果が「ハズレ」であった場合には、剣型ボタン操作有効期間において剣型ボタン 4 1 が押下操作されても、または、剣型ボタン 4 1 が押下操作されることなく演出ボタン操作有効期間の残り時間がなくなっても、特図の可変表示が終了する前に、盤前可動装置 5 5 および盤後可動装置 5 6 が作動しない操作結果演出 (ハズレ示唆演出) が行われる。

20

【 0 1 8 6 】

なお、操作結果演出については、盤前可動装置 5 5 や盤後可動装置 5 6 の作動に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。また、大当たり判定の結果が「ハズレ」の場合に、所謂ガセ演出として、大当たり判定の結果が「大当たり」の場合と同じ操作結果演出を行うようにすることも可能である。

30

【 0 1 8 7 】

4 - 4 - 3 . 先読み演出

パチンコ遊技機 P Y 1 は、予告演出として、特図抽選が行われていない特図 1 保留または特図 2 保留に対する先読み演出を行うことが可能である。先読み演出は、特図 1 保留または特図 2 保留に対する特図抽選の抽選結果を事前に示唆することが可能である。

【 0 1 8 8 】

例えば、特図 1 保留に対する先読み判定の結果が「大当たり」の場合、図 2 8 (A) に示すように、保留アイコン表示領域 5 0 d に通常は「○」で表示される保留アイコン H A を「 」で表示することがある。また、先読み判定の結果が「ハズレ」の場合に、所謂ガセ演出として、保留アイコン H A を「 」で表示することがある。

40

【 0 1 8 9 】

なお、先読み演出は、特図 1 保留および特図 2 保留の両方または一方に対して行うことが可能である。また、保留アイコン H A の表示態様の变化に限られず、適宜に変更または追加することが可能である。

【 0 1 9 0 】

5 . 遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御

次に図 2 9 ~ 図 3 0 に基づいて遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御について説明する。なお、以下において説明する遊技制御用マイコン 1 0 1 による遊技の制御において登場するカウンタ、タイマ、バッファ等は、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられている。

50

【 0 1 9 1 】

[1 . 主制御メイン処理]

主制御基板 1 0 0 に備えられた遊技制御用マイコン 1 0 1 は、パチンコ遊技機 P Y 1 が電源投入されると、遊技用 R O M 1 0 3 から図 2 9 に示した主制御メイン処理のプログラムを読み出して実行する。同図に示すように、主制御メイン処理では、まず、電源投入時処理 (S 0 0 1) を行う。電源投入時処理では、遊技用 R A M 1 0 4 へのアクセスの許可設定、遊技用 C P U 1 0 2 の設定、S I O、P I O、C T C (割り込み時間の管理のための回路) の設定等が行われる。

【 0 1 9 2 】

電源投入時処理に次いで、割り込みを禁止し (S 0 0 2)、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) を実行する。この普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) では、図 9 (A) および図 9 (B) に示した種々の乱数のカウンタ値を 1 加算して更新する。各乱数のカウンタ値は上限値に達すると「 0 」に戻って再び加算される。なお各乱数のカウンタの初期値は「 0 」以外の値であってもよく、ランダムに変更されるものであってもよい。また各乱数のうちの少なくとも一部は、カウンタ I C 等からなる公知の乱数生成回路を利用して生成される所謂ハードウェア乱数であってもよい。

【 0 1 9 3 】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) が終了すると、割り込みを許可する (S 0 0 4)。割り込み許可中は、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の実行が可能となる。メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) は、例えば 4 m s e c 周期で遊技用 C P U 1 0 2 に繰り返し入力される割り込みパルスに基づいて実行される。すなわち、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) は 4 m s e c 周期で実行される。そして、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が終了してから、次にメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が開始されるまでの間に、普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) による種々の乱数のカウンタ値の更新処理が繰り返し実行される。なお、割り込み禁止状態のときに遊技用 C P U 1 0 2 に割り込みパルスが入力された場合は、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) はすぐには開始されず、割り込み許可 (S 0 0 4) がされてから開始される。

【 0 1 9 4 】

[2 . メイン側タイマ割り込み処理]

次に、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) について説明する。図 3 0 に示すように、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) では、まず出力処理 (S 1 0 1) を実行する。出力処理 (S 1 0 1) では、以下に説明する各処理において主制御基板 1 0 0 の遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた出力バッファにセットされたコマンド等を、サブ制御基板 1 2 0 や払出制御基板 1 7 0 等に出力する。

【 0 1 9 5 】

出力処理 (S 1 0 1) に次いで行われる入力処理 (S 1 0 2) では、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、例えば、下皿 3 5 の満杯を検出する下皿満杯スイッチからの検出信号を取り込み、下皿満杯データとして遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファに記憶する。

【 0 1 9 6 】

次に行われる普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 1 0 3) は、図 2 9 の主制御メイン処理で行う普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 0 0 3) と同じである。即ち、図 9 (A) および図 9 (B) に示した各種乱数のカウンタ値の更新処理は、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の実行期間と、それ以外の期間 (メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の終了後、次のメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) が開始されるまでの期間) との両方で行われている。

【 0 1 9 7 】

普通図柄・特別図柄主要乱数更新処理 (S 1 0 3) に次いで、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、センサ検出処理 (S 1 0 4) を行い、続いて普通動作処理 (S 1 0 5) を行い、さらに特別動作処理 (S 1 0 6) を行う。センサ検出処理、普通動作処理および特別動作処

10

20

30

40

50

理については後述する。

【 0 1 9 8 】

特別動作処理 (S 1 0 6) に次いで、振分装置 1 6 D を制御するための振分装置制御処理を行う (S 1 0 7) 。

【 0 1 9 9 】

次に、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、その他の処理 (S 1 0 8) を実行して、メイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) を終了する。その他の処理 (S 1 0 8) としては、電源が断たれる際の電源断監視処理、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられているタイマの更新などが行われる。また、その他の処理 (S 1 0 8) として、遊技者に賞球を払い出す払出制御処理が行われる。払出制御処理では、各入賞口への遊技球の入賞に応じて、賞球要求信号を払出制御基板 1 7 0 に送信する。つまり、払出制御基板 1 7 0 は、賞球要求信号に基づいて、賞球を払い出す。

10

【 0 2 0 0 】

そして、遊技制御用マイコン 1 0 1 は、次に遊技用 C P U 1 0 2 に割り込みパルスが入力されるまでは主制御メイン処理のステップ S 0 0 2 ~ S 0 0 4 の処理を繰り返し実行し (図 2 9 参照)、割り込みパルスが入力されると (約 4 m s e c 後)、再びメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) を実行する。遊技制御用マイコン 1 0 1 は、再び実行されたメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) の出力処理 (S 1 0 1) において、前回のメイン側タイマ割り込み処理 (S 0 0 5) にて遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットされたコマンド等を出力する。

20

【 0 2 0 1 】

[2 - 1 . センサ検出処理]

センサ検出処理 (S 1 0 4) では、一般入賞口センサ処理、ゲートセンサ処理、第 2 始動口センサ処理、第 1 始動口センサ処理、第 1 大入賞口センサ処理、第 2 大入賞口センサ処理、特定領域センサ処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 2 0 2 】

一般入賞口センサ処理では、一般入賞口センサ 1 0 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じて、一般入賞口センサ用コマンドを生成する。

30

【 0 2 0 3 】

ゲートセンサ処理では、ゲートセンサ 1 3 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、普通図柄乱数カウンタのカウンタ値が示す普通図柄乱数を取得し、取得した普通図柄乱数を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた普図保留記憶部 1 0 6 に記憶する。なお、普図保留記憶部 1 0 6 に普通図柄乱数が所定数 (例えば 4 個) 記憶されている場合には、新たに取得された普通図柄乱数は記憶されない。また、当該処理の結果に応じて、ゲートセンサ用コマンドを生成する。

【 0 2 0 4 】

第 2 始動口センサ処理では、第 2 始動口センサ 1 2 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、特別図柄乱数カウンタ、大当たり図柄種別乱数カウンタ、リーチ乱数カウンタ及び特図変動パターン乱数カウンタからなる特図 2 関係乱数を取得し、取得した特図 2 関係乱数を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶する。特図 2 保留記憶部 1 0 5 b は、第 1 領域から第 n 領域まで (n は 2 以上の整数) の複数の記憶領域があり、取得された特図 2 関係乱数は、第 1 領域から順に記憶される。なお、第 n 領域まで特図 2 関係乱数が記憶されている場合には、新たに取得された特図 2 関係乱数は記憶されない。また、取得した特図 2 関係乱数と第 2 先読み判定テーブル (図 1 4 参照) とを用いて第 2 先読み判定を行う。また、当該処理の結果に応じて、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数の数 (特図 2 保留数) を表す特図 2 保留数コマンドおよび第 2 先読み判定の結果を表す第 2 始動入賞コマンドを含む第 2 始動口センサ用コマンドを生成する。

40

50

【 0 2 0 5 】

第 1 始動口センサ処理では、第 1 始動口センサ 1 1 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。遊技球が検出されたと判定されると、特別図柄乱数カウンタ、大当たり図柄種別乱数カウンタ、リーチ乱数カウンタ及び特図変動パターン乱数カウンタからなる特図 1 関係乱数を取得し、取得した特図 1 関係乱数を、遊技用 R A M 1 0 4 に設けられた特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶する。特図 1 保留記憶部 1 0 5 a は、第 1 領域から第 n 領域まで (n は 2 以上の整数) の複数の記憶領域があり、取得された特図 1 関係乱数は、第 1 領域から順に記憶される。なお、第 n 領域まで特図 1 関係乱数が記憶されている場合には、新たに取得した特図 1 関係乱数は記憶されない。また、取得した特図 1 関係乱数と第 1 先読み判定テーブル (図 1 4 参照) とを用いて第 1 先読み判定を行う。また、当該処理の結果に応じて、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数の数 (特図 1 保留数) を表す特図 1 保留数コマンドおよび第 1 先読み判定の結果を表す第 1 始動入賞コマンドを含む第 1 始動口センサ用コマンドを生成する。

10

【 0 2 0 6 】

第 1 大入賞口センサ処理では、第 1 大入賞口センサ 1 4 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じた第 1 大入賞口センサ用コマンドを生成する。

【 0 2 0 7 】

第 2 大入賞口センサ処理では、第 2 大入賞口センサ 1 5 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じた第 2 大入賞口センサ用コマンドを生成する。

20

【 0 2 0 8 】

特定領域センサ処理では、特定領域センサ 1 6 a によって遊技球が検出されたか否かを判定する。また、当該処理の結果に応じて、特定領域センサ用コマンドを生成する。

【 0 2 0 9 】

[2 - 2 . 普通動作処理]

普通動作処理 (S 1 0 5) では、普通図柄待機処理、普通図柄変動処理、普通図柄確定処理、補助遊技制御処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 2 1 0 】

30

普通図柄待機処理は、普図の可変表示および補助遊技が行われていない待機中に行われる処理である。普通図柄待機処理では、普図保留記憶部 1 0 6 に記憶された普通図柄乱数に基づいて当たり判定を行う。また、現在の遊技状態に基づいて普図変動パターン判定を行って普図変動パターンを決定する。そして、当たり判定および普図変動パターンの結果に関する情報を含む普図変動開始コマンドを生成する。それから、決定した普図変動パターンに対応付けられた普図変動時間に基づいて、普図の可変表示を普図表示器 8 2 に開始させる。

【 0 2 1 1 】

普通図柄変動処理は、普図の可変表示中に行われる処理である。普通図柄変動処理では、実行中の普図の可変表示が開始してから普図変動時間が経過することに応じて、当たり判定結果に基づいて普図の停止表示を行う。そして、普図の可変表示の終了を示す普図変動停止コマンドを生成する。

40

【 0 2 1 2 】

普通図柄確定処理は、普図が停止表示しているときに行われる処理である。普通図柄確定処理では、実行中の普図の停止表示が開始してから所定の停止時間 (例えば、 0 . 8 秒) が経過することに応じて、停止表示している普図が当たり図柄であるか否かを判定する。当たり図柄が停止表示していれば、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を開始させ、補助遊技の開始を示す補助遊技開始コマンドを生成する。

【 0 2 1 3 】

補助遊技制御処理は、補助遊技が行われているときに行われる処理である。補助遊技制

50

御処理では、現在の遊技状態および補助遊技制御テーブルに基づいて補助遊技を制御する。また、当該処理の結果に応じて、補助遊技制御用コマンドを生成する。

【 0 2 1 4 】

[2 - 3 . 特別動作処理]

特別動作処理 (S 1 0 6) では、特別図柄待機処理、特別図柄変動処理、特別図柄確定処理、大当たり遊技制御処理、遊技状態設定処理を順次行う。そして、各処理において生成されたコマンドを遊技用 R A M 1 0 4 の出力バッファにセットする。

【 0 2 1 5 】

[2 - 3 - 1 . 特別図柄待機処理]

特別図柄待機処理は、大当たり遊技状態ではなく、特図の可変表示が行われていない待機中に行われる処理である。特別図柄待機処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数に基づいて、特図 2 判定処理及び特図 2 変動パターン判定処理を行うとともに、特図 2 保留記憶部シフト処理を行う。また、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数に基づいて、特図 1 判定処理及び特図 1 変動パターン判定処理を行うとともに、特図 1 保留記憶部シフト処理を行う。

【 0 2 1 6 】

特図 2 判定処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b の第 1 領域に記憶されていた特図 2 関係乱数のうちの特別図柄乱数と、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブル (図 1 1 (A) 参照) と、を用いて、大当たり、または、ハズレの何れであるかを判定する大当たり判定を行う。大当たり判定の結果が大当たりであれば、特図 2 関係乱数のうちの大当たり図柄種別乱数と特図 2 大当たり図柄種別判定テーブル (図 1 1 (B) 参照) とを用いて、大当たり図柄の種別を判定する大当たり図柄種別判定を行う。そして、判定された大当たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを生成する。また、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを表す図柄指定コマンドを生成する。

【 0 2 1 7 】

特図 2 変動パターン判定処理は、特図 2 判定処理の後に行われる処理である。特図 2 変動パターン判定処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b の第 1 領域に記憶されていた特図 2 関係乱数のうちの特図変動パターン乱数と、現在の遊技状態に応じた特図 2 変動パターンテーブル (図 1 3 参照) と、を用いて、特図 2 変動パターンを判定する。なお、特図 2 変動パターンの判定は、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数の数 (特図 2 保留数) にも関連付けられる。そして、判定された特図 2 変動パターンを表す特図 2 変動開始コマンドを生成する。特図 2 変動開始コマンドには、特図 2 であることに関する情報、大当たり判定の結果に関する情報、リーチ判定の結果に関する情報、特図 2 変動パターンに対応付けられた特図変動時間の情報などが含まれる。そして、判定された特図 2 変動パターンに対応付けられた特図変動時間に基づいて特図 2 表示器 8 1 b に特図 2 の可変表示を開始させる。

【 0 2 1 8 】

特図 2 保留記憶部シフト処理は、特図 2 判定処理及び特図 2 変動パターン判定処理が行われる際に行われる処理である。特図 2 保留記憶部シフト処理では、特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されていた特図 2 関係乱数を第 1 領域側に一つシフトするとともに、第 1 領域の特図 2 関係乱数を特図 2 保留記憶部 1 0 5 b からクリアする。このようにして、特図 2 関係乱数は取得された順に消化される。そして、当該処理後の特図 2 保留数を表す特図 2 保留数コマンドを生成する。

【 0 2 1 9 】

特図 1 判定処理では、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 1 領域に記憶されていた特図 1 関係乱数のうちの特別図柄乱数と、現在の遊技状態に応じた大当たり判定テーブル (図 1 1 (A) 参照) と、を用いて、大当たり、または、ハズレの何れであるかを判定する大当たり判定を行う。大当たり判定の結果が大当たりであれば、特図 1 関係乱数のうちの大当たり図柄種別乱数と特図 1 大当たり図柄種別判定テーブル (図 1 1 (B) 参照) とを用いて、大当たり図柄の種別を判定する大当たり図柄種別判定を行う。そして、判定された大当

たり図柄種別を表す図柄指定コマンドを生成する。また、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを表す図柄指定コマンドを生成する。

【 0 2 2 0 】

特図 1 変動パターン判定処理は、特図 1 判定処理の後に行われる処理である。特図 1 変動パターン判定処理では、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 1 領域に記憶されていた特図 1 関係乱数のうちの特図変動パターン乱数と、現在の遊技状態に応じた特図 1 変動パターンテーブル（図 1 2 参照）と、を用いて、特図 1 変動パターンを判定する。なお、特図 1 変動パターンの判定は、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数の数（特図 1 保留数）にも関連付けられる。そして、判定された特図 1 変動パターンを表す特図 1 変動開始コマンドを生成する。特図 1 変動開始コマンドには、特図 1 であることに関する情報、大当たり判定の結果に関する情報、リーチ判定の結果に関する情報、大当たり種別判定の結果に関する情報、特図 1 変動パターンに対応付けられた特図変動時間の情報などが含まれる。そして、判定された特図 1 変動パターンに対応付けられた特図変動時間に基づいて特図 1 表示器 8 1 a に特図 1 の可変表示を開始させる。

10

【 0 2 2 1 】

特図 1 保留記憶部シフト処理は、特図 1 判定処理及び特図 1 変動パターン判定処理が行われる際に行われる処理である。特図 1 保留記憶部シフト処理では、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されていた特図 1 関係乱数を第 1 領域側に一つシフトするとともに、第 1 領域の特図 1 関係乱数を特図 1 保留記憶部 1 0 5 a からクリアする。このようにして、特図 1 関係乱数は取得された順に消化される。そして、当該処理後の特図 1 保留数を表す特図 1 保留数コマンドを生成する。

20

【 0 2 2 2 】

なお、特図 2 保留数および特図 1 保留数の何れも存在する場合、特図 2 判定処理が優先して行われ、特図 2 の可変表示と特図 1 の可変表示とが並行して行われなくなっている。

【 0 2 2 3 】

[2 - 3 - 2 . 特別図柄変動処理]

特別図柄変動処理は、特図の可変表示中に行われる処理である。特別図柄変動処理では、特図変動時間が経過することに応じて、特図表示器 8 1 に、特図の可変表示を終了させるとともに、大当たり判定の結果に応じた特図を停止表示させる。大当たり判定の結果が大当たりであれば、大当たりを示す大当たり図柄を停止表示させ、大当たり判定の結果がハズレであれば、ハズレを示すハズレ図柄を停止表示させる。そして、特図の可変表示の終了を示す特図変動停止コマンドを生成する。

30

【 0 2 2 4 】

[2 - 3 - 3 . 特別図柄確定処理]

特別図柄確定処理は、特図が停止表示しているときに行われる処理である。特別図柄確定処理では、現在停止表示している特図が大当たり図柄である場合には、大当たり遊技状態に移行させる。そして、大当たり遊技の開始を示すオープニングコマンドを生成する。オープニングコマンドには、大当たり種別判定の結果に関する情報が含まれる。また、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ高確率状態を終了させる場合には、通常確率状態を設定する。そして、通常確率状態への移行を示す高確率終了コマンドを生成する。また、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ時短状態を終了させる場合には、非時短状態を設定する。そして、非時短状態への移行を示す時短終了コマンドを生成する。なお、現在停止表示している特図がハズレ図柄であり且つ特図 2 保留数および特図 1 保留数が「 0 」の場合には、パチンコ遊技機 P Y 1 が待機状態であることを示す客待ちコマンドを生成する。

40

【 0 2 2 5 】

[2 - 3 - 4 . 大当たり遊技制御処理]

大当たり遊技制御処理は、大当たり遊技状態において行われる処理である。大当たり遊技制御処理では、大当たり遊技制御テーブル（図 1 5 参照）を用いて、大当たり遊技を行

50

う。大当たり遊技状態への移行後、オープニング時間または閉鎖時間の経過に応じて、各ラウンド遊技を開始する。そして、ラウンド遊技の開始を示すラウンド遊技コマンドを生成する。また、最終のラウンド遊技を終了させることに応じて、エンディングを開始する。そして、大当たり遊技の終了を示すエンディングコマンドを生成する。エンディングコマンドには、大当たり種別判定の結果に関する情報が含まれる。

【 0 2 2 6 】

[2 - 3 - 5 . 遊技状態設定処理]

遊技状態設定処理は、大当たり遊技状態が終了する際に行われる処理である。遊技状態設定処理では、通常確率状態から高確率状態に変更する場合は、大当たり遊技状態の終了の際に高確率状態を設定する。高確率状態の継続期間を制限する場合には、高確率状態の継続期間（例えば、大当たりに当選することなく高確率状態が継続できる特図の可変表示の回数）も併せて設定する。そして、高確率状態の設定を示す高確率設定コマンドを生成する。また、非時短状態から時短状態に変更する場合は、大当たり遊技状態の終了の際に時短状態を設定する。時短状態の継続期間を制限する場合には、時短状態の継続期間（例えば、大当たりに当選することなく時短状態が継続できる特図の可変表示の回数）も併せて設定する。そして、時短状態の設定を示す時短設定コマンドを生成する。

【 0 2 2 7 】

なお、遊技制御用マイコン 1 0 1 が各処理において生成するコマンドは、適宜に追加または変更することが可能である。

【 0 2 2 8 】

6 . 演出制御用マイコン 1 2 1 による演出の制御

次に、図 3 1 ~ 図 3 3 に基づいて演出制御用マイコン 1 2 1 による演出の制御について説明する。なお、以下の演出制御用マイコン 1 2 1 による演出の制御の説明において登場するカウンタ、タイマ、フラグ、バッファ等は、演出用 R A M 1 2 4 に設けられている。

【 0 2 2 9 】

[1 . サブ制御メイン処理]

サブ制御基板 1 2 0 に備えられた演出制御用マイコン 1 2 1 は、パチンコ遊技機 P Y 1 が電源投入されると、図 3 1 に示したサブ制御メイン処理のプログラムを演出用 R O M 1 2 3 から読み出して実行する。同図に示すように、サブ制御メイン処理では、最初に、電源投入に応じた電源投入時処理を行う（ S 4 0 0 1 ）。電源投入時処理では、例えば、演出用 C P U 1 2 2 の設定、 S I O、 P I O、 C T C（割り込み時間の管理のための回路）等の設定等を行う。

【 0 2 3 0 】

次に、割り込みを禁止し（ S 4 0 0 2 ）、乱数更新処理を実行する（ S 4 0 0 3 ）。乱数更新処理（ S 4 0 0 3 ）では、種々の演出に関する判定を行うための種々の演出判定用乱数カウンタの値を更新する。種々の演出についての演出判定用乱数カウンタの更新方法は、一例として、前述の主制御基板 1 0 0 が行う乱数更新処理と同様の方法をとることができる。更新に際して乱数値を 1 ずつ加算するのではなく、 2 ずつ加算するなどしてもよい。これは、前述の主制御基板 1 0 0 が行う乱数更新処理においても同様である。

【 0 2 3 1 】

乱数更新処理が終了すると、コマンド送信処理を実行する（ S 4 0 0 4 ）。コマンド送信処理では、サブ制御基板 1 2 0 の演出用 R A M 1 2 4 内の出力バッファに格納されている各種のコマンドを、画像制御基板 1 4 0 に送信する。コマンドを受信した画像制御基板 1 4 0 は、受信したコマンドに従って、表示部 5 0 a に画像を表示する（画像による種々の演出を実行する）。また、サブ制御基板 1 2 0 は、画像制御基板 1 4 0 によって行われる種々の演出とともに、音声制御回路 1 6 1 を介してスピーカ 5 2 から音声を出力させたり（音声による種々の音演出を実行したり）、ランプ制御回路 1 5 1 を介して枠ランプ 5 3、および盤ランプ 5 4 を発光させたり（発光による種々の発光演出を実行したり）、可動装置 5 5、5 6、5 7、5 8 を作動させたり（動作による種々の可動体演出を実行したり）する。

【 0 2 3 2 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は続いて、割り込みを許可する (S 4 0 0 5)。以降、ステップ S 4 0 0 2 ~ ステップ S 4 0 0 5 をループさせる。割り込み許可中においては、受信割り込み処理 (S 4 0 1 0)、1 m s タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 1)、および 1 0 m s タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 2) の実行が可能となる。

【 0 2 3 3 】

受信割り込み処理 (S 4 0 1 0) は、主制御基板 1 0 0 から送られた各種のコマンドが演出制御用マイコン 1 2 1 に入力される度に実行される。受信割り込み処理 (S 4 0 1 0) では、演出制御用マイコン 1 2 1 は主制御基板 1 0 0 の出力処理 (S 1 0 1) により送信されてきて受信した各種のコマンドを演出用 R A M 1 2 4 の受信バッファに格納する。この受信割り込み処理は、他の割り込み処理 (S 4 0 1 1、S 4 0 1 2) に優先して実行される。

10

【 0 2 3 4 】

[2 . 1 m s タイマ割り込み処理]

1 m s タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 1) は、サブ制御基板 1 2 0 に 1 m s e c 周期の割り込みパルスが入力される度に実行される。1 m s タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 1) では、図 3 2 に示すように、入力処理 (S 4 1 0 1)、発光データ出力処理 (S 4 1 0 2)、可動装置制御処理 (S 4 1 0 3)、ウォッチドッグタイマ処理 (S 4 1 0 4) を順次行う。

【 0 2 3 5 】

入力処理では、半球型ボタン検出スイッチ 4 0 a や剣型ボタン検出スイッチ 4 1 a などの遊技者が操作可能な操作部に対する操作を検出する。発光データ出力処理では、後述する演出データ作成処理で作成された演出用データに基づいて、画像による演出等に合うタイミングなどで枠ランプ 5 3、および盤ランプ 5 4 などのランプを発光させるべく、発光データをランプ制御回路 1 5 1 に出力する。つまり、演出制御用マイコン 1 2 1 は、発光データに従って枠ランプ 5 3、および盤ランプ 5 4 などを所定の発光態様で発光させる。可動装置制御処理では、演出データ作成処理で作成された演出用データに基づいて、所定のタイミングで可動装置 5 5、5 6、5 7、5 8 などの可動装置を動作させる可動体演出を行うべく、駆動データを出力する。つまり、演出制御用マイコン 1 2 1 は、駆動データに従って、可動装置 5 5、5 6、5 7、5 8 などを所定の動作態様で動作させる可動体演出を行う。ウォッチドッグタイマ処理では、ウォッチドッグタイマのリセット設定を行う。

20

30

【 0 2 3 6 】

[3 . 1 0 m s タイマ割り込み処理]

1 0 m s タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 2) は、サブ制御基板 1 2 0 に 1 0 m s e c 周期の割り込みパルスが入力される度に実行される。1 0 m s タイマ割り込み処理 (S 4 0 1 2) では、図 3 3 に示すように、受信コマンド解析処理 (S 4 2 0 1)、演出タイマ更新処理 (S 4 2 0 2)、音声制御処理 (S 4 2 0 3)、演出用データ作成処理 (S 4 2 0 4) を順次行う。

【 0 2 3 7 】

受信コマンド解析処理では、受信割り込み処理 (S 4 0 1 0) によって演出用 R A M 1 2 4 の受信バッファに格納されたコマンドを解析し、そのコマンドに応じた処理 (例えば演出の選択や演出モードの設定、コマンドのセット等) を行う。演出タイマ更新処理では、各演出に関する時間を計測するためのタイマを更新する。音声制御処理では、受信コマンド解析処理の処理結果に基づいて、音声データ (スピーカ 5 2 からの音声の出力を制御するデータ) の作成と音声制御回路 1 6 1 への出力が行われる。演出用データ作成処理では、受信コマンド解析処理の処理結果に基づいて、演出用データの作成が行われる。

40

【 0 2 3 8 】

< パチンコ遊技機 P Y 1 の特徴部 >

以下、前述のパチンコ遊技機 P Y 1 の特徴部を詳細に説明する。最初に、遊技制御用マ

50

アイコン 101 が決定可能な始動入賞コマンドについて説明する。遊技制御用マイコン 101 は、図 34 に示す先読み判定テーブルを用いて、始動入賞コマンドを決定可能である。

【0239】

遊技制御用マイコン 101 は、第 1 先読み判定処理または第 2 先読み判定処理において、取得した特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数のうちの、特別図柄乱数が大当たり判定で大当たりと判定されるか否かの判定、および、変動パターン乱数が増変動パターン判定で何れの変動パターンに決定されるかの判定、の少なくとも 1 つの判定を含む先読み判定を行う。そして、先読み判定の結果に基づいて、始動入賞コマンドを決定する。図 34 に示すように、始動入賞コマンドとして、「始動入賞コマンド 061」～「始動入賞コマンド 067」の 7 種類の始動入賞コマンドを決定することが可能である。

10

【0240】

先読み判定の結果が「大当たり」且つ「SP 大当たり変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 061」を決定し、先読み判定の結果が「大当たり」且つ「L 大当たり変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 062」を決定し、先読み判定の結果が「大当たり」且つ「N 大当たり変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 063」を決定し、先読み判定の結果が「ハズレ」且つ「SP ハズレ変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 064」を決定し、先読み判定の結果が「ハズレ」且つ「L ハズレ変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 065」を決定し、先読み判定の結果が「ハズレ」且つ「N ハズレ変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 066」を決定し、先読み判定の結果が「ハズレ」且つ「通常ハズレ変動」であった場合は、「始動入賞コマンド 067」を決定する。

20

【0241】

次に、遊技制御用マイコン 101 が決定可能な各始動入賞コマンドの役割について説明する。演出制御用マイコン 121 は、遊技制御用マイコン 101 が決定した始動入賞コマンドに基づいて、後述する「保留演出」を含む先読み演出を実行可能である。

【0242】

「始動入賞コマンド 061」が決定された場合、演出制御用マイコン 121 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、大当たり遊技が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。また、演出制御用マイコン 121 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することや、「SP リーチ」が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。

30

【0243】

「始動入賞コマンド 062」が決定された場合、演出制御用マイコン 121 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、大当たり遊技が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。また、演出制御用マイコン 121 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することや、「L リーチ」が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。

40

【0244】

「始動入賞コマンド 063」が決定された場合、演出制御用マイコン 121 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、大当たり遊技が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。また、演出制御用マイコン 121 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することや、「N リーチ」が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。

【0245】

50

「始動入賞コマンド 0 6 4」が決定された場合、演出制御用マイコン 1 2 1 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することや、「S P リーチ」が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。

【 0 2 4 6 】

「始動入賞コマンド 0 6 5」が決定された場合、演出制御用マイコン 1 2 1 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することや、「L リーチ」が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。

【 0 2 4 7 】

「始動入賞コマンド 0 6 6」が決定された場合、演出制御用マイコン 1 2 1 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することや、「N リーチ」が行われることを示唆する先読み演出を実行可能である。

【 0 2 4 8 】

「始動入賞コマンド 0 6 7」が決定された場合、演出制御用マイコン 1 2 1 は、この始動入賞コマンドが決定されたことになった特図 1 関係乱数または特図 2 関係乱数に対して大当たり判定が行われる前に、「リーチ」が成立することを示唆する先読み演出と同じ先読み演出（所謂ガセ演出）を実行可能である。これにより、遊技者に「リーチ」が成立するかもしれないと思わせることが可能である。

【 0 2 4 9 】

次に、図 3 5 を用いて、演出制御用マイコン 1 2 1 が設定可能な演出モードについて説明する。演出制御用マイコン 1 2 1 は、遊技制御用マイコン 1 0 1 が設定している遊技状態に応じて、複数種類の演出モードを設定可能である。

【 0 2 5 0 】

遊技制御用マイコン 1 0 1 が「低確率低ベース遊技状態」を設定しているときにおいては、演出モード A、演出モード B および演出モード C の何れかを設定可能である。各演出モード間の移行は、特図の可変表示の回数（例えば 1 0 回）と、特図の可変表示ごとに行われる変更抽選（例えば 1 / 5 で当選）の結果と、に基づいて行われる。なお、変更先となる演出モードも変更抽選によって決定することが可能である。演出モード A が設定されているときには、図 3 5（A）に示すように、昼間通常用背景画像 G 1 0 2 が表示部 5 0 a に表示される。演出モード B が設定されているときには、図 3 5（B）に示すように、夕方通常用背景画像 G 1 0 3 が表示部 5 0 a に表示される。演出モード C が設定されているときには、図 3 5（C）に示すように、夜通常用背景画像 G 1 0 4 が表示部 5 0 a に表示される。

【 0 2 5 1 】

遊技制御用マイコン 1 0 1 が「低確率高ベース遊技状態」を設定しているときにおいては、演出モード D および演出モード E の何れかを設定可能である。遊技制御用マイコン 1 0 1 によって「低確率高ベース遊技状態」が設定されると、最初に演出モード D を設定し、特図の可変表示の回数（例えば 9 0 回）に基づいて、演出モード D から演出モード E に変更する。演出モード D を設定しているときには、図 3 5（D）に示すように、空 A 時短用背景画像 G 1 0 6 a が表示部 5 0 a に表示される。演出モード C を設定しているときには、図 3 5（E）に示すように、空 B 時短用背景画像 G 1 0 6 b が表示部 5 0 a に表示される。

【 0 2 5 2 】

遊技制御用マイコン 1 0 1 が「高確率高ベース遊技状態」を設定しているときにおいては、演出モード F および演出モード G の何れかを設定可能である。遊技制御用マイコン 1 0 1 によって「高確率低ベース遊技状態」が設定されると、最初に演出モード F を設定し、特図の可変表示の回数（例えば 5 回）に基づいて、演出モード D から演出モード E に変更する。演出モード F を設定しているときには、図 3 5（F）に示すように、宇宙 A 確変

10

20

30

40

50

用背景画像 G 1 0 5 a が表示部 5 0 a に表示される。演出モード G を設定しているときには、図 3 5 (G) に示すように、宇宙 B 確変用背景画像 G 1 0 5 b が表示部 5 0 a に表示される。

【 0 2 5 3 】

また、演出制御用マイコン 1 2 1 は、主制御基板 1 0 0 から送信された特図 1 保留数コマンドまたは特図 2 保留数コマンドに基づいて、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a に記憶されている特図 1 関係乱数 (特図 1 保留) の数または特図 2 保留記憶部 1 0 5 b に記憶されている特図 2 関係乱数 (特図 2 保留) の数を示唆する保留アイコン H A の保留アイコン表示領域 5 0 d への表示や、主制御基板 1 0 0 から送信された特図 1 変動開始コマンドまたは特図 2 変動開始コマンドに基づいて、特図の可変表示が開始されたことを示唆する当該アイコン T A の当該アイコン表示領域 5 0 e への表示を行う「保留演出」を実行可能である。ここでは、遊技用 R A M 1 0 4 の特図 1 保留記憶部 1 0 5 a および特図 2 保留記憶部 1 0 5 b のそれぞれには、第 1 領域から第 4 領域の記憶領域があることとし、特図 1 保留数および特図 2 保留数のそれぞれに対応する保留アイコン H A は、それぞれ最大 4 個まで表示可能とする。また、当該アイコン T A は、それぞれ 1 個だけ表示可能とする。

10

【 0 2 5 4 】

ここで、図 3 6 (A) , 図 3 6 (B) を用いて、保留アイコン表示領域 5 0 d および当該アイコン表示領域 5 0 e について詳細に説明する。演出制御用マイコン 1 2 1 は、表示部 5 0 a の所定位置に、保留アイコン表示領域 5 0 d および当該アイコン表示領域 5 0 e を配置することが可能である。ここでは、演出制御用マイコン 1 2 1 が演出モード A を設定しているときを例に説明する。

20

【 0 2 5 5 】

保留アイコン表示領域 5 0 d は、左右方向に並ぶ 4 つの表示領域が設けられ、右から順に、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 1 領域に記憶可能な特図 1 保留に対応する保留アイコン H A が表示される第 1 表示領域 5 0 d 1、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 2 領域に記憶可能な特図 1 保留に対応する保留アイコン H A が表示される第 2 表示領域 5 0 d 2、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 3 領域に記憶可能な特図 1 保留に対応する保留アイコン H A が表示される第 3 表示領域 5 0 d 3、特図 1 保留記憶部 1 0 5 a の第 4 領域に記憶可能な特図 1 保留に対応する保留アイコン H A が表示される第 4 表示領域 5 0 d 4、からなる。

【 0 2 5 6 】

30

当該アイコン表示領域 5 0 e は、保留アイコン表示領域 5 0 d の右側に位置し、消化された特図 1 保留に対応する当該アイコン T A が表示される。また、各表示領域 5 0 d 1 , 5 0 d 2 , 5 0 d 3 , 5 0 d 4 , 5 0 e の下部には、それぞれ保留台座画像 G 4 ~ G 8 が表示される。なお、詳細は後述するが、保留台座画像 G 4 ~ G 8 は、通常位置と、通常位置から上昇した上昇位置とに表示可能であり、保留台座画像 G 4 ~ G 8 が通常位置に表示されているときには、図 3 6 (A) に示すように、通常位置にある保留台座画像 G 4 ~ G 8 の直上位置に第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 , 当該アイコン表示領域 5 0 e が配置される一方、保留台座画像 G 4 ~ G 8 が上昇位置に表示されているときには、図 3 6 (B) に示すように、上昇位置にある保留台座画像 G 4 ~ G 8 の直上位置に第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 , 当該アイコン表示領域 5 0 e が配置される。

40

【 0 2 5 7 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、主制御基板 1 0 0 から送信された特図 1 保留数コマンドが表す特図 1 保留の数が増加していれば、保留アイコン表示領域 5 0 d に保留アイコン H A を追加して表示する。例えば、保留アイコン H A を第 1 表示領域 5 0 d 1 だけに表示しているときに、特図 1 保留の数が『 2 』を表す特図 1 保留数コマンドが送信された場合、第 2 表示領域 5 0 d 2 に保留アイコン H A を表示し、特図 1 保留数が『 2 』であることを遊技者に報知する。一方、主制御基板 1 0 0 から送信された特図 1 保留数コマンドが表す特図 1 保留の数が減少していれば、現在保留アイコン表示領域 5 0 d に表示されている保留アイコン H A を右側に移動させるとともに、一番右側に表示されている保留アイコン H A を当該アイコン表示領域 5 0 e に移動させて当該アイコン T A として表示する。例えば

50

、保留アイコンH Aを第1表示領域5 0 d 1と第2表示領域とに表示しているときに、特図1保留の数が『1』を表す特図1保留数コマンドが送信された場合、第1表示領域5 0 d 1に表示している保留アイコンH Aを当該アイコン表示領域5 0 eに移動し、第2表示領域5 0 d 2に表示している保留アイコンH Aを第1表示領域5 0 d 1に移動して、特図1保留数が『1』であることを遊技者に報知する。

【0258】

また、演出制御用マイコン121は、図37に示すように、設定している演出モードの種類に応じて、異なる表示位置に、異なる表示態様で保留アイコンH Aと当該アイコンT Aとを表示可能である。

【0259】

演出モードAまたは演出モードBを設定しているときには、保留アイコン表示領域5 0 dおよび当該アイコン表示領域5 0 eを、表示部5 0 aの左下部に配置する。特図1保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aとして太陽画像G 2 0 0を表示し、特図2保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aは表示しない(図35(A)、図35(B)参照)。

【0260】

演出モードCを設定しているときには、保留アイコン表示領域5 0 dおよび当該アイコン表示領域5 0 eを、表示部5 0 aの左下部に配置する。特図1保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aとして星画像G 2 0 1を表示し、特図2保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aは表示しない(図35(C)参照)。

【0261】

演出モードDまたは演出モードEを設定しているときには、保留アイコン表示領域5 0 dおよび当該アイコン表示領域5 0 eを、表示部5 0 aの右下部に配置する。特図2保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aとして飛行機画像G 2 0 2を表示し、特図1保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aは表示しない(図35(D)、図35(E)参照)。

【0262】

演出モードFまたは演出モードGを設定しているときには、保留アイコン表示領域5 0 dおよび当該アイコン表示領域5 0 eを、表示部5 0 aの中央下部に配置する。特図2保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aとしてロケット画像G 2 0 3を表示し、特図2保留に対応する保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aは表示しない(図35(F)、図35(G)参照)。

【0263】

また、図37に示すように、各演出モードにおいて表示される保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aの表示態様には、通常の表示態様と特別の表示態様とがある。通常では、保留アイコンH Aおよび当該アイコンT Aが通常の表示態様で表示されるが、後述する「保留変化演出」や「当該保留変化演出」が実行される場合に、保留アイコンH Aや当該アイコンT Aが特別の表示態様で表示される。特別の表示態様の種類として、青色と緑色と赤色とがある。なお、特別の表示態様の種類や数は、適宜に変更することが可能である。

【0264】

演出モードAおよび演出モードBでは、通常の表示態様として黄色の太陽画像G 2 0 0 t jを表示し、特別の表示態様として、青色の太陽画像G 2 0 0 t b 1、緑色の太陽画像G 2 0 0 t b 2または赤色の太陽画像G 2 0 0 t b 3を表示する。演出モードCでは、通常の表示態様として黄色の星画像G 2 0 1 t jを表示し、特別の表示態様として、青色の星画像G 2 0 1 t b 1、緑色の星画像G 2 0 1 t b 2または赤色の星画像G 2 0 1 t b 3を表示する。演出モードDまたは演出モードEでは、通常の表示態様として白色の飛行機画像G 2 0 2 t jを表示し、特別の表示態様として、青色の飛行機画像G 2 0 2 t b 1、緑色の飛行機画像G 2 0 2 t b 2または赤色の飛行機画像G 2 0 2 t b 3を表示する。演出モードFおよび演出モードGでは、通常の表示態様として白色のロケット画像G 2 0 3

10

20

30

40

50

t j を表示し、特別の表示態様として、青色のロケット画像 G 2 0 3 t b 1、緑色のロケット画像 G 2 0 3 t b 2 または赤色のロケット画像 G 2 0 3 t b 3 を表示する。

【 0 2 6 5 】

次に、図 3 8 ~ 図 4 0 を用いて、「保留演出」について詳細に説明する。最初に、「保留演出」において実行可能な主要な演出について説明する。

【 0 2 6 6 】

A . 保留変化演出

保留アイコン H A が、保留アイコン表示領域 5 0 d に表示される際に、または、保留アイコン表示領域 5 0 d に表示された後に、行われることがある演出であり、保留アイコン H A の表示態様が増加する演出である。先読み判定の結果が、大当たりであってもハズレであっても実行されることがあるため、大当たり遊技が行われる可能性がある演出として機能する。また、先読み判定の結果が、ハズレであった場合よりも大当たりであった場合の方が実行され易いため、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。

【 0 2 6 7 】

B . 当該保留変化演出

当該アイコン T A が、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示される際に、または、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示された後に、行われることがある演出であり、当該アイコン T A の表示態様が増加する演出である。先読み判定の結果または大当たり判定の結果が、大当たりであってもハズレであっても実行されるため、大当たり遊技が行われる可能性がある演出として機能する。また、先読み判定の結果または大当たり判定の結果が、ハズレであった場合よりも大当たりであった場合の方が実行され易いため、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。また、「保留変化演出」によって保留アイコン H A の表示態様が増加しなかった場合でも行われることがあるため、敗者復活的な演出としても機能する。

【 0 2 6 8 】

C . 保留台座演出

保留アイコン H A が保留アイコン表示領域 5 0 d に表示される際または表示された後に、または、当該アイコン T A が当該アイコン表示領域 5 0 e に表示される際または表示された後に、行われることがある演出であり、保留台座画像 G 4 ~ G 8 が上昇して表示される演出である。その際またはその後に、「保留変化演出」または「当該保留変化演出」が行われることがあるため、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様が増加したことを示唆する演出、または、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様が増加する可能性があることを示唆する演出、として機能する。また、その後に、「保留変化演出」または「当該保留変化演出」が行われない場合よりも行われる場合の方が実行され易いため、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様が増加する可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。

【 0 2 6 9 】

次に、「保留変化演出」について詳細に説明する。演出制御用マイコン 1 2 1 は、遊技制御用マイコン 1 0 1 による先読み判定において決定された始動入賞コマンドに基づいて、「保留変化演出」を実行可能である。「保留変化演出」には、変化パターン A ~ C の 3 種類の変化パターンがある。なお、変化パターンの種類や数は、適宜に変更することが可能である。

【 0 2 7 0 】

変化パターン A は、保留アイコン H A が、通常の表示態様で表示されることなく、最初から特別の表示態様で保留アイコン表示領域 5 0 d に表示される変化パターンである。変化パターン A には、保留アイコン H A が青色で表示される変化パターン A - 1 と、保留アイコン H A が緑色で表示される変化パターン A - 2 と、保留アイコン H A が赤色で表示される変化パターン A - 3 と、がある。

【 0 2 7 1 】

変化パターンBは、保留アイコンHAが、通常が表示態様で保留アイコン表示領域50dに表示された後のタイミング（保留の数が減少して保留アイコンHAが移動するタイミング）で、特別の表示態様に変化する変化パターンである。変化パターンBには、保留アイコンHAが青色に変化する変化パターンB-1と、保留アイコンHAが緑色に変化する変化パターンB-2と、保留アイコンHAが赤色に変化する変化パターンB-3と、がある。

【0272】

変化パターンCは、保留アイコンHAが、通常が表示態様で表示されることなく、最初から特別の表示態様で保留アイコン表示領域50dに表示され、その後のタイミング（保留の数が減少して保留アイコンHAが移動するタイミング）で、更に表示態様に変化する変化パターンである。変化パターンCには、保留アイコンHAが青色で表示されてから緑色に変化する変化パターンC-1と、保留アイコンHAが青色で表示されてから緑色に変化する変化パターンC-2と、保留アイコンHAが緑色で表示されてから赤色に変化する変化パターンC-3と、がある。

【0273】

演出制御用マイコン121は、図38(A)に示す保留変化演出選択テーブルを用いて、変化パターンA～Cの何れで「保留変化演出」を実行するかを選択する。ここでは、特図1保留数または特図2保留数が『2』以上であることを条件に選択可能とするが、条件については適宜に変更することが可能である。

【0274】

次に、「保留変化演出」の演出内容について、図39を用いて、具体的に説明する。ここでは、演出モードAが設定されており、第1表示領域50d1に保留アイコンHAとして黄色の太陽画像G200tjが表示されており、当該アイコン表示領域50eに当該アイコンTAとして黄色の太陽画像G200tjが表示されておいているとき（特図1保留の数が『1』のとき）を例に説明する（図39(A)参照）。

【0275】

図39(B)～図39(D)は、変化パターンAの「保留変化演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第1始動口11に入賞し、特図1保留数が『2』に増加すると、図39(B)に示すように、特図1保留数が『2』であることを示唆する保留アイコンHAとして青色の太陽画像G200tb1、緑色の太陽画像G200tb2または赤色の太陽画像G200tb3が第2表示領域50d2に表示される（ここでは、青色の太陽画像G200tb1とする）。その後、特図1保留数が『1』に減少すると、図39(C)に示すように、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tjは消去され、第1表示領域50d1に表示されていた太陽画像G200tjが当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示され、第2表示領域50d2に表示されていた太陽画像G200tb1が第1表示領域50d1に移動する。その後、特図1保留数が『0』に減少すると、図39(D)に示すように、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tjは消去され、第1表示領域50d1に表示されていた太陽画像G200tb1が当該アイコン表示領域50e1に移動して当該アイコンTAとして表示される。そして、特図の可変表示の終了に伴って、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tb1は消去される。

【0276】

図39(E)～図39(G)は、変化パターンBの「保留変化演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第1始動口11に入賞し、特図1保留数が『2』に増加すると、図39(E)に示すように、特図1保留数が『2』であることを示唆する保留アイコンHAとして黄色の太陽画像G200tjが第2表示領域50d2に表示される。その後、特図1保留数が『1』に減少すると、図39(F)に示すように、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tjは消去され、第1表示領域50d1に表示されていた太陽画像G200tjが当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示され、第2表示領域50d2に表示されていた太陽画像G200tj

が第1表示領域50d1に移動する。このとき、第2表示領域50d2に表示されていた太陽画像G200tjが青色の太陽画像G200tb1、緑色の太陽画像G200tb2または赤色の太陽画像G200tb3に変化する(ここでは、青色の太陽画像G200tb1とする)。その後、特図1保留数が『0』に減少すると、図39(G)に示すように、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tjは消去され、第1表示領域50d1に表示されていた太陽画像G200tb1が当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示される。そして、特図の可変表示の終了に伴って、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tb1は消去される。

【0277】

図39(H)~図39(J)は、変化パターンCの「保留変化演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第1始動口11に入賞し、特図1保留数が『2』に増加すると、図39(H)に示すように、特図1保留数が『2』であることを示唆する保留アイコンHAとして青色の太陽画像G200tb1または緑色の太陽画像G200tb2が第2表示領域50d2に表示される(ここでは、青色の太陽画像G200tb1とする)。その後、特図1保留数が『1』に減少すると、図39(I)に示すように、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tjは消去され、第1表示領域50d1に表示されていた太陽画像G200tjが当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示され、第2表示領域50d2に表示されていた太陽画像G200tb1が第1表示領域50d1に移動する。このとき、第2表示領域50d2に表示されていた太陽画像G200tb1が緑色の太陽画像G200tb2または赤色の太陽画像G200tb3に変化する(ここでは、緑色の太陽画像G200tb2とする)。その後、特図1保留数が『0』に減少すると、図39(J)に示すように、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tjは消去され、第1表示領域50d1に表示されていた太陽画像G200tb2が当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示される。そして、特図の可変表示の終了に伴って、当該アイコン表示領域50eに表示されていた太陽画像G200tb2は消去される。

【0278】

ここで、変化パターンA-1~C 3それぞれの「保留変化演出」の役割について説明する。

【0279】

最終的に青色となる変化パターンA-1, B 1は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド061」, 「始動入賞コマンド062」, 「始動入賞コマンド063」の何れであっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド064」, 「始動入賞コマンド065」, 「始動入賞コマンド066」, 「始動入賞コマンド067」の何れであっても選択されることがあるため、最終的に青色となる変化パターンA-1, B 1の「保留変化演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。

【0280】

最終的に緑色となる変化パターンA-2, B 2, C 1は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド061」, 「始動入賞コマンド062」, 「始動入賞コマンド063」の何れであっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド064」, 「始動入賞コマンド065」, 「始動入賞コマンド066」の何れであっても選択されることがあるため、最終的に緑色となる変化パターンA-2, B 2, C 1の「保留変化演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、先読み判定の結果がハズレのときには、最終的に青色となる変化パターンA-1, B 1よりも選択され難いため、最終的に緑色となる変化パターンA-2, B 2, C 1の「保留変化演出」は、最終的に青色となる変化パターンA-1, B 1の「保留変化演出」よりも大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。

【0281】

最終的に赤色となる変化パターンA-3, B-3, C-2, C-3は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド061」, 「始動入賞コマンド062」, 「始動入賞コマンド063」の何れであっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド064」, 「始動入賞コマンド065」, 「始動入賞コマンド066」の何れであっても選択されることがあるため、変化パターンA-3, B-3, C-2, C-3の「保留変化演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、先読み判定の結果が大当たりのときには、最終的に青色となる変化パターンA-1, B-4、または、最終的に緑色となる変化パターンA-2, B-2, C-1、よりも選択され易いため、最終的に赤色となる変化パターンA-3, B-3, C-2, C-3の「保留変化演出」は、最終的に青色となる変化パターンA-1, B-1の「保留変化演出」、または、最終的に緑色となる変化パターンA-2, B-2, C-1の「保留変化演出」、よりも大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。

10

【0282】

従って、保留アイコンHAの表示態様は、青色<緑色<赤色の順で、大当たり遊技が行われる可能性が高くなっている。

【0283】

また、変化パターンBの「保留変化演出」は、保留アイコンHAが保留アイコン表示領域50dに表示される際に、保留アイコンHAの表示態様が青色、緑色または赤色で表示されなくても、のちに保留アイコンHAの表示態様が青色、緑色または赤色に変化するため、敗者復活的な演出として機能する。

20

【0284】

次に、「当該保留変化演出」について詳細に説明する。演出制御用マイコン121は、遊技制御用マイコン101による先読み判定において決定された始動入賞コマンド、または、遊技制御用マイコン101による大当たり判定の結果、に基づいて、「当該保留変化演出」を実行可能である。「当該保留変化演出」には、変化パターンDと変化パターンEの2種類の変化パターンがある。なお、変化パターンの種類や数は、適宜に変更することが可能である。

【0285】

30

変化パターンDは、保留アイコン表示領域50dに表示されている保留アイコンHAが当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示される際に、表示態様が変化する変化パターンである。変化パターンDには、当該アイコンTAが青色に変化する変化パターンD-1と、当該アイコンTAが緑色に変化する変化パターンD-2と、当該アイコンTAが赤色に変化する変化パターンD-3と、がある。

【0286】

変化パターンEは、保留アイコン表示領域50dに表示されている保留アイコンHAが当該アイコン表示領域50eに移動して当該アイコンTAとして表示された後のタイミング(「リーチ」が成立するタイミング)で、表示態様が変化する変化パターンである。変化パターンEには、当該アイコンTAが青色に変化する変化パターンE-1と、当該アイコンTAが緑色に変化する変化パターンE-2と、当該アイコンTAが赤色に変化する変化パターンE-3と、がある。

40

【0287】

演出制御用マイコン121は、図38(B)に示す当該保留変化演出選択テーブルを用いて、変化パターンD, Eの何れで「当該保留変化演出」を実行するかを選択する。選択に際しては、保留アイコン表示領域50dに最終的に表示されていた保留アイコンHAの表示態様が参照される。

【0288】

次に、「当該保留変化演出」の演出内容について、図40を用いて、具体的に説明する。ここでは、演出モードAが設定されており、第1表示領域50d1に保留アイコンHA

50

として黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j が表示されており、当該アイコン表示領域 5 0 e に当該アイコン T A として黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j が表示されておいているとき（特図 1 保留数が『1』のとき）を例に説明する（図 4 0（A）参照）。

【0289】

図 4 0（B）は、変化パターン D の「当該保留変化演出」が行われるときの様子を示す図である。特図 1 保留数が『0』に減少すると、図 4 2（B）に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t j は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t j が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動する。このとき、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t j が青色の太陽画像 G 2 0 0 t b 1、緑色の太陽画像 G 2 0 0 t b 2 または赤色の太陽画像 G 2 0 0 t b 3 に変化する（ここでは、青色の太陽画像 G 2 0 0 t b 1 とする）。そして、特図の可変表示の終了に伴って、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t b 1 は消去される。

10

【0290】

図 4 0（C）～図 4 0（D）は、変化パターン E の「当該保留変化演出」が行われるときの様子を示す図である。特図 1 保留数が『0』に減少すると、図 4 0（C）に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t j は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t j が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動する。その後、左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 2 とが同一の図柄で仮停止する「リーチ」が成立すると、図 4 0（D）に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t j が青色の太陽画像 G 2 0 0 t b 1、緑色の太陽画像 G 2 0 0 t b 2 または赤色の太陽画像 G 2 0 0 t b 3 に変化する（ここでは、青色の太陽画像 G 2 0 0 t b 1 とする）。そして、特図の可変表示の終了に伴って、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた太陽画像 G 2 0 0 t b 1 は消去される。

20

【0291】

ここで、変化パターン D 1 ～ E 3 の「当該保留演出」の役割について説明する。

【0292】

青色に変化する変化パターン D 1、E 1 は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 1」、「始動入賞コマンド 0 6 2」、「始動入賞コマンド 0 6 3」の何れかの場合または大当たり判定の結果が大当たりの場合であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 4」、「始動入賞コマンド 0 6 5」、「始動入賞コマンド 0 6 6」、「始動入賞コマンド 0 6 7」の何れかの場合または大当たり判定の結果がハズレの場合であっても選択されることがあるため、青色に変化する変化パターン D 1、E 1 の「当該保留変化演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。

30

【0293】

緑色に変化する変化パターン D 2、E 2 は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 1」、「始動入賞コマンド 0 6 2」、「始動入賞コマンド 0 6 3」の何れかの場合または大当たり判定の結果が大当たりの場合であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 4」、「始動入賞コマンド 0 6 5」、「始動入賞コマンド 0 6 6」の何れかの場合または大当たり判定の結果がハズレの場合、であっても選択されることがあるため、緑色に変化する変化パターン D 2、E 2 の「当該保留変化演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、先読み判定の結果が大当たりのときまたは大当たり判定の結果が大当たりのときには、青色に変化する変化パターン D 1、E 1 よりも選択され易いため、緑色に変化する変化パターン D 2、E 2 の「当該保留変化演出」は、青色に変化する変化パターン D 1、E 1 の「保留変化演出」よりも大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。

40

【0294】

赤色に変化する変化パターン D 3、E 3 は、先読み判定の結果が大当たりのときに

50

決定される「始動入賞コマンド061」,「始動入賞コマンド062」,「始動入賞コマンド063」の何れかの場合、または、大当たり判定の結果が大当たりの場合、であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド064」,「始動入賞コマンド065」,「始動入賞コマンド066」の何れかの場合、または、大当たり判定の結果がハズレの場合、であっても選択されることがあるため、赤色に変化する変化パターンD 3, E 3の「当該保留変化演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、先読み判定の結果が大当たりのとき、または、大当たり判定の結果が大当たりのときには、青色に変化する変化パターンD 1, E 1、および、緑色に変化する変化パターンD 2, E 2、よりも選択され易いため、赤色に変化する変化パターンD 3, E 3の「当該保留変化演出」は、青色に変化する変化パターンD 1, E 1の「当該保留変化演出」、または、緑色に変化する変化パターンD 2, E 2の「当該保留変化演出」、よりも大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出として機能する。

10

【0295】

また、変化パターンEの「当該保留変化演出」は、保留アイコンHAが当該アイコンTAとして当該アイコン表示領域50eに表示される際に、表示態様が変化しなくても、のちに当該アイコンTAの表示態様が変化するため、敗者復活的な演出として機能する。

【0296】

次に、「保留変化演出」と「当該保留変化演出」との関係について説明する。

【0297】

「保留変化演出」と「当該保留変化演出」との両方が行われる場合、保留アイコンHAの表示態様と当該アイコンTAの表示態様とが関連付けられる。例えば、保留アイコンHAの最終的な表示態様が青色であった場合には、当該アイコンTAの表示態様は、青色から緑色または赤色に変化する。つまり、「保留変化演出」と「当該保留変化演出」とが連動して行われるようになっており、保留アイコンHAおよび当該アイコンTAの表示態様の変化に対する演出効果を高めることができるようになっている。また、「当該保留変化演出」は、「保留変化演出」が行われなかった場合でも行われることがあるようになっており、「保留変化演出」が行われなかった場合であっても、表示態様の变化を期待させることができるようになっている。また、「当該保留変化演出」は、「保留変化演出」が行われた場合にも行われることがあるようになっており、表示態様の更なる変化を期待させることができるようになっている。また、「保留変化演出」が行われた場合には、「保留変化演出」が行われなかった場合よりも「当該保留変化演出」が行われ易くなっており、表示態様の更なる変化をより期待させることができるようになっている。

20

30

【0298】

次に、「保留台座演出」について詳細に説明する。演出制御用マイコン121は、遊技制御用マイコン101による先読み判定において決定された始動入賞コマンド、または、大当たり判定の結果、に基づいて、「保留台座演出」を実行可能である。「保留台座演出」には、上昇パターンA~Eの5種類の上昇パターンがある。なお、上昇パターンの種類や数は、適宜に変更することが可能である。

【0299】

上昇パターンAは、保留アイコンHAが保留アイコン表示領域50dに表示される際に、保留台座画像(G4~G8の何れか)が上昇して保留アイコン表示領域50dおよび当該アイコン表示領域50eが上方に変更される上昇パターンである。

40

【0300】

上昇パターンBは、保留アイコンHAが保留アイコン表示領域50dに表示された後のタイミング(保留の数が減少して保留アイコンHAが移動するタイミング)で、保留台座画像(G4~G8の何れか)が上昇して保留アイコン表示領域50dおよび当該アイコン表示領域50eが上方に変更される上昇パターンである。

【0301】

上昇パターンCは、保留アイコンHAが保留アイコン表示領域50dに表示される際に

50

、保留台座画像（G 4 ～ G 7 の何れか）が上昇して保留アイコン表示領域 5 0 d が上方に変更されるが、保留台座画像 G 8 は上昇しないで当該アイコン表示領域 5 0 e も上方に変更されない上昇パターンである。

【 0 3 0 2 】

上昇パターン D は、当該アイコン T A が当該アイコン表示領域 5 0 e に表示される際に、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 が上昇して当該アイコン表示領域 5 0 e が上方に変更される上昇パターンである。

【 0 3 0 3 】

上昇パターン E は、当該アイコン T A が当該アイコン表示領域 5 0 e に表示された後のタイミング（「リーチ」が成立するタイミング）で、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 が上昇して当該アイコン表示領域 5 0 e が上方に変更される上昇パターンである。

【 0 3 0 4 】

演出制御用マイコン 1 2 1 は、図 3 8（C）に示す保留台座演出選択テーブル A を用いて、上昇パターン A ～ C の何れで「保留台座演出」を実行するかを選択する。選択に際しては、保留変化演出選択テーブルによって選択された変化パターンが参照される。また、保留台座演出選択テーブル A を用いた選択によって、上昇パターン A ～ C の何れも選択しなかった場合（上昇なしが選択された場合）、図 3 8（D）に示す保留台座演出選択テーブル B を用いて、上昇パターン D，E の何れで「保留台座演出」を実行するかを選択する。選択に際しては、当該保留変化演出選択テーブルによって選択された変化パターンが参照される。ここでは、特図 1 保留数または特図 2 保留数が『2』以上であることを条件に選択可能とするが、条件については、適宜に変更することが可能である。

【 0 3 0 5 】

次に、「保留台座演出」の演出内容について、図 4 1 ～ 図 4 2 を用いて、具体的に説明する。ここでは、演出モード A が設定されており、第 1 表示領域 5 0 d 1 に保留アイコン H A として黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j が表示されており、当該アイコン表示領域 5 0 e に当該アイコン T A として黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j が表示されてといているとき（特図 1 保留数が『1』のとき）を例に説明する（図 4 1（A）参照）。

【 0 3 0 6 】

図 4 1（B）～図 4 1（D）は、上昇パターン A の「保留台座演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞し、特図 1 保留数が『2』に増加すると、図 4 1（B）に示すように、第 2 表示領域 5 0 d 2 に対応する保留台座画像 G 5 が上昇するとともに、第 2 表示領域 5 0 d 2 が、上昇した保留台座画像 G 5 の上部に変更される。このとき、特図 1 保留数が『2』であることを示唆する保留アイコン H A（ここでは、黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j とする）は、上部に変更された第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示される。その後、特図 1 保留数が『1』に減少すると、図 4 1（C）に示すように、上昇していた保留台座画像 G 5 が下降して元の位置に戻り、第 1 表示領域 5 0 d 1 に対応する保留台座画像 G 4 が上昇するとともに、第 1 表示領域 5 0 d 1 が、上昇した保留台座画像 G 4 の上部に変更される。このとき、第 5 表示領域 5 0 e 1 に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示され、第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示されていた保留アイコン H A が第 1 表示領域 5 0 d 1 に移動する。その後、特図 1 保留数が『0』に減少すると、図 4 1（D）に示すように、上昇していた保留台座画像 G 4 が下降して元の位置に戻り、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 が上昇するとともに、当該アイコン表示領域 5 0 d が、上昇した保留台座画像 G 8 の上部に変更される。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた保留アイコン H A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示される。そして、特図の可変表示の終了に伴って、上昇していた保留台座画像 G 8 が下降して元の位置に戻り、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去される。

【 0 3 0 7 】

図 4 1 (E) ~ 図 4 1 (G) は、上昇パターン B の「保留台座演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞し、特図 1 保留数が『 2 』に増加しても、図 4 1 (E) に示すように、保留台座画像 G 5 は上昇しない。このとき、特図 1 保留数が『 2 』であることを示唆する保留アイコン H A (ここでは、黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j とする) は、通常位置の第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示される。その後、特図 1 保留数が『 1 』に減少すると、図 4 1 (F) に示すように、第 1 表示領域 5 0 d 1 に対応する保留台座画像 G 4 が上昇するとともに、第 1 表示領域 5 0 d 1 が、上昇した保留台座画像 G 4 の上部に変更される。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示され、第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示されていた保留アイコン H A が上部に変更された第 1 表示領域 5 0 d 1 に移動する。その後、特図 1 保留数が『 0 』に減少すると、図 4 1 (G) に示すように、上昇していた保留台座画像 G 4 が下降して元の位置に戻り、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 が上昇するとともに、当該アイコン表示領域 5 0 e が、上昇した保留台座画像 G 8 の上部に変更される。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示される。そして、特図の可変表示の終了に伴って、上昇していた保留台座画像 G 8 が下降して元の位置に戻り、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた特図 1 保留アイコンは消去される。

10

20

【 0 3 0 8 】

図 4 2 (A) ~ 図 4 2 (C) は、上昇パターン C の「保留台座演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞し、特図 1 保留数が『 2 』に増加すると、図 4 2 (A) に示すように、第 2 表示領域 5 0 d 2 に対応する保留台座画像 G 5 が上昇するとともに、第 2 表示領域 5 0 d 2 が、上昇した保留台座画像 G 5 の上部に変更される。このとき、特図 1 保留数が『 2 』であることを示唆する保留アイコン H A (ここでは、黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j とする) は、上部に変更された第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示される。その後、特図 1 保留数が『 1 』に減少すると、図 4 2 (B) に示すように、上昇していた保留台座画像 G 5 が下降して元の位置に戻り、第 1 表示領域 5 0 d 1 に対応する保留台座画像 G 4 が上昇するとともに、第 1 表示領域 5 0 d 1 が、上昇した保留台座画像 G 4 の上部に変更される。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた特図 1 保留アイコンが当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示され、第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示されていた保留アイコン H A が第 1 表示領域 5 0 d 1 に移動する。その後、特図 1 保留数が『 0 』に減少すると、図 4 2 (C) に示すように、上昇していた保留台座画像 G 4 が下降して元の位置に戻り、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 は上昇しない (当該アイコン表示領域 5 0 e の位置も変更されない)。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示される。そして、特図の可変表示の終了に伴って、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去される。

30

40

【 0 3 0 9 】

図 4 2 (D) ~ 図 4 2 (H) は、上昇パターン D または上昇パターン E の「保留台座演出」が行われるときの様子を示す図である。遊技球が第 1 始動口 1 1 に入賞し、特図 1 保留数が『 2 』に増加しても、図 4 2 (D) に示すように、保留台座画像 G 5 は上昇しない。このとき、特図 1 保留数が『 2 』であることを示唆する保留アイコン H A (ここでは、黄色の太陽画像 G 2 0 0 t j とする) は、通常位置の第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示される。その後、特図 1 保留数が『 1 』に減少しても、図 4 2 (E) に示すように、第 1 表示領域 5 0 d 1 に対応する保留台座画像 G 4 は上昇しない。このとき、当該アイコン表示領域

50

5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示され、第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示されていた保留アイコン H A が第 1 表示領域 5 0 d 1 に移動する。その後、特図 1 保留数が『 0 』に減少すると、上昇パターン D では、図 4 2 (F) に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 が上昇するとともに、当該アイコン表示領域 5 0 d が、上昇した保留台座画像 G 8 の上部に変更される。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた保留アイコン H A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が上部に変更された当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示される。一方、上昇パターン E では、図 4 2 (G) に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 は上昇しない。このとき、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去され、第 1 表示領域 5 0 d 1 に表示されていた保留アイコン H A が通常位置の当該アイコン表示領域 5 0 e に移動して当該アイコン T A として表示される。その後、左演出図柄 E Z 1 と右演出図柄 E Z 2 とが同一の図柄で仮停止する「リーチ」が成立すると、図 4 2 (H) に示すように、当該アイコン表示領域 5 0 e に対応する保留台座画像 G 8 が上昇するとともに、当該アイコン表示領域 5 0 d が、上昇した保留台座画像 G 8 の上部に変更される。このとき、当該アイコン T A も上部に変更された当該アイコン表示領域 5 0 e に移動する。そして、特図の可変表示の終了に伴って、上昇していた保留台座画像 G 8 が下降して元の位置に戻り、当該アイコン表示領域 5 0 e に表示されていた当該アイコン T A は消去される。

【 0 3 1 0 】

ここで、上昇パターン A ~ F の「保留台座演出」の役割について説明する。

【 0 3 1 1 】

上昇パターン A は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 1」, 「始動入賞コマンド 0 6 2」, 「始動入賞コマンド 0 6 3」の何れの場合であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 4」, 「始動入賞コマンド 0 6 5」, 「始動入賞コマンド 0 6 6」の何れの場合であっても選択されることがあるため、上昇パターン A の「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、保留アイコン H A が最初から特別の表示態様で表示される場合（変化パターン A - 1 , A - 2 , A - 3 , C 1 , C 2 , C 3 ）に選択されることがあるため、上昇パターン A の「保留台座演出」は、保留アイコン H A の特別の表示態様での表示を効果的に報知する演出としても機能する。また、保留アイコン H A の表示態様がのちに变化する場合（変化パターン B 1 , B 2 , B 3 , C 1 , C 2 , C 3 ）に選択されることがあるため、上昇パターン A の「保留台座演出」は、保留アイコン H A の表示態様が変化すること示唆する演出としても機能する。また、保留アイコン H A の表示態様がのちに变化しない場合（変化なし , 変化パターン A 1 , A 2 , A 3 ）よりも、保留アイコン H A の表示態様がのちに变化する場合（変化パターン B 1 , B 2 , B 3 , C 1 , C 2 , C 3 ）の方が、選択され易いため、上昇パターン A の「保留台座演出」は、保留アイコン H A の表示態様が変化すること示唆する演出としても機能する。

【 0 3 1 2 】

上昇パターン B は、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 1」, 「始動入賞コマンド 0 6 2」, 「始動入賞コマンド 0 6 3」の何れの場合であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド 0 6 4」, 「始動入賞コマンド 0 6 5」, 「始動入賞コマンド 0 6 6」, 「始動入賞コマンド 0 6 7」の何れの場合であっても選択されることがあるため、上昇パターン B の「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、保留アイコン H A の表示態様がのちに变化する場合（変化パターン B 1 , B 2 , B 3 , C 1 , C 2 , C 3 ）に選択されることがあるため、上昇パターン B の「保留台座演出」は、保留アイコン H A の表示態様の变化を効果的に報知する演出としても機能す

る。また、上昇パターンＢの「保留台座演出」は、保留アイコンＨＡが保留アイコン表示領域５０ｄに表示される際には保留台座画像（Ｇ４～Ｇ７の何れか）が上昇せずに、のちに保留台座画像（Ｇ４～Ｇ７の何れか）が上昇するため、敗者復活的な演出としても機能する。

【０３１３】

上昇パターンＣは、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド０６７」の場合にだけ選択されることがあるため、上昇パターンＣの「保留台座演出」は、ハズレを示唆する演出として機能する。また、対象となる保留アイコンＨＡが当該アイコン表示領域５０ｅに移動するまでは、上昇パターンＡと同じ演出内容であるため、上昇パターンＣの「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われるかもしれないと思わせる演出（所謂ガセ演出）としても機能する。

10

【０３１４】

上昇パターンＤは、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド０６１」，「始動入賞コマンド０６２」，「始動入賞コマンド０６３」の何れかの場合または大当たり判定の結果が大当たりの場合であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド０６４」，「始動入賞コマンド０６５」，「始動入賞コマンド０６６」の何れかの場合または大当たり判定の結果がハズレの場合であっても選択されることがあるため、上昇パターンＤの「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、先読み判定の結果または大当たり判定の結果が大当たりの場合には、先読み判定の結果または大当たり判定の結果がハズレの場合よりも選択され易いため、上昇パターンＤの「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。また、当該アイコンＴＡの表示態様が変化して当該アイコン表示領域５０ｅに表示される場合（変化パターンＤ－１，Ｄ－２，Ｄ－３）に選択されることがあるため、上昇パターンＤの「保留台座演出」は、当該アイコンＴＡの表示態様の变化を効果的に報知する演出としても機能する。

20

【０３１５】

上昇パターンＥは、先読み判定の結果が大当たりのときに決定される「始動入賞コマンド０６１」，「始動入賞コマンド０６２」，「始動入賞コマンド０６３」の何れかの場合または大当たり判定の結果が大当たりの場合であっても、先読み判定の結果がハズレのときに決定される「始動入賞コマンド０６４」，「始動入賞コマンド０６５」，「始動入賞コマンド０６６」の何れかの場合または大当たり判定の結果がハズレの場合であっても選択されることがあるため、上昇パターンＥの「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われる可能性があることを示唆する演出として機能する。また、先読み判定の結果または大当たり判定の結果が大当たりの場合には、先読み判定の結果または大当たり判定の結果がハズレの場合よりも選択され易いため、上昇パターンＥの「保留台座演出」は、大当たり遊技が行われる可能性が高いことを示唆する演出としても機能する。また、当該アイコンＴＡの表示態様がのちに変化する場合（変化パターンＥ－１，Ｅ－２，Ｅ－３）に選択されることがあるため、上昇パターンＥの「保留台座演出」は、当該アイコンＴＡの表示態様の变化を効果的に報知する演出としても機能する。また、上昇パターンＥの「保留台座演出」は、当該アイコンＨＡが当該アイコン表示領域５０ｅに表示される際には保留台座画像Ｇ８が上昇せずに、のちに保留台座画像Ｇ８が上昇するため、敗者復活的な演出としても機能する。

30

40

【０３１６】

次に、「保留変化演出」と「保留台座演出」との関係について説明する。

【０３１７】

「保留変化演出」と「保留台座演出」との両方が行われる場合、保留アイコンＨＡの特別の表示態様での表示の開始のタイミングまたは保留アイコンＨＡの表示態様が変化するタイミングで、保留台座が上昇することがあるようになっている。つまり、「保留変化演出」と「保留台座演出」とが連動して行われることがあるようになっており、保留アイコンＨＡの表示態様の变化に対する演出効果を高めることができるようになっている。

50

【 0 3 1 8 】

また、保留アイコン H A の表示態様が、のちに大当たり遊技が行われる可能性が高い緑色または赤色に変化する場合（変化パターン B 2 , B 3 , C 1 , C 2 , C 3 ）において、変化する前から第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れかが上部に変更される上昇パターン A が選択される確率は 6 2 % である一方、変化する前において第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れかが上部に変更されない上昇パターン B または上昇なしが選択される確率は 3 8 % である。つまり、第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れかが上部に変更されているときに保留アイコン H A の表示態様が緑色または赤色に変化する確率と、第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れも上部に変更されていないときに保留アイコン H A の表示態様が緑色または赤色に変化する確率と、が異なるようになっている。ここでは、前者の方が高くなっており、第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れかを上昇させることによって、保留アイコン H A が緑色または赤色に変化することへの期待感を高めることができるようになっている。

10

【 0 3 1 9 】

また、保留アイコン H A の表示態様が、最初から大当たり遊技が行われる可能性が高い緑色または赤色で表示される場合（変化パターン A 2 , A 3 , C 2 , C 3 ）において、保留アイコン H A の表示開始と連動して第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れかが上部に変更される上昇パターン A が選択される確率は約 6 6 % である一方、第 1 表示領域 5 0 d 1 ~ 第 4 表示領域 5 0 d 4 の何れも上部に変更されない上昇パターン B または上昇なしが選択される確率は約 3 3 % である。つまり、保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上昇と連動して保留アイコン H A の緑色または赤色での表示開始が行われる確率と、保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上昇と連動しないで保留アイコン H A の緑色または赤色での表示開始が行われる確率と、が異なるようになっている。ここでは、前者の方が高くなっており、保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上昇と保留アイコン H A の緑色または赤色での表示開始とを連動させ易くなっている。

20

【 0 3 2 0 】

次に、「当該保留変化演出」と「保留台座演出」との関係について説明する。

【 0 3 2 1 】

「当該保留変化演出」と「保留台座演出」との両方が行われる場合、当該アイコン T A の表示態様が変化するタイミングで、保留台座が上昇することがあるようになっている。つまり、「当該保留変化演出」と「保留台座演出」とが連動して行われることがあるようになり、当該アイコン T A の表示態様の变化に対する演出効果を高めることができるようになっている。

30

【 0 3 2 2 】

また、当該アイコン T A の表示態様が最初から変化する場合（変化パターン D 1 , D 2 , D 3 ）において、のちに保留台座画像 G 8 が上昇する上昇パターン E よりも、最初から保留台座画像 G 8 が上昇する上昇パターン D の方が、選択され易くなっている。また、当該アイコン T A の表示態様がのちに変化する場合（変化パターン E 1 , E 2 , E 3 ）において、最初から保留台座画像 G 8 が上昇する上昇パターン D よりも、のちに保留台座画像 G 8 が上昇する上昇パターン E の方が、選択され易くなっている。つまり、当該アイコン T A の表示態様の变化と保留台座画像 G 8 の上昇とが連動して行われ易くなっている。

40

【 0 3 2 3 】

< 実施形態の効果 >

以下、実施形態で説明したパチンコ遊技機 P Y 1 の効果について説明する。

【 0 3 2 4 】

（ 1 ）保留アイコン H A または当該アイコン T A が、上昇していない保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に表示されるときと、上昇した保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に表示されるときと、があるので、「保留演出」のバリエーションが増え、遊技の興趣を向上させること

50

が可能である。

【 0 3 2 5 】

(2) 上昇した保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に、保留アイコン H A または当該アイコン T A が表示されるタイミングで、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様に変化することがあるので、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様の变化を効果的に遊技者に報知することが可能である。

【 0 3 2 6 】

(3) 上昇しない保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に、保留アイコン H A または当該アイコン T A が表示されるタイミングよりも、上昇する保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に、保留アイコン H A または当該アイコン T A が表示されるタイミングの方が、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様の変化し易いので、保留アイコン H A または当該アイコン T A の表示態様の变化の効果的な報知を、より多く遊技者に体感させることが可能である。

10

【 0 3 2 7 】

(4) 上昇した保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部に保留アイコン H A が表示されているときには、保留アイコン H A の表示態様の変化し易いので、遊技者の「保留変化演出」への期待感を高めることが可能である。

【 0 3 2 8 】

(5) 上昇していない保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に、保留アイコン H A または当該アイコン T A が表示されても、のちに上昇した保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に、保留アイコン H A または当該アイコン T A が移動して表示されることがあるので、「保留台座演出」に対する遊技者の期待感を維持させることが可能である。

20

【 0 3 2 9 】

(6) 先読み判定の結果の結果が大当たりの場合に、保留アイコン H A が、上昇している保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部に表示され易いので、その保留アイコン H A に応じた特図変動演出が行われる前から、遊技者の大当たり遊技が行われることへの期待感を高めることが可能である。

【 0 3 3 0 】

(7) 大当たり判定の結果が大当たりの場合に、当該アイコン T A が、上昇している保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部に表示され易いので、遊技者の大当たり遊技が行われることへの期待感を高めることが可能である。

30

【 0 3 3 1 】

< 実施形態の変更例 >

以下、実施形態で説明したパチンコ遊技機 P Y 1 の変更例について説明する。勿論、変更例に係る構成同士を適宜組み合わせ構成してもよい。また、上記形態および下記変更例中の技術的特徴は、本明細書において必須なものとして説明されていなければ、適宜、削除することが可能である。

【 0 3 3 2 】

保留アイコン H A の画像と当該アイコン T A の画像とを異なる画像としても良い。例えば、保留アイコン H A の画像を太陽画像とし、当該アイコン T A の画像を月画像としても良い。この場合、保留アイコン H A に対応する特図の保留が消化されたことを遊技者に分かり易く報知することが可能である。

40

【 0 3 3 3 】

また、「当該保留変化演出」の変化パターンを選択する際に、先読み判定の結果だけを参照して選択しても良いし、大当たり判定の結果だけを参照して選択しても良い。大当たり判定の結果を参照する場合、特図 1 保留または特図 2 保留がないときであっても「当該保留変化演出」を実行するようにしても良い。

【 0 3 3 4 】

また、「保留台座演出」の上昇パターンを選択する際に、先読み判定の結果だけを参照して選択しても良いし、大当たり判定の結果だけを参照して選択しても良い。大当たり判

50

定の結果を参照する場合、特図 1 保留または特図 2 保留がないときであっても「保留台座演出」を実行するようにしても良い。

【 0 3 3 5 】

また、「保留変化演出」において保留アイコン H A の表示態様を変化させるタイミングを、保留アイコン H A の移動時（保留消化時）以外のタイミングとしても良い。例えば、保留アイコン H A の移動後の所定タイミング（2 秒後など）で保留アイコン H A の表示態様を変化させても良い。この場合、所定タイミングとなるまで、保留アイコン H A の表示態様を変化することを示唆する演出を実行しても良い。

【 0 3 3 6 】

また、「当該保留変化演出」において当該アイコン T A の表示態様を変化させるタイミングを、「リーチ」の成立時以外のタイミングとしても良い。例えば、「S P リーチ」の開始時に当該アイコン T A の表示態様を変化させても良い。

10

【 0 3 3 7 】

また、「保留台座演出」において保留台座画像を上昇させるタイミングを、保留アイコン H A の移動時（保留消化時）以外のタイミングとしても良い。例えば、保留アイコン H A の移動後の所定タイミング（2 秒後など）で保留台座画像を上昇させても良い。この場合、所定タイミングとなるまで、保留台座画像 G 4 ~ G 8 が上昇することを示唆する演出を実行しても良い。

【 0 3 3 8 】

また、「保留変化演出」の変化パターンおよび「保留台座演出」の上昇パターンをシナリオにして一括で選択するようにしても良い。また、「保留変化演出」の変化パターン、「当該保留変化演出」の変化パターンおよび「保留台座演出」の上昇パターンをシナリオにして一括で選択するようにしても良い。

20

【 0 3 3 9 】

また、保留アイコン H A が保留アイコン表示領域 5 0 d に表示されているときの「保留変化演出」において、保留アイコン H A が、上昇していない保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部の表示領域に表示されているときの方が、上昇した保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部の表示領域に表示されているときよりも、表示態様に変化される確率を高くしても良い。

【 0 3 4 0 】

また、保留アイコン H A が保留アイコン表示領域 5 0 d に表示される際の「保留変化演出」において、保留アイコン H A が、上昇していない保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部の表示領域に表示される際の確率方が、上昇する保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部の表示領域に表示される際よりも、特別の表示態様で表示される確率を高くしても良い。

30

【 0 3 4 1 】

また、保留アイコン表示領域 5 0 d に表示されている保留アイコン H A がシフトする際の「保留変化演出」において、保留アイコン H A が、上昇していない保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部の表示領域に表示される際の方が、上昇する保留台座画像 G 4 ~ G 7 の上部の表示領域に表示される際よりも、表示態様に変化され易くしても良い。

【 0 3 4 2 】

また、保留台座画像 G 4 ~ G 8 を上昇させる場合、対象となる保留アイコン H A または当該アイコン T A に対応する保留台座画像だけを上昇させることに限られず、複数の保留台座画像を上昇させるようにしても良い。例えば、対象となる保留アイコン H A を保留アイコン表示領域 5 0 d の第 2 表示領域 5 0 d 2 に表示する際に、保留台座画像 G 4 と G 5 の 2 つを上昇させても、保留台座画像 G 4 ~ G 8 の全てを上昇させても良い。

40

【 0 3 4 3 】

< その他の変更例 >

以下、本発明の遊技機について、実施形態で説明したパチンコ遊技機 P Y 1 のその他の変更例について説明する。

【 0 3 4 4 】

また、実施形態では、特図可変表示に略同調して小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 の可変

50

表示が行われるが、小図柄 K Z 1 , K Z 2 , K Z 3 のように 3 つの図柄で構成させるのではなく、2 つなど 3 つ以外の図柄で構成させてもよい。例えば、特図 1 と特図 2 とで分けた 2 つの図柄を設けても良い。また、特図 1 と特図 2 とで共通の 1 つの図柄を設けても良い。そして、これらの場合、画像表示装置 5 0 の表示部 5 0 a で表示し、サブ制御基板 1 2 0 にその制御を行わせても良い。また、遊技盤 1 の遊技領域 6 以外の領域において、図柄を表示する L E D 装置を設けても良い。この場合、その L E D 装置の制御を主制御基板 1 0 0 またはサブ制御基板 1 2 0 に行わせても良い。

【 0 3 4 5 】

また、実施形態では、特図 2 判定処理が優先的に行われるが、特図 1 判定処理が優先的に行われるように構成しても良い。また、特図 1 関係乱数と特図 2 関係乱数とについて、保留記憶部に記憶された順番で特図判定処理が行われるようにしても良い。

10

【 0 3 4 6 】

また、実施形態では、特図 1 の可変表示と特図 2 の可変表示とが並行して行われないが、特図 1 の可変表示と特図 2 の可変表示とが並行して行われるように構成しても良い。

【 0 3 4 7 】

また、実施形態では、遊技の進行に係る基本的な制御を主制御基板 1 0 0 が行い、遊技の進行（遊技の制御）に応じた演出の進行に係る基本的な制御をサブ制御基板 1 2 0 が行うというように、遊技の制御と演出の制御とを異なる基板で行っているが、一つの基板で行うよう構成しても良い。この場合、画像制御基板 1 4 0 を、その一つの基板に含めても良く、また、その一つの基板とは別に設けても良い。

20

【 0 3 4 8 】

また、本発明の遊技機を、アレンジボール機、雀球遊技機等の他の弾球遊技機などに適用することも可能である。

【 0 3 4 9 】

< 実施形態に開示されている発明 >

この〔発明を実施するための形態〕における前段落までには、以下の発明 A、発明 B および発明 C が開示されている。発明 A、発明 B および発明 C の説明では、前述した発明を実施する形態における対応する構成の名称や表現、図面に使用した符号を参考のためにかっこ書きで付記している。但し、各発明を構成する手段などの要素はこの付記に限定されるものではない。なお、発明 A は、以下の発明 A 1 ~ A 4 の総称であり、発明 B は、以下の発明 B 1 ~ B 4 の総称であり、発明 C は、以下の発明 C 1 ~ C 5 の総称である。

30

【 0 3 5 0 】

発明 A 1 に係る遊技機は、

第 1 条件の成立（遊技球の第 1 始動口 1 1 , 第 2 始動口 1 2 への入賞）により、遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態、高確率状態）にするか否かの判定（大当たり判定、大当たり図柄種別判定）を行うための判定情報を含む情報（特別図柄乱数、大当たり図柄種別乱数、変動パターン乱数）を取得する取得手段と、

第 2 条件の成立（特図 1 判定処理、特図 2 判定処理の開始）により、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記判定を行う判定手段と、

所定の表示手段（画像表示装置 5 0 ）を含む演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 1 2 1 ）と、を備え、

40

前記演出実行手段は、

前記取得手段によって情報が取得されることに応じて、前記表示手段に所定の保留図柄（保留アイコン、当該アイコン）を表示することがあり、

前記保留図柄を、前記表示手段の第 1 表示領域（通常位置）に表示するときと、前記表示手段の前記第 1 表示領域とは異なる第 2 表示領域（上昇位置）に表示するときと、がある、

ことを特徴とする。

【 0 3 5 1 】

発明 A 2 に係る遊技は、

50

発明 A 1 に係る遊技機であって、

前記第 2 条件が成立する前に、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記特別遊技状態になるか否かの事前判定（先読み判定）を行う事前判定手段を更に備え、

前記演出実行手段は、前記第 1 表示領域および前記第 2 表示領域の何れに前記保留図柄を表示していても、前記事前判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）に変化させることがある、

ことを特徴とする。

【0352】

発明 A 3 に係る遊技機は、

発明 A 1 または発明 A 2 に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、前記第 1 表示領域および前記第 2 表示領域の何れに前記保留図柄を表示していても、前記判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）に変化させることがある、

ことを特徴とする。

【0353】

発明 A 4 に係る遊技機は、

発明 A 2 または発明 A 3 に係る遊技機であって、

前記保留図柄が前記第 1 表示領域に表示されているときと前記第 2 表示領域に表示されているときとで、前記保留図柄の表示態様が前記特別表示態様に変化する確率が互いに異なる、

ことを特徴とする。

【0354】

発明 B 1 に係る遊技機は、

第 1 条件の成立（遊技球の第 1 始動口 1 1，第 2 始動口 1 2 への入賞）により、遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態、高確率状態）にするか否かの判定（大当たり判定、大当たり図柄種別判定）を行うための判定情報を含む情報（特別図柄乱数、大当たり図柄種別乱数、変動パターン乱数）を取得する取得手段と、

第 2 条件の成立（特図 1 判定処理，特図 2 判定処理の開始）により、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記判定を行う判定手段と、

所定の表示手段（画像表示装置 5 0）を含む演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン 1 2 1）と、を備え、

前記演出実行手段は、

前記取得手段によって情報が取得されることに応じて、前記表示手段に所定の保留図柄（保留アイコン、当該アイコン）を表示することがあり、

前記保留図柄の表示を開始する際に、前記保留図柄を、前記表示手段の第 1 表示領域（上昇していない保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部）に表示するときと、前記表示手段の前記第 1 表示領域とは異なる第 2 表示領域（上昇した保留台座画像 G 4 ~ G 8 の上部）に表示するときと、がある、

ことを特徴とする。

【0355】

発明 B 2 に係る遊技機は、

発明 B 1 に係る遊技機であって、

前記第 2 条件が成立する前に、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記特別遊技状態になるか否かの事前判定（先読み判定）を行う事前判定手段を更に備え、

前記演出実行手段は、前記第 1 表示領域および前記第 2 表示領域の何れに前記保留図柄を表示する場合でも、前記保留図柄の表示を開始する際に、前記事前判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）で表示することがある、

ことを特徴とする。

【0356】

発明B3に係る遊技機は、

発明B1または発明B2に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、前記第1表示領域および前記第2表示領域の何れに前記保留図柄を表示する場合でも、前記保留図柄の表示を開始する際に、前記事前判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）で表示することがある、

ことを特徴とする。

【0357】

発明B4に係る遊技機は、

発明B2または発明B3に係る遊技機であって、

前記保留図柄が前記第1表示領域に表示される場合と前記第2表示領域に表示される場合とで、前記保留図柄の表示態様が前記特別表示態様で表示される確率が互いに異なる、ことを特徴とする。

【0358】

発明C1に係る遊技機は、

第1条件の成立（遊技球の第1始動口11、第2始動口12への入賞）により、遊技者に有利な特別遊技状態（大当たり遊技状態、高確率状態）にするか否かの判定（大当たり判定、大当たり図柄種別判定）を行うための判定情報を含む情報（特別図柄乱数、大当たり図柄種別乱数、変動パターン乱数）を取得する取得手段と、

第2条件の成立（特図1判定処理、特図2判定処理の開始）により、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記判定を行う判定手段と、

所定の表示手段（画像表示装置50）を含む演出手段を用いて所定の演出を実行可能な演出実行手段（演出制御用マイコン121）と、を備え、

前記演出実行手段は、

前記取得手段によって情報が取得されることに応じて、前記表示手段に所定の保留図柄（保留アイコン、当該アイコン）を表示することがあり、

前記保留図柄を、前記表示手段の第1表示領域（上昇していない保留台座画像G4～G8の上部）に表示してから前記表示手段の前記第1表示領域とは異なる第2表示領域（上昇した保留台座画像G4～G8の上部）に変更するときがある、

ことを特徴とする。

【0359】

発明C2に係る遊技機は、

発明C1に係る遊技機であって、

前記第2条件が成立する前に、前記取得手段によって取得された情報に基づいて、前記特別遊技状態になるか否かの事前判定（先読み判定）を行う事前判定手段を更に備え、

前記演出実行手段は、前記保留図柄を前記第1表示領域から前記第2表示領域に変更する際に、前記事前判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）に変化させることがある、

ことを特徴とする。

【0360】

発明C3に係る遊技機は、

発明C2に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、

前記保留図柄を、前記第1表示領域に表示してから所定のタイミング（特図1保留記憶部シフト処理、特図2保留記憶部シフト処理の開始）で前記第2表示領域に変更するときと、前記第1表示領域に表示してから前記所定のタイミングで前記第2表示領域に変更しないときと、があり、

10

20

30

40

50

前記保留図柄を前記所定のタイミングで前記第 1 表示領域から前記第 2 表示領域に変更する際でも変更しない際でも、前記事前判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）に変化させることがあり、

前記保留図柄が前記所定のタイミングで前記第 1 表示領域から前記第 2 表示領域に変更される際と変更されない際とで、前記保留図柄の表示態様が前記特別表示態様に変化する確率が互いに異なる、

ことを特徴とする。

【 0 3 6 1 】

発明 C 4 に係る遊技機は、

発明 C 1 から発明 C 3 の何れかに係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、前記保留図柄を前記第 1 表示領域から前記第 2 表示領域に変更する際に、前記判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）に変化させることがある、

ことを特徴とする。

【 0 3 6 2 】

発明 C 5 に係る遊技機は、

発明 C 4 に係る遊技機であって、

前記演出実行手段は、

前記保留図柄を、前記第 1 表示領域に表示してから所定のタイミング（特図 1 保留記憶部シフト処理、特図 2 保留記憶部シフト処理の開始、リーチ成立時）で前記第 2 表示領域に変更するときと、前記第 1 表示領域に表示してから前記所定のタイミングで前記第 2 表示領域に変更しないときと、があり、

前記保留図柄を前記所定のタイミングで前記第 1 表示領域から前記第 2 表示領域に変更する際でも変更しない際でも、前記判定の結果に基づいて、前記保留図柄の表示態様を、前記特別遊技状態になる可能性が高いことを示唆する特別表示態様（緑色、赤色）に変化させることがあり、

前記保留図柄が前記所定のタイミングで前記第 1 表示領域から前記第 2 表示領域に変更される際と変更されない際とで、前記保留図柄の表示態様が前記特別表示態様に変化する確率が互いに異なる、

ことを特徴とする。

【 符号の説明 】

【 0 3 6 3 】

P Y 1 ... パチンコ遊技機

1 ... 遊技盤

5 0 ... 画像表示装置

5 0 a ... 表示部

5 0 d ... 保留アイコン表示領域

5 0 d 1 ~ 5 0 d 4 ... 第 1 表示領域 ~ 第 4 表示領域

5 0 e ... 当該アイコン表示領域

1 0 1 ... 遊技制御用マイコン

1 2 1 ... 演出制御用マイコン

G 4 ~ G 8 ... 保留台座画像

H A ... 保留アイコン

T A ... 当該アイコン

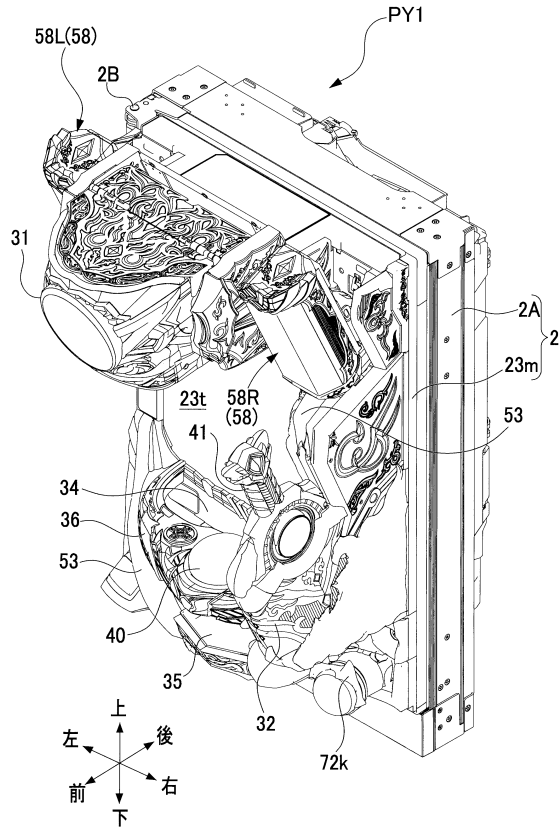
10

20

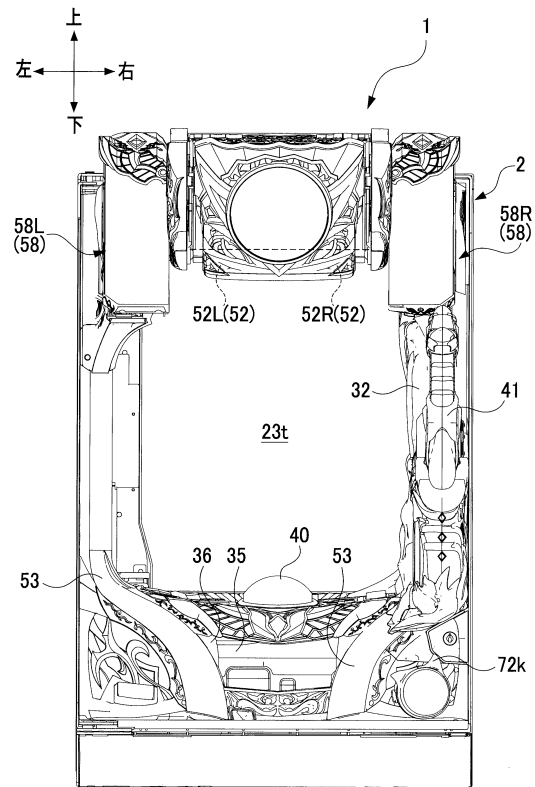
30

40

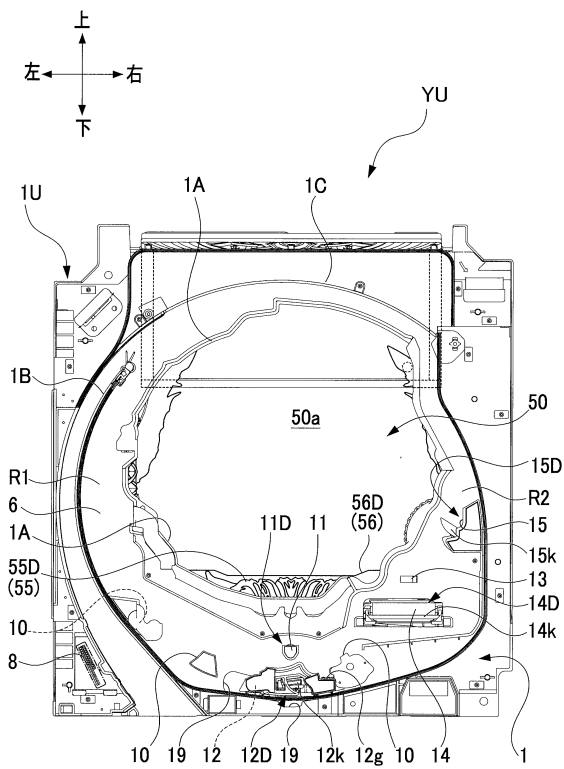
【図 1】



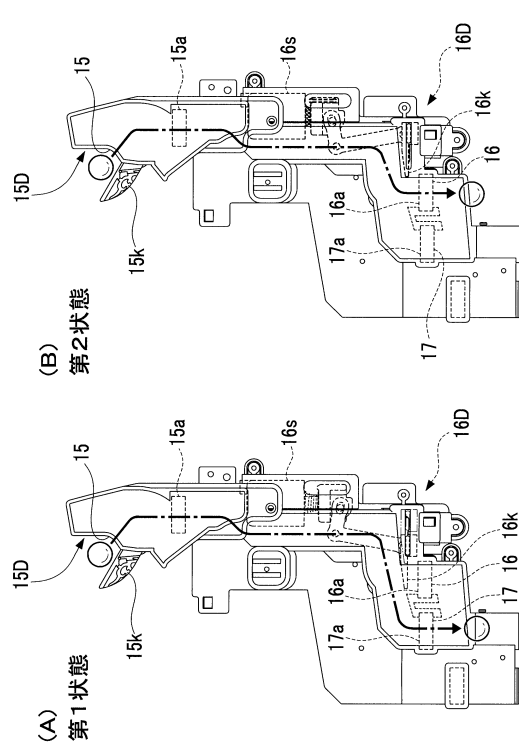
【図 2】



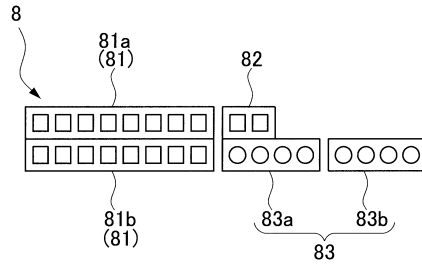
【図 3】



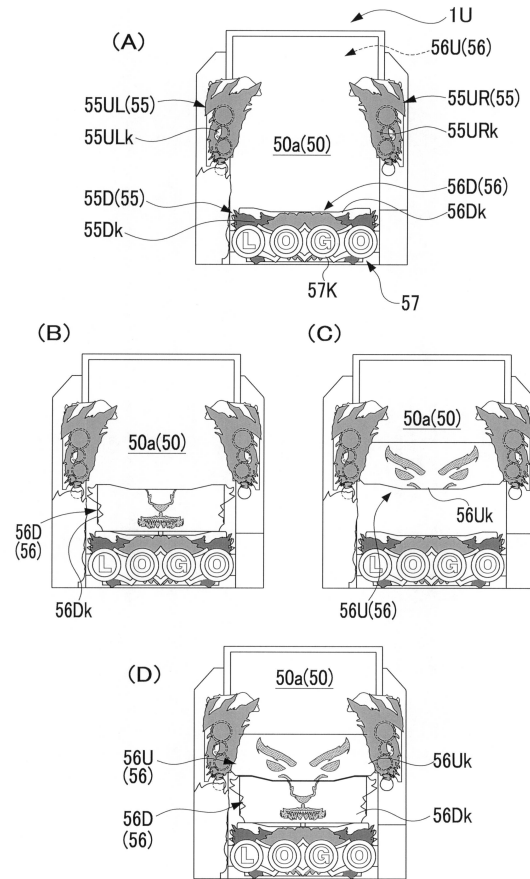
【図 4】



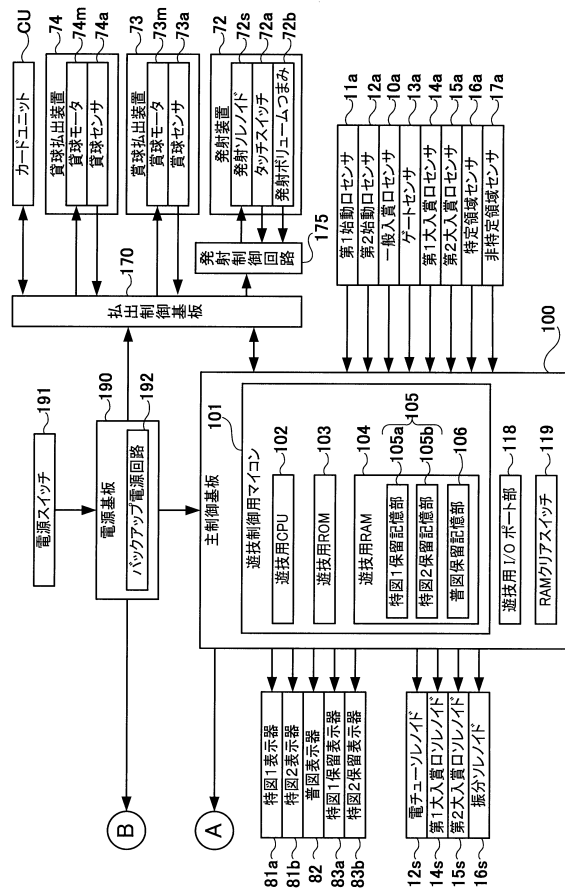
【図 5】



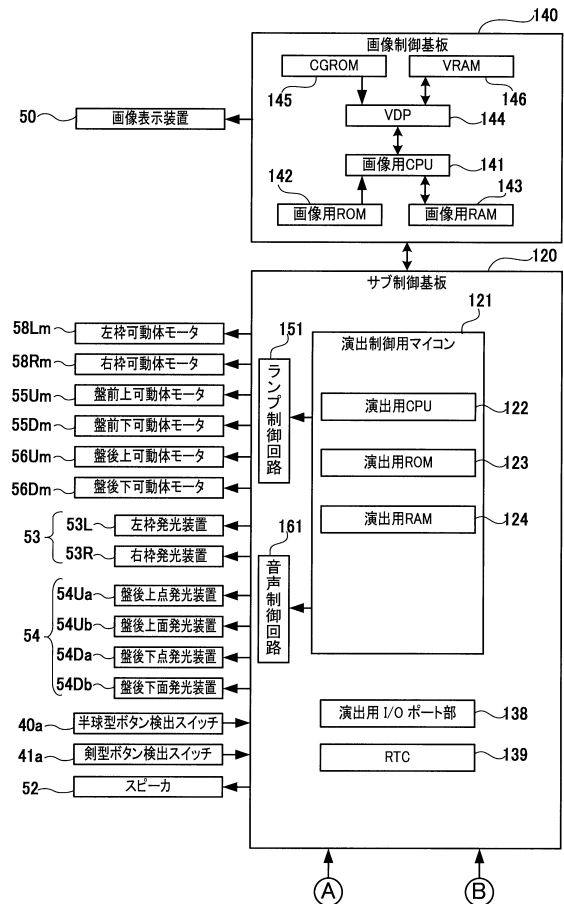
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

(A)普図関係乱数

乱数名	数値範囲	用途
普通図柄乱数	0～65535	当たり判定用

(B)特図関係乱数

乱数名	数値範囲	用途
特別図柄乱数	0～65535	大当たり判定用
大当たり図柄種別乱数	0～9	大当たり図柄種別判定用
リーチ乱数	0～99	リーチ判定用
特図変動パターン乱数	0～99	特図変動パターン判定用

【図 10】

(A)当たり判定テーブル

遊技状態	普通図柄乱数値	判定結果
非時短状態	1～6600	当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ
時短状態	1～59936	当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ

(B)普図変動パターン判定テーブル

遊技状態	普通図柄	普図変動時間
非時短状態	ハズレ普図	30秒
	当たり図柄	30秒
時短状態	ハズレ普図	5秒
	当たり図柄	5秒

(C)補助遊技制御テーブル

遊技状態	開放回数	開放時間
非時短状態	1	0.08秒
時短状態	1	3.0秒

【図 11】

(A)大当たり判定テーブル

遊技状態	特別図柄乱数値	判定結果
通常確率状態	1000～1219	大当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ
高確率状態	1000～2499	大当たり
	0～65535のうち上記以外の数値	ハズレ

(B)大当たり図柄種別判定テーブル

特別図柄	大当たり図柄種別乱数値	判定結果
特図1	0～4	大当たり図柄A
	5～9	大当たり図柄B
特図2	0～9	大当たり図柄C

(C)リーチ判定テーブル

遊技状態	リーチ乱数値	判定結果
非時短状態	0～29	リーチ有り
	30～99	リーチ無し
時短状態	0～9	リーチ有り
	10～99	リーチ無し

【図 12】

特図1変動パターン判定テーブル

遊技 状態	特図 判定結果	リーチ 判定結果	特図1 保留数 (U1)	特図変動 パターン	特図変動 時間(ms)	*備考		
						特図変動演出の演出フロー	特図変動 パターンの名称	
非時短 状態	大当たり	—	—	P01	100000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	SP大当たり変動	
				P02	80000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ	L大当たり変動	
				P03	30000	通常変動→リーチ→Nリーチ	N大当たり変動	
				P04	95000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	SPハズレ変動	
				P05	95000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ	Lハズレ変動	
				P06	25000	通常変動→リーチ→Nリーチ	Nハズレ変動	
	ハズレ	リーチ有り	0~2	P07	13000	通常変動	通常ハズレ変動	
				P08	8000	通常変動	通常ハズレ変動	
				P09	4000	通常変動	通常ハズレ変動	
		リーチ無し		3~4	P07	13000	通常変動	通常ハズレ変動
					P08	8000	通常変動	通常ハズレ変動
					P09	4000	通常変動	通常ハズレ変動
時短 状態	大当たり	—	—		P11	80000	通常変動→リーチ→SPリーチ	SP大当たり変動
					P12	10000	通常変動→リーチ	即大当たり変動
					P13	75000	通常変動→リーチ→SPリーチ	SPハズレ変動
				P14	15000	通常変動→リーチ	即ハズレ変動	
	ハズレ	リーチ有り	0~2	P15	6000	通常変動	短縮ハズレ変動	
				P16	3000	通常変動	短縮ハズレ変動	
		リーチ無し		3~4	P15	6000	通常変動	短縮ハズレ変動
					P16	3000	通常変動	短縮ハズレ変動

【図 13】

特図2変動パターン判定テーブル

遊技状態	特図判定結果	リーチ判定結果	特図2保留数(U2)	特図変動パターン	特図変動時間(ms)	*備考	
						特図変動演出の演出フロー	特図変動パターンの名称
非時短状態	大当たり	—	—	P51	100000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	SP大当たり変動
				P52	60000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ	L大当たり変動
				P53	30000	通常変動→リーチ→Nリーチ	N大当たり変動
				P54	95000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ	SPハズレ変動
				P55	55000	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ	Lハズレ変動
	ハズレ	リーチ有り	—	P56	25000	通常変動→リーチ→Nリーチ	Nハズレ変動
				P57	13000	通常変動	通常ハズレ変動
				P58	8000	通常変動	通常ロハズレ変動
				P59	4000	通常変動	通常ロハズレ変動
				P57	13000	通常変動	通常ロハズレ変動
時短状態	大当たり	—	—	P57	8000	通常変動	通常ロハズレ変動
				P58	4000	通常変動	通常ロハズレ変動
				P61	80000	通常変動→リーチ→SPリーチ	SP大当たり変動
				P62	10000	通常変動→リーチ	即大当たり変動
				P63	75000	通常変動→リーチ→SPリーチ	SPハズレ変動
	ハズレ	リーチ有り	—	P64	15000	通常変動→リーチ	即ハズレ変動
				P65	6000	通常変動	短縮ハズレ変動
				P66	3000	通常変動	短縮ハズレ変動
				P65	6000	通常変動	短縮ハズレ変動
				P66	3000	通常変動	短縮ロハズレ変動

【図 14】

先読み判定テーブル

始動口	遊技状態	大当たり判定結果	変動パターン判定結果	始動入賞コマンド	特図変動演出の演出フロー
第1	非時短状態	大当たり	SP大当たり変動	コマンド01	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ
			L大当たり変動	コマンド02	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ
			N大当たり変動	コマンド03	通常変動→リーチ→Nリーチ
		ハズレ	SPハズレ変動	コマンド04	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ
			Lハズレ変動	コマンド05	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ
	時短状態	大当たり	Nハズレ変動	コマンド06	通常変動→リーチ→Nリーチ
			通常ハズレ変動	コマンド07	通常変動
			SP大当たり変動	コマンド11	通常変動→リーチ→SPリーチ
		ハズレ	即大当たり変動	コマンド12	通常変動→リーチ
			SPハズレ変動	コマンド13	通常変動→リーチ→SPリーチ
第2	非時短状態	大当たり	コマンド14	通常変動→リーチ	通常変動
			短縮ハズレ変動	コマンド15	通常変動
			SP大当たり変動	コマンド51	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ
		ハズレ	L大当たり変動	コマンド52	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ
			N大当たり変動	コマンド53	通常変動→リーチ→Nリーチ
	時短状態	大当たり	SPハズレ変動	コマンド54	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→SPリーチ
			Lハズレ変動	コマンド55	通常変動→リーチ→Nリーチ→発展演出→Lリーチ
			Nハズレ変動	コマンド56	通常変動→リーチ→Nリーチ
		ハズレ	通常ハズレ変動	コマンド57	通常変動
			SP大当たり変動	コマンド61	通常変動→リーチ→SPリーチ
	時短状態	大当たり	即大当たり変動	コマンド62	通常変動→リーチ
			SPハズレ変動	コマンド63	通常変動→リーチ→SPリーチ
			即ハズレ変動	コマンド64	通常変動→リーチ
	時短状態	ハズレ	短縮ハズレ変動	コマンド65	短縮変動

【図 15】

大当たり遊技制御テーブル

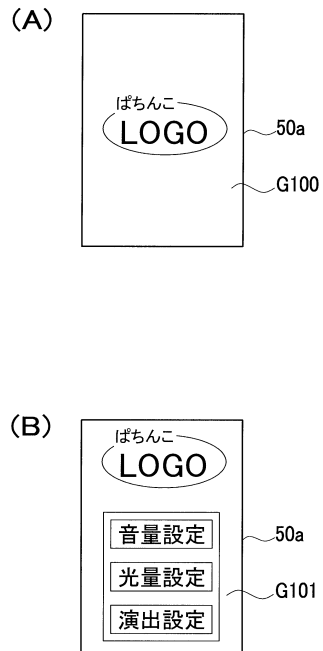
大当たり遊技	ラウンド遊技の回数	ラウンド	大入賞口の閉開パターン				ED時間
			1回のラウンド遊技当たりの開放回数	開放する大入賞口	開放時間	閉鎖時間	
大当たり遊技A (ロング大当たり)	16R (実質9R)	1～8R	1回	第1大入賞口	29.5秒	2.0秒	15.0秒
		9～15R	1回	第1大入賞口	0.1秒	2.0秒	
		16R	1回	第2大入賞口	29.5秒	2.0秒	
		16R	1回	第1大入賞口	29.5秒	2.0秒	
大当たり遊技B (ジョイント大当たり)	16R (実質8R)	1～8R	1回	第1大入賞口	0.1秒	2.0秒	10.0秒
		9～15R	1回	第1大入賞口	0.1秒	2.0秒	
		16R	1回	第2大入賞口	0.1秒	2.0秒	
		16R	1回	第1大入賞口	29.5秒	2.0秒	
大当たり遊技C (ロング大当たり)	16R (実質16R)	1～15R	1回	第1大入賞口	29.5秒	2.0秒	10.0秒
		16R	1回	第2大入賞口	29.5秒	2.0秒	

【図 16】

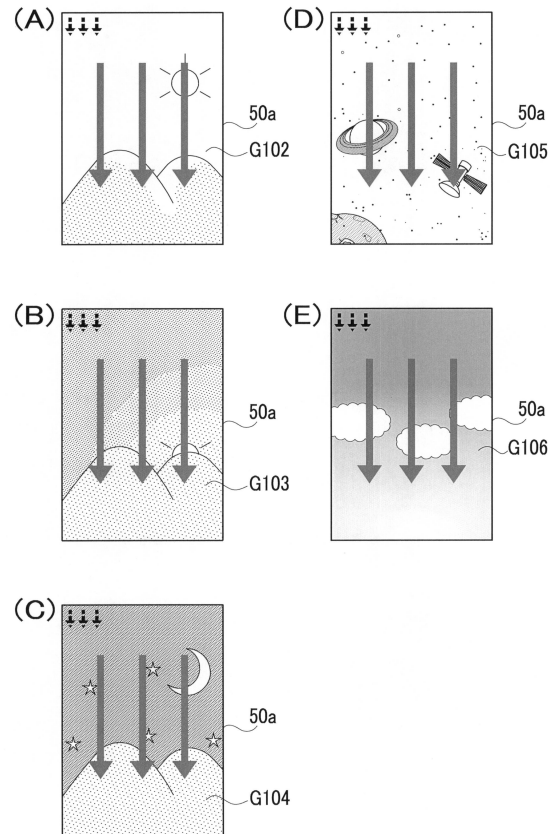
遊技状態

遊技状態	大当たり確率	電チュー作動
低確率低ベース遊技状態	通常確率状態	非時短状態
低確率高ベース遊技状態	通常確率状態	時短状態
高確率低ベース遊技状態	高確率状態	非時短状態
高確率高ベース遊技状態	高確率状態	時短状態
大当たり遊技状態	—	非時短状態

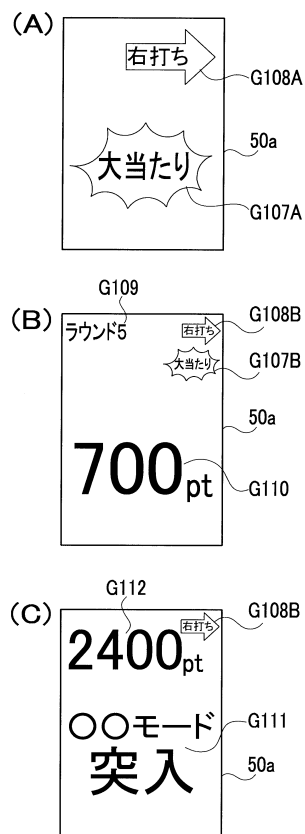
【図 17】



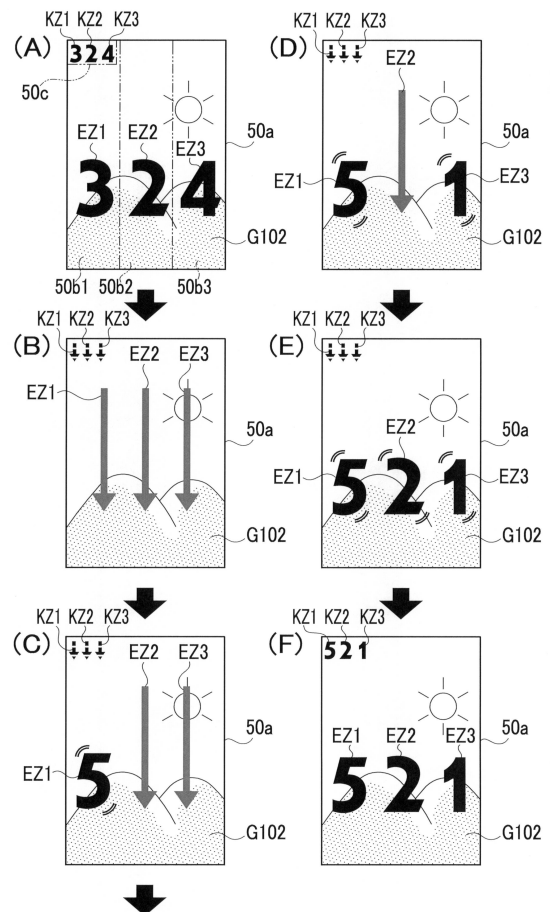
【図 18】



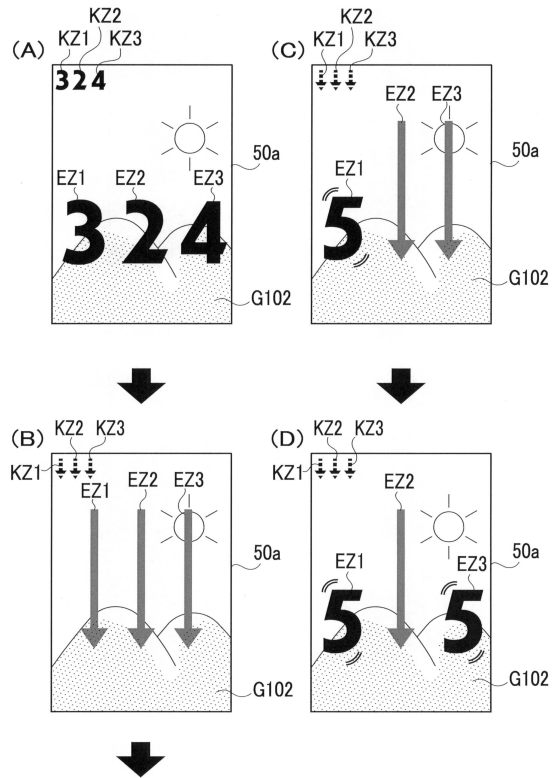
【図 19】



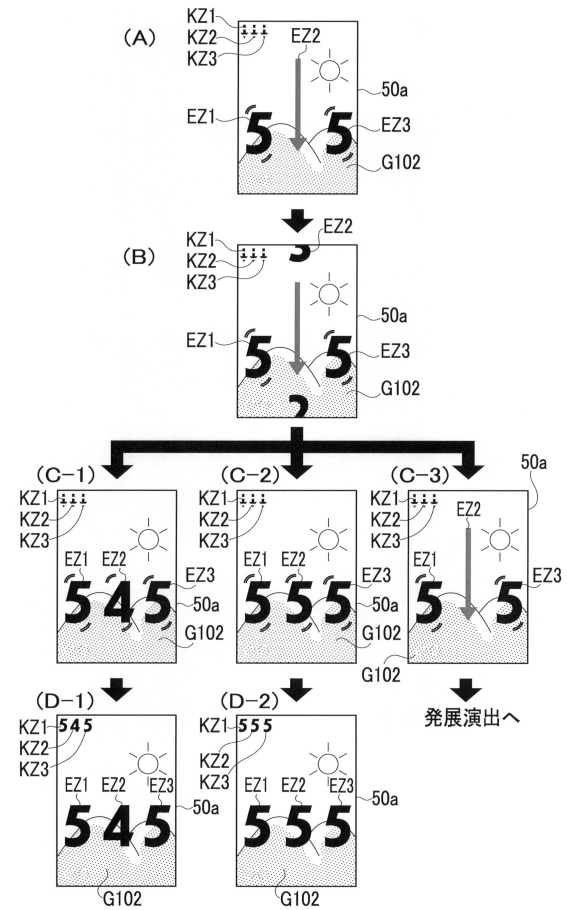
【図 20】



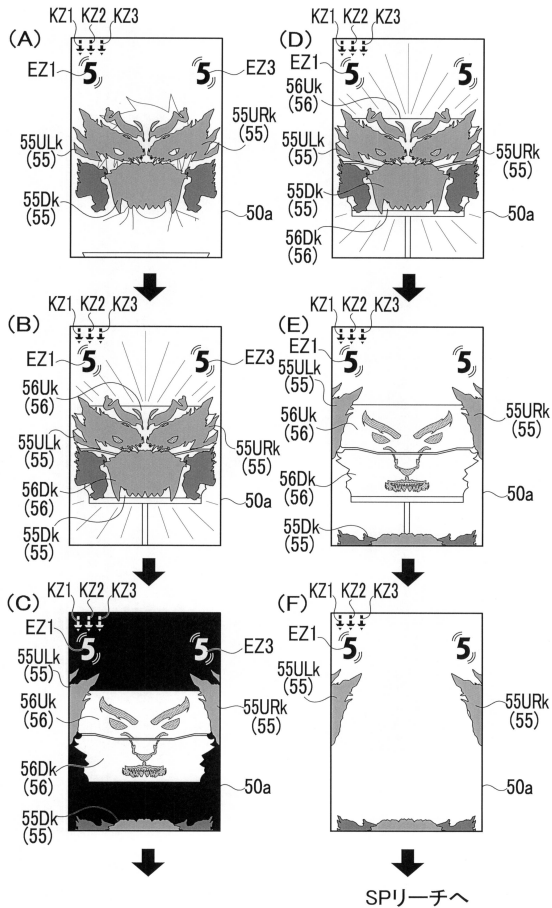
【図 2 1】



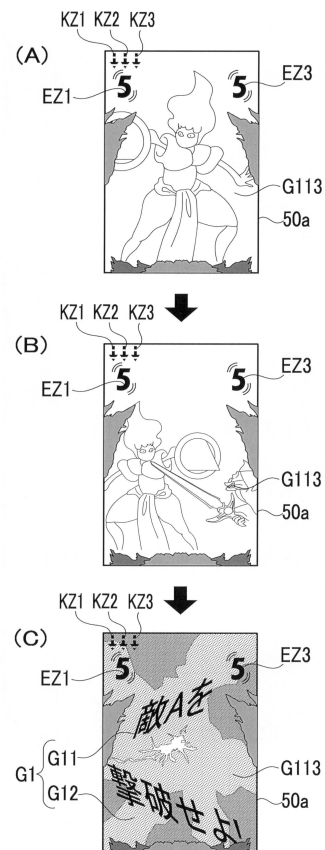
【図 2 2】



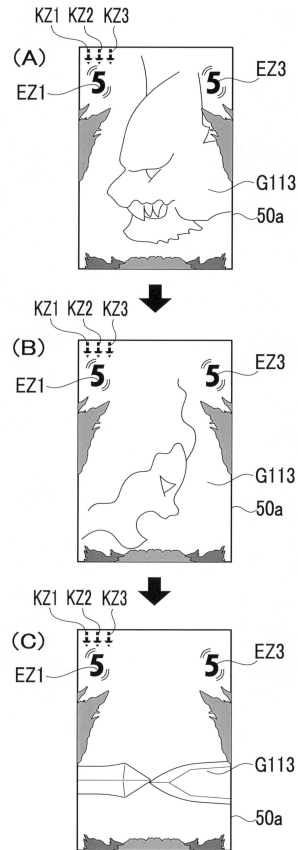
【図 2 3】



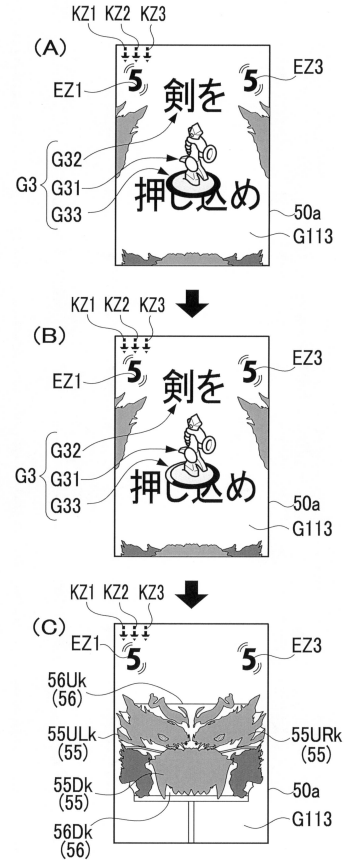
【図 2 4】



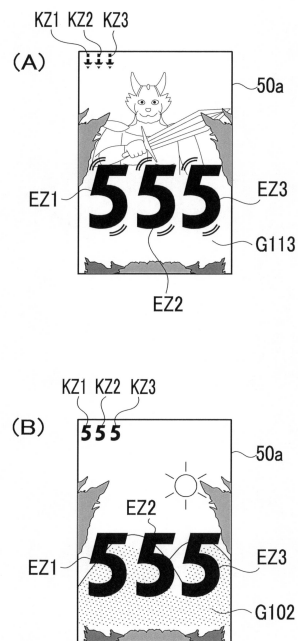
【図 25】



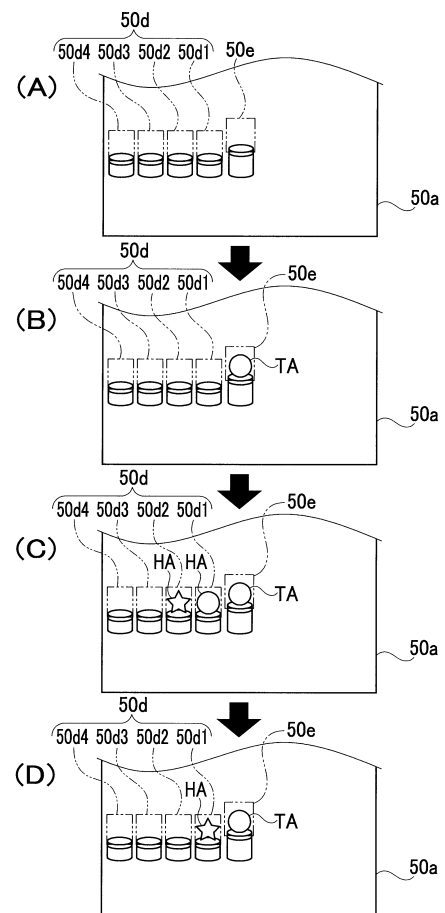
【図 26】



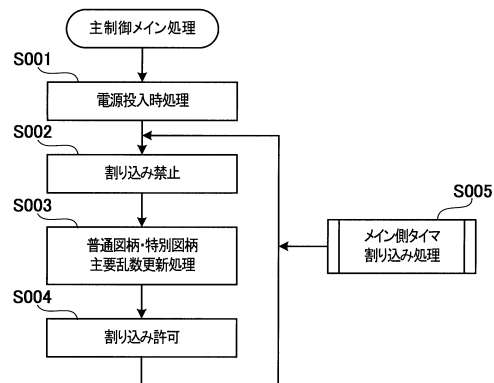
【図 27】



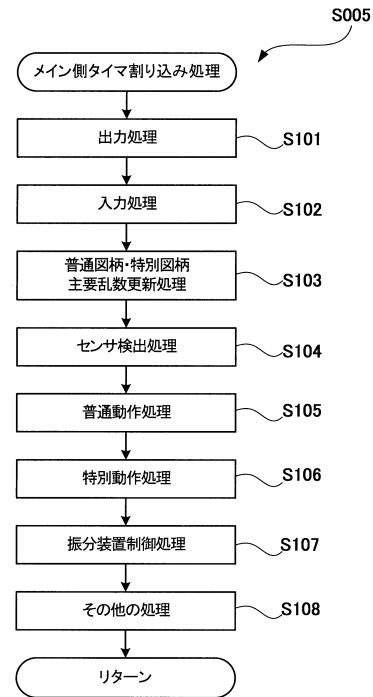
【図 28】



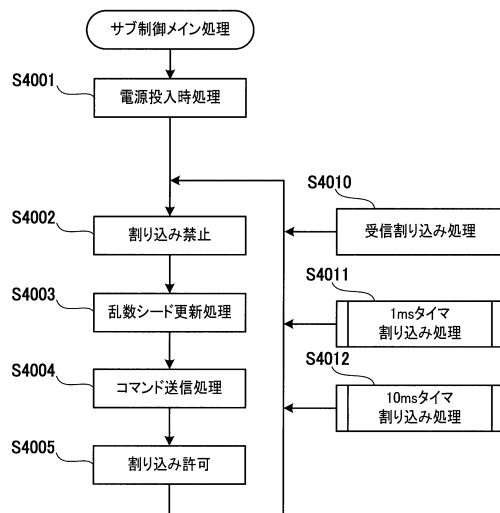
【図 29】



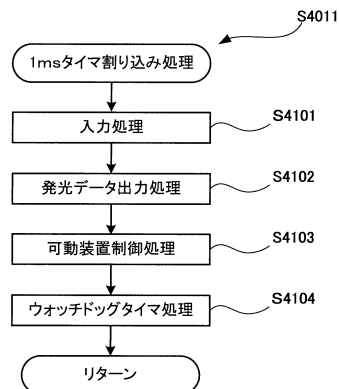
【図 30】



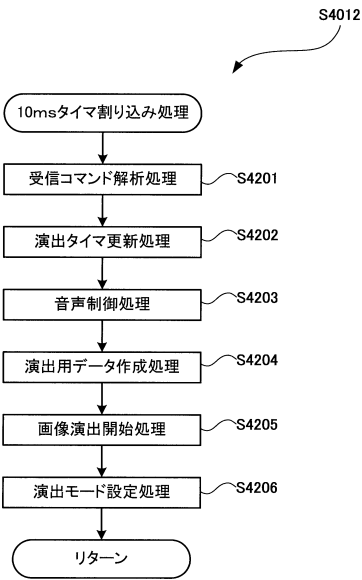
【図 31】



【図 32】



【図 3 3】

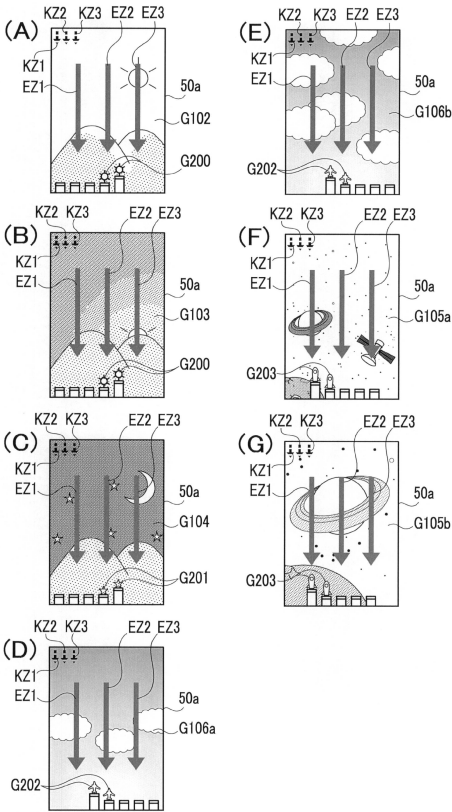


【図 3 4】

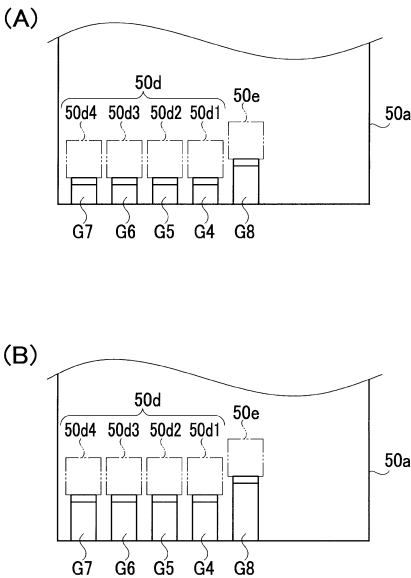
先読み判定テーブル

特図判定結果	変動パターン判定結果	始動入賞コマンド	特図変動演出の演出フロー
大当たり	SP大当たり変動	第2始動入賞コマンド061	通常変動→リーチ→SPリーチ
	L大当たり変動	第2始動入賞コマンド062	通常変動→リーチ→Lリーチ
	N大当たり変動	第2始動入賞コマンド063	通常変動→リーチ→Nリーチ
ハズレ	SPハズレ変動	第2始動入賞コマンド064	通常変動→リーチ→SPリーチ
	Lハズレ変動	第2始動入賞コマンド065	通常変動→リーチ→Lリーチ
	Nハズレ変動	第2始動入賞コマンド066	通常変動→リーチ→Nリーチ
	通常ハズレ変動	第2始動入賞コマンド067	通常変動

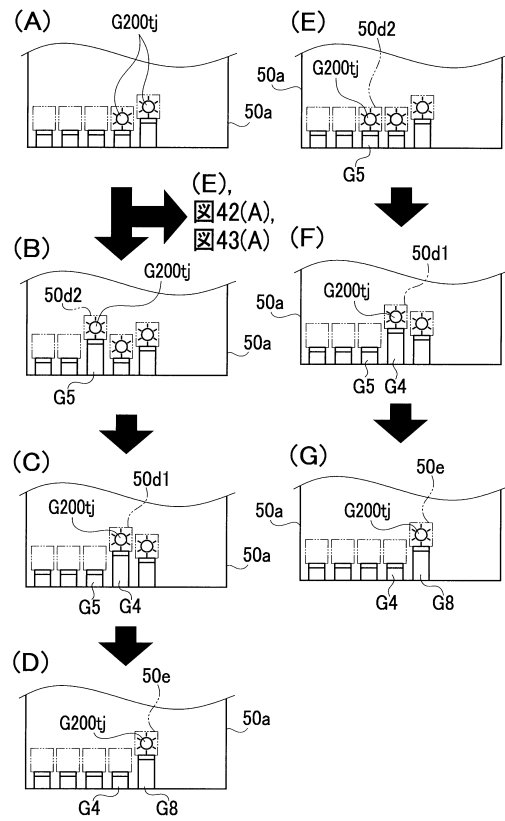
【図 3 5】



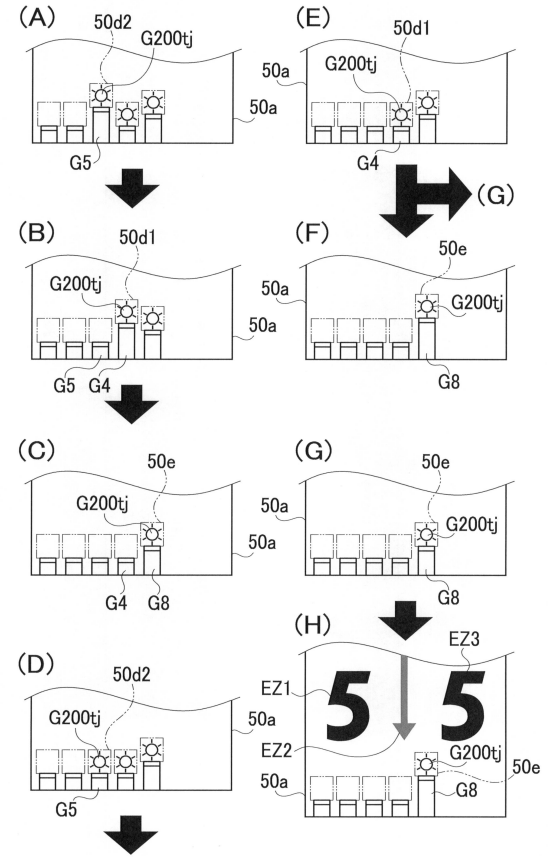
【図 3 6】



【図 4 1】



【図 4 2】



フロントページの続き

- (72)発明者 中山 覚
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 牧 智宣
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 柏木 浩志
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内
- (72)発明者 梶野 浩司
愛知県名古屋市中区丸の内二丁目 1 1 番 1 3 号 株式会社サンセイアールアンドディ内

審査官 井上 昌宏

- (56)参考文献 特開 2 0 1 7 - 8 6 7 6 4 (J P , A)
特開 2 0 1 4 - 1 6 8 5 5 6 (J P , A)
特開 2 0 1 7 - 1 6 4 3 2 1 (J P , A)
特開 2 0 1 6 - 2 6 7 4 2 (J P , A)

- (58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
A 6 3 F 7 / 0 2